

開講科目名／Course	助産学概論／Introduction to midwifery
時間割コード／Course Code	J00001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口幸
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>助産の基本概念および女性をとりまく社会的背景を認識し、助産師が専門職として社会に対して果たしていくべき役割と重要性について理解する。また、助産学を構成する理論、日本および諸外国における助産の歴史、助産師教育、助産師活動を実践する上での法規や母子保健における諸問題、および女性の一生における性と生殖をめぐる健康について理解を深め、助産師として積極的に取り組む姿勢を養う。さらに、生命倫理や職業倫理に関する造詣を深め、職業人としての倫理観を醸成する。</p>
授業計画	<p>01.助産師の定義・助産とは何か 02.助産の概念(自己が考える助産とは何か) 03.助産学を構成する理論と助産学研究の意義 04.助産学研究の方法と助産学研究における倫理 05.出産の変遷、お産と文化、助産の歴史 06.日本と諸外国の助産師教育 07.I C M（国際助産師連盟）の活動と諸外国の助産師活動 08.助産師の職制と業務 09.助産実践の倫理 10.女性を取りまく社会の変化と親子関係をめぐる問題 11.母子保健の動向と課題（成育基本法含む） 12.プレコンセプションケアの概念 13.日本の助産師の現状と課題（院内助産、産後ケア事業等） 14.出産の満足度について（論文クリティーク） 15.『WHO勧告にみる望ましい周産期ケアとその根拠』、『WHOの59ヵ条お産のケア実践ガイド』にみるいいお産とは？助産師の役割とは？ 16.評価</p>

その他の授業の工夫	<p>02.出産、助産師に関する書籍3冊を各自で熟読し、レポートしたものを発表する。ディスカッションを通して、自然分娩や助産師に求められる役割を概観する。</p> <p>05.事前課題として、出産、助産の歴史、お産の文化について、時代ごとに各グループで調べ、プレゼンテーションをする。ディスカッションのあと、現代女性の課題と女性に求められるもの、助産師としての支援について講義する。</p> <p>10.女性を取り巻く社会や親子関係について、事前に資料やWebデータに基づき各グループで調べ、検討課題に沿ってまとめプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。</p> <p>14.出産の満足度について記述された原著論文を読み、各自でクリティークしたものを発表し、ディスカッションを行う。</p> <p>15.事前に資料を読み、「いいお産とは」「助産師の役割とは」を考え、どのような助産師をめざすか、ディスカッションを行う。</p>
時間外学修	<p>事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する。事前課題について下調べ、グループ学習、クリティークなどのレポート作成を行う。</p> <p>事後学修：配布資料等を用いて復習する。（合計45h）。</p>
評価方法と評価割合	<p>筆記試験：60%</p> <p>課題提出とプレゼンテーション：40%</p>
テキスト	<p>助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論（医学書院）</p> <p>必要な資料は、その都度配布する。</p>
参考書	<p>WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア（医学書院）</p> <p>科学的根拠に基づく 快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン2013年版（金原出版株式会社）</p>
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<p>1. 助産の基本概念および助産の歴史や母子保健における諸問題などから女性をとりまく社会的背景を説明できる。</p> <p>2. 助産学を構成する理論や助産学研究の意義、助産師活動を実践する上での法規や職業倫理を説明できる。</p> <p>3. 女性の一生における性と生殖をめぐる健康と助産師の役割を述べることができる。</p> <p>4. 産む人にとっての「いいお産とは」「助産師の役割とは」について自身の考えを述べ、助産師が専門職として社会に対して果たしていくべき役割と責務を説明できる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基づいた助産を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	

DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意意思決定能力

開講科目名／Course	周産期特論／Perinatal period special lecture
時間割コード／Course Code	J00002
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸、佐藤 昌司、飯田 浩一、豊福 一輝、後藤 清美、小山尚子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	マタニティサイクルにある女性と胎児及び新生児に関する助産診断を的確に判断し、種々の健康問題に対応できる能力を習得するために、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理をはじめ、その管理の基礎知識を習得する。また、周産期における主な異常を判断するために、主な疾患の病態・検査・治療について理解し、産科救急救命や新生児の蘇生など高度な医療処置において迅速で的確な対応を行うための知識及び技術を習得する。
授業計画	<p>【オムニバス形式】</p> <p>01.妊婦の医学的管理（妊娠の生理,妊娠の診断,妊娠初期の異常）</p> <p>02.合併症妊娠（婦人科疾患,心血管疾患,代謝・内分泌疾患,精神神経疾患,感染症ほか）</p> <p>03.妊娠の管理（1）（妊婦健康診査時の検査,骨盤計測）</p> <p>04.妊娠の管理（2）（超音波検査,胎児心拍数計測）</p> <p>05.ハイリスク妊娠と管理（1）（早産,多胎妊娠,前置胎盤,血液型不適合妊娠）</p> <p>06.ハイリスク妊娠と管理（2）（PIH,HELLP症候群,胎児発育不全）</p> <p>07.分娩の3要素（分娩の3要素,陣痛発生機序,分娩機転,分娩の経過）</p> <p>08.分娩の異常と産科処置（1）（前期破水,陣痛の異常,産道の異常,児頭骨盤不均衡,回旋進入の異常,胎位の異常,遷延分娩）</p> <p>09.分娩の異常と産科処置（2）（胎児機能不全,胎盤・臍帯の異常,分娩時裂傷,弛緩出血,子宮内反症,羊水塞栓症、出血と産科ショック）</p> <p>10.分娩の管理（陣痛誘発・促進,会陰切開・縫合術,鉗子分娩・吸引分娩,帝王切開術,胎盤用手剥離術,双合子宮圧迫法）</p> <p>11.産褥の管理と産褥期の異常（産褥の診察と検査,分娩後出血,癒着胎盤,静脈血栓症・肺塞栓症,産褥感染症）</p> <p>12.新生児医療,新生児の適応生理と症候（呼吸・循環・体温の適応）</p> <p>13.新生児の異常（呼吸窮迫,チアノーゼ,低体温,嘔吐,消化管出血,黄疸,けいれん など）</p> <p>14.新生児の管理（新生児仮死,新生児蘇生ガイドライン,出生後の検査）</p> <p>15.ハイリスク新生児の管理（低出生体重児の特徴,合併症,主要疾患）</p> <p>16.評価</p>
その他の授業の工夫	エコー画像、CTG所見、パワーポイントなど視聴覚教材と資料を用いた授業
時間外学修	<p>事前学修：次回の学習内容について配布資料やテキストを用いて予習する。</p> <p>事後学修：配布資料や講義時のノート等を用いて復習する。（合計45h）</p>
評価方法と評価割合	筆記試験：100%
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・標準産科婦人科学第6版（医学書院） ・新生児学入門 第6版（医学書院） ・NCPR新生児蘇生法テキスト第4版（MEDICAL VIEW）

参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の生理とその管理方法について説明できる。 2. 周産期における主な異常疾患の病態・検査・治療について説明できる。 3. 産科救急救命や高度な医療処置について述べることができる。 4. 新生児蘇生法など高度な医療処置を行うための基本知識を述べることができる。
実務家教員の有無 ／ Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／ Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師 佐藤昌司：元大分県立病院院長、産婦人科医師 飯田 浩一：大分県立病院新生児科医師 豊福 一輝：大分県立病院産婦人科医師 後藤清美：大分県立病院産婦人科医師 小山尚子：大分県立病院産婦人科医師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／ Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／ Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／ Educational content utilizing practical experience	産科診療ガイドラインに基づいた産科医療、最新の新生児科医療の理論、エビデンスを教授する。
DPとの対応（研究者） ／ Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／ Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／ DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／ Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／ Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	母子成育支援特論／Special lecture of mother and child growth
時間割コード／Course Code	J00003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース／course	助産学コース
必修・選択／	必修
授業回数	16
開講時期／Semester term	前期前半、前期後半
学年／Grade	1年
担当教員／	樋口 幸、草野 淳子、吉村 匠平、桑野 紀子、佐藤 敬子、平野 互、上野 桂子、井上 祥明、宇留嶋 美弥
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	母子関係をめぐる問題を中心に、家族の機能とその支援法を習得する。発達心理学からみた女性のライフサイクルのうち、若年妊娠・出産に伴う心理的問題や不妊症、出生前診断、流産・死産、産後うつ病、愛着喪失の病理や援助を理解する。また、低出生体重児や多胎、障がい児の子育て、子どもの喪失などの妊娠・出産をめぐる問題への理解を深める。さらに、現代の家族支援の在り方について、日本および世界の子育て支援制度や取り組みを理解する。
授業計画	<p>【オムニバス形式】</p> <p>01.母子との関係を築く効果的なコミュニケーション（1）</p> <p>02.母子との関係を築く効果的なコミュニケーション（2）</p> <p>03.社会的支援が必要な母子への援助（1）</p> <p>04.社会的支援が必要な母子への援助（2）</p> <p>05.生殖医療と社会、法律</p> <p>06.生殖医療と生命倫理</p> <p>07.発達心理学からみた親子関係、夫婦関係の構築と発達</p> <p>08.母子関係と子どもの発達</p> <p>09.不妊治療を受ける対象の理解</p> <p>10.不妊治療を受ける対象へのカウンセリング</p> <p>11.日本と世界の子育て（現代の家族支援へのみちのり）</p> <p>12.日本と世界の子育て（現代日本の子育て支援とさまざまな子育て支援）</p> <p>13.助産師による地域における切れ目のない母子への支援</p> <p>14.子育て支援（障害を持つ子どもの学習に対する保護者への子育て支援）</p> <p>15.子育て支援（母子愛着形成の障害、児の虐待防止への支援）</p> <p>16.子育て体験（シミュレーション体験）</p>
その他の授業の工夫	授業内容によって、少人数によるディスカッションを用いた授業展開がある。 育児体験モデルを用いた育児体験を自宅で24時間行う。
時間外学修	<p>事前学修：事前課題に対するレポート作成</p> <p>事後学修：課題に対する課題レポート作成、シミュレータによる体験と事後レポート作成、配布資料を用いて復習する。合計45時間。</p>
評価方法と評価割合	<p>プレゼンテーションおよび提出レポート（100％）：</p> <p>樋口（40％）、草野（15％）、吉村（15％）、桑野（15％）、平野（15％）</p>
テキスト	<p>助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学第6版（医学書院）</p> <p>助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学第5版（医学書院）</p>
参考書	
履修する上で必要な要件	

その他	
到達目標	<p>1. 母子やその家族との関係構築のためのコミュニケーション技法について説明できる。</p> <p>3. 母子関係をめぐる問題について、家族の機能や社会的機能とその支援法を述べることができる。</p> <p>2. 不妊症や出生前診断、生殖補助医療をめぐる問題と生命倫理、心理的支援について説明できる。</p> <p>3. 日本および世界の子育て支援制度や取り組みと障がいをもつ児の子育て支援について説明できる。</p>
実務家教員の有無 ／ Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／ Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師 草野淳子：病院の看護師 桑野紀子：病院の看護師 上野桂子：不妊専門病院の臨床心理士 井上祥明：病院に勤務する社会福祉士・精神保健福祉士 宇留嶋 美弥：助産所所長（助産師）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／ Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／ Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／ Educational content utilizing practical experience	各講師の専門領域でのエビデンスに基づく理論や実践経験をふまえた内容を教授する。
DPとの対応（研究者） ／ Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／ Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／ DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／ Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／ Correspondence with DP (Midwifery)	<p>1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力</p>

開講科目名／Course	リプロダクティブ・ヘルス特論／Reproductive health special lecture
時間割コード／Course Code	J00004
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース／course	助産学コース
必修・選択／	必修
授業回数	16
開講時期／Semester term	前期前半、前期後半
学年／Grade	1年
担当教員／	樋口 幸、竹内 正久、平川 八大、穴井 麻友美、宇津宮 隆史、花田 克浩
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	性と生殖に関連する健康問題を的確に判断し対応できる能力を習得するために、性分化の機序をはじめ、生殖器に関する形態機能や主な疾患及びその治療に対する基礎知識を習得する。また、最新の生殖補助医療の現状と課題を理解し、リプロダクティブ・ヘルス及び社会のニーズに対する知識を習得する
授業計画	01.性分化と女性性器の発生、女性生殖器の構造、女性性器と女性性器の位置異常、 02.産婦人科診療、婦人科検査 03.女性の性機能 04.月経異常、ホルモン療法、加齢と疾患（加齢による性機能と性器の形態の変化、更年期障害、中高年女性の健康管理） 05.遺伝の基礎知識、遺伝性疾患 06.出生前診断（羊水検査、絨毛検査ほか）と遺伝カウンセリング 07.女性生殖器の疾患（1）（外陰、膣、子宮、卵管、卵巣、乳房・乳腺）頸癌、体癌除く 08.女性生殖器の疾患（2）（子宮内膜症・子宮腺筋症、絨毛性疾患） 09.女性生殖器の悪性腫瘍と治療（子宮頸部、子宮体部、卵巣） 10.女性生殖器の治療（婦人科手術、化学療法） 11.性感染症と治療（性感染症の最近の動向も含む） 12.不妊症（1）（不妊症とは、不妊症の検査、不妊症の診断） 13.不妊症（2）（不妊症の治療、不妊症治療のリスク） 14.避妊法（経口避妊薬、緊急避妊法）、子宮内容除去術（人工妊娠中絶）骨盤位分娩 15.子宮頸癌の動向と将来像（HPVワクチン） 16.評価
その他の授業の工夫	パワーポイントなどの視聴覚教材と資料を用いて行う。
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料やテキストを用いて予習する。 事後学修：配布資料やテキストを用いて復習する。（合計45h）
評価方法と評価割合	筆記試験：100%
テキスト	・標準産科婦人科学第6版（医学書院）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 性と生殖に関連する健康問題を判断するために、性分化の機序、生殖器に関する形態機能や生殖器の疾患及びその治療に対する基礎知識を説明できる。 2. 最新の生殖補助医療の現状と課題を述べることができる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師 平川八大：大分県立病院産婦人科医師 竹下正久：大分県立病院産婦人科医師 穴井麻友美：大分県立病院産婦人科医師 宇津宮隆史：セント・ルカ産婦人科の院長 花田克浩：大分大学医学部臨床医工学センター（医薬品食品の遺伝子研究）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	最新のエビデンスに基いた検査、治療などの理論を授業内容として学生に教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	ウイメンズヘルス特論／Women's health special lecture
時間割コード／Course Code	J00005
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸、杉本 圭以子、吉田 成一、小嶋 光明、桑野 紀子、濱 耕子、中島 洋子、梅野 貴恵
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	女性の生涯を通じた健康づくりを視野に、リプロダクティブ・ヘルスを推進するために国内外の若年から中高年までの女性の性と生殖に係わる健康問題を検討し、健康教育を実践するための知識・技術を習得する。さらに、女性のライフサイクルにおけるさまざまな健康問題をアセスメントし解決するための理論を理解する。
授業計画	<p>【オムニバス形式】</p> <p>01.リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよびウイメンズヘルスの概念と歴史</p> <p>02.世界のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状と課題</p> <p>03.女性の健康と国際化</p> <p>04.女性の健康と環境（1）</p> <p>05.女性の健康と環境（2）</p> <p>06.女性の生涯におけるメンタルヘルス（1）</p> <p>07.女性の生涯におけるメンタルヘルス（2）</p> <p>08.母子の健康とアレルギー、免疫（1）</p> <p>09.母子の健康とアレルギー、免疫（2）</p> <p>10.不妊相談者の現状と課題、及び取り巻く環境</p> <p>11.不妊相談者の現状に対する相談支援の実際</p> <p>12.思春期のリプロダクティブ・ヘルス</p> <p>13.中高年のリプロダクティブ・ヘルス</p> <p>14. ジェンダーと性の課題（SOGI、性暴力）</p> <p>15.16.性の健康相談（プレコンセプションケアの実際）</p>
その他の授業の工夫	<p>少人数でのディスカッション。</p> <p>11.相談事例への支援についてグループで検討する。</p> <p>15.16.相談事例を用いて、ロールプレイを行う。</p>
時間外学修	<p>事前学修：事前課題の予習</p> <p>事後学修：事後課題のレポート作成、配布資料を用いて復習する。（合計45h）</p>
評価方法と評価割合	<p>受講態度（発表含む）とレポート課題（100％）：</p> <p>樋口（40％）、杉本（15％）、吉田（15％）、小嶋（15％）、桑野（15％）</p>
テキスト	<p>講師の指示による。以下は、参考書籍。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座2基礎助産学 [2] 母子の基礎科学（医学書院） ・助産学講座3基礎助産学 [3] 母子の健康科学（医学書院） ・助産学講座4基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学（医学書院） ・助産学講座5助産診断・技術学Ⅰ（医学書院） ・ウーマンズヘルス（医歯薬出版）

参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 国内外の若年から中高年までの女性のリプロダクティブ・ヘルスに係わる健康問題を説明できる。 2. 女性のライフサイクルにおけるさまざまな健康問題をアセスメントし解決するための基礎知識を述べることができる。 3. 健康教育を実践するための知識や技術を用いて実施できる。
実務家教員の有無 ／ Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／ Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師 杉本圭以子：病院の看護師 桑野紀子：病院の看護師 濱耕子：病院の助産師 中島洋子：病院の助産師・看護師、大分Hopeful相談員 梅野貴恵：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／ Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／ Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／ Educational content utilizing practical experience	専門分野のエビデンスに基づいた看護・助産を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／ Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／ Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／ DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／ Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／ Correspondence with DP (Midwifery)	1. 妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2. 女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3. 他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4. 助産システムの活用・調整および助産管理能力、5. 助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6. 倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	妊娠期診断技術特論／Special lecture of gestational diagnosis and skill
時間割コード／Course Code	J00006
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	姫野 綾
コース／course	助産学コース
必修・選択／	必修
授業回数	16
開講時期／Semester term	前期前半
学年／Grade	1年
担当教員／	姫野 綾、吉田 成一、安部 眞佐子、小嶋 光明、渡邊 しおり
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	一部オンライン
科目の目的と概要	妊娠期の経過及び生活状態に関する必要な情報を収集するためのフィジカルアセスメントや助産診断を行うための基礎的な知識及び助産技術を習得する。母子及びその家族が妊娠期間を安全に経過し、家族の再構築が円滑に行われるための基本的なケア実践能力を習得する。さらに、ハイリスク妊娠や正常からの逸脱を迅速かつ的確に判断し他の医療専門職種と連携して対象のニーズに対応するための知識及び技術を習得する。
授業計画	01. 妊娠の生理と診断に必要な情報とアセスメント 02. 妊娠期のフィジカルアセスメント(1) 妊婦健康診査① 03. 妊娠期のフィジカルアセスメント(2) 妊婦健康診査② 04. 妊娠期からの助産師の支援（助産師外来の実際含む） 05. 妊産褥婦の栄養摂取と栄養指導（1） 06. 妊産褥婦の栄養摂取と栄養指導（2） 07. 妊産褥婦と薬剤（1） 08. 妊産褥婦と薬剤（2） 09. 事例を用いた妊産褥婦と薬剤 10. 母子に対する放射線の影響 11. 妊婦の日常生活適応への支援と保健指導（1）日常生活適応へのケア 12. 妊婦の日常生活適応への支援と保健指導（2）親になる準備へのケア 13. ハイリスク妊婦の支援（1）切迫早産、多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離ほか 14. ハイリスク妊婦の支援（2）糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群ほか 15. 事例を用いた妊婦の生活支援シミュレーション 16. 評価
その他の授業の工夫	多分野に渡る講師による、専門的な視点での講義。
時間外学修	時間外学習として事前・事後学習のレポート課題を提示する（12h）。
評価方法と評価割合	レポート、講義への参加度（質疑応答）、事例を用いたシミュレーションへの学習状況と取組姿勢：50% 筆記試験：50%
テキスト	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版（医学書院） 助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第6版（医学書院） 今日の助産 改訂第4版 北川真理子、内山和美編 生田克夫医学監修（南江堂）
参考書	病気がみえる vol.10 産科 第4版 医療情報科学研究所
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	1.妊婦のフィジカルアセスメントを行うために必要な観察項目と観察内容を述べることができる。 2.妊婦のフィジカルアセスメントを行うための基礎的な助産技術を、モデルに対して実施することができる。 3.妊娠経過をアセスメントすることができる。 4.妊娠期のマイナートラブルの原因と対処方法を説明することができる。 5.ハイリスク妊娠や正常からの逸脱を判断するための観察内容を述べることができる。 6.ハイリスク妊婦への支援やケア内容を述べることができる。 7.妊産褥婦の栄養について述べることができる。 8.妊産褥婦への薬剤の影響を述べることができる。 9.母子に対する放射線の影響を述べることができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	姫野 綾：病院の助産師 渡邊 しおり：病院の助産師 師長
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基づいた看護経験とその理論を基に、確かな知識・技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	分娩期診断技術特論／Special lecture of delivery period diagnosis
時間割コード／Course Code	J00007
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸、姫野 綾、生野 未子、豆田 ちかの
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	<p>分娩期の経過及び生活状態に関する必要な情報を収集するためのフィジカルアセスメントや助産診断を行うための基礎的な知識及び助産技術を習得する。また、母児の生命の安全維持かつ、母親が主体的に分娩に臨み、満足感を得ることができるよう支援するための基本的な助産の実践能力を習得する。さらに、正常からの逸脱を迅速かつ的確に判断し、他の周産期医療専門職種と連携して緊急性の高いニーズにも対応し得る基本的な知識及び技術を習得する。</p>
授業計画	<p><オムニバス形式></p> <p>01 分娩開始の診断</p> <p>02 分娩開始の診断（事例を用いたシミュレーション）</p> <p>03 分娩経過の診断（分娩進行の診断、産婦の診察、内診法の実際）</p> <p>04 分娩経過の診断（事例を用いたシミュレーション）</p> <p>05 産婦の健康生活状態の診断</p> <p>06 胎児の発育と健康状態の診断及び胎児付属物のアセスメント</p> <p>07 分娩助産時の技術（分娩助産法）</p> <p>08 分娩助産時の技術（分娩助産法）（正常分娩事例を用いたシミュレーション）</p> <p>09 産婦の支援（分娩第1期・第2期の基本的なケアと胎児の観察）</p> <p>10 産婦の支援（分娩第3期の基本的なケアと胎児の観察、分娩後2時間の母子ケア）</p> <p>11 ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと対応</p> <p>12 ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと対応（事例を用いたシミュレーション①）</p> <p>13 ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと対応（事例を用いたシミュレーション②）</p> <p>14 正常分娩における助産の実際（妊娠管理と分娩、分娩助産技術）</p> <p>15 グリーフケアの実際</p> <p>16 評価</p>
その他の授業の工夫	講義と並行して行うシミュレーションでは、視聴覚教材を用い、基本知識の整理から情報の統合、臨床推論に至る段階的思考を定着と思考して判断できるように工夫している。
時間外学修	基礎知識の復習とシミュレーションの準備が必要
評価方法と評価割合	筆記試験（80%）、出席状況およびレポート（10%）、事例を用いたシミュレーションへの学習状況と取組姿勢（10%）で評価する。
テキスト	<p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期 第5版（医学書院）</p> <p>標準産婦人科学（医学書院）</p> <p>今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践演習（南江堂）</p>
参考書	

履修する上で必要な要件	
その他	なし
到達目標	<p>1.分娩期の経過及び生活状態に関する必要な情報を収集するためのフィジカルアセスメントや助産診断を行える。</p> <p>2.母児の生命の安全維持かつ、母親が主体的に分娩に臨み、満足感を得ることができるよう支援するための基本的な助産の実践能力を説明できる。</p> <p>3.周産期医療専門職種と連携して緊急性の高いニーズにも対応し得る基本的な知識及び技術を説明できる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<p>樋口 幸：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員）</p> <p>姫野 綾：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員）</p> <p>生野 末子：生野助産院（実務家）院長</p> <p>豆田 ちかの：お空の小さな天使家族のサポート おまめのおうち（実務家）代表</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	対象者を多角的に捉えた臨床での技と、エビデンスに基づいた助産ケアの実際について、その理論と確かな技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	<p>1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、6.倫理的意思決定能力</p>

開講科目名／Course	産褥・新生児期診断技術特論／Special lecture on diagnosis and skill of puerperal and newborn period
時間割コード／Course Code	J00008
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース／course	助産学コース
必修・選択／	必修
授業回数	16
開講時期／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年／Grade	1年
担当教員／	樋口 幸、姫野 綾、植木 美穂子、武石 美智代
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	母乳哺育への支援を含めた褥婦のセルフケア能力を高めるためのケアや新生児の胎外生活適応へのケア、育児を主体的に行えるよう新しい家族を含めた家族関係再構築への支援方法を習得する。また、ハイリスク褥婦や新生児のアセスメントとケア方法について理解を深める。さらに、3歳までの乳幼児の健康診査と生活指導に必要な知識・技術を習得する。
授業計画	01 産褥経過の身体的・心理・社会的状態の助産診断とケア方法 02 産褥経過の身体的・心理・社会的状態の助産診断とケア方法（事例を用いたシミュレーション） 03 新生児の助産診断とケア（出生直後～生後24時間） 04 新生児の助産診断とケア（出生直後～生後24時間）（事例を用いたシミュレーション） 05 母乳育児の支援（母乳分泌のメカニズムと授乳姿勢） 06 母乳哺育促進への支援の実際（リラクゼーション・身体の見方・整え方 ①） 07 母乳哺育促進への支援の実際（リラクゼーション・身体の見方・整え方 ②） 08 ハイリスク褥婦の支援（帝王切開後、多胎、不妊治療後、低出生体重児出産 ①） 09 ハイリスク褥婦の支援（帝王切開後、多胎、不妊治療後、低出生体重児出産 ②） 10 NICUにおけるケア ① 11 NICUにおけるケア ② 12 新生児訪問（1～2か月までの観察と保健指導） 13 新生児訪問（事例を用いたシミュレーション） 14 新生児期から生後4か月までの乳幼児のアセスメントとケア 15 乳幼児期の疾患と治療 16 評価（筆記試験）
その他の授業の工夫	模型などの教材を用い、臨床での技術を経験できるように工夫している。
時間外学修	基礎知識の復習とシミュレーションの準備が必要
評価方法と評価割合	出席状況およびレポート（10%）、事例を用いたシミュレーションに対する取り組みや学習状況（10%）、筆記試験（80%）で評価する。
テキスト	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期（医学書院） 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期（医学書院） 母乳育児の看護学 考え方とケアの実際（MCメディカ出版）
参考書	

履修する上で必要な要件	
その他	なし
到達目標	<p>1.産褥期および新生児期の経過及び健康生活状態に関する必要な情報を収集するためのフィジカルアセスメントや助産診断を行うための基礎的な知識を説明できる。</p> <p>2.褥婦のセルフケア能力を高めるためのケアや新生児の胎外生活適応へのケア、育児を主体的に行えるよう新しい家族を含めた家族関係再構築への支援方法を説明できる。</p> <p>3.ハイリスク褥婦や乳幼児の健康診査と生活指導に必要な知識・技術を説明できる。</p> <p>4.多様化するニーズにも対応し得る基本的な知識及び多職種連携に必要なコミュニケーション技術を説明できる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口 幸：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 姫野 綾：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 植木 美穂子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 武石 美智代：ひらかわ産婦人科（実務家）師長
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床での母乳哺育への支援の技と家族を含めたケアの視点を学ぶとともに、様々な褥婦や新生児に対するエビデンスに基づいた助産ケアの実際について、その理論と確かな技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力

開講科目名／Course	周産期診断技術演習／Perinatal diagnosis skill seminar
時間割コード／Course Code	J00009
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	30
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸、姫野 綾、植木 美穂子、宇留嶋 佳子、佐藤 昌司、成田 響太、軽部 薫
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	周産期にある対象（妊産褥婦・胎児・新生児のシミュレーター）における経過診断を行い、妊産褥婦と胎児および新生児の健康状態をエビデンスに基づいて診断する技術と支援方法を習得する。また、新生児蘇生等の救急対応についての知識と技術を習得する
授業計画	01 看護技術スキルアッププログラム ワークショップ①妊婦健康診査 02 看護技術スキルアッププログラム ワークショップ②妊婦健康診査 03 看護技術スキルアッププログラム ワークショップ③産褥・新生児期の援助 04 超音波診断法の基本原理（SIM）① 05 超音波診断法の基本原理（SIM）② 06 超音波診断法の実際（SIM）① 07 超音波診断法の実際（SIM）② 08 CTG波形の読診と胎児の健康状態 ① 09 CTG波形の読診と胎児の健康状態 ② 10 CTG波形の読診と胎児の健康状態 ③ 11 新生児蘇生法の理論と基礎技術 ① 12 新生児蘇生法の理論と基礎技術 ② 13 早産児シミュレーターを用いた新生児蘇生の技術習得 ① 14 早産児シミュレーターを用いた新生児蘇生の技術習得 ② 15 早産児シミュレーターを用いた新生児蘇生の技術習得 ③ 16 超音波診断法の実際（SIM）① 17 超音波診断法の実際（SIM）② 18 超音波診断法の実際（SIM）③ 19 超音波診断法（SIM）の実技試験 ① 20 超音波診断法（SIM）の実技試験 ② 21 超音波診断法（SIM）の実技試験 ③ 22 超音波診断法（SIM）の実技試験 ④ 23 妊産婦の安楽への支援（マタニティーピクス） 24 妊産婦の安楽への支援（マタニティーヨーガ） 25 妊産婦の安楽への支援（アロママッサージ） 26 妊産婦の安楽への支援（骨盤ケアほか） 27 新生児訪問の実際（家庭訪問時の観察と対応、ベビーマッサージ） 28 母乳哺育促進への支援（乳房マッサージ、抱き方・含ませ方演習） 29 母乳哺育促進への支援（事例を用いたシミュレーション） 30 人工栄養の基礎知識

その他の授業の工夫	妊娠期からの身体づくりの支援方法を体験を通して学ぶ。新生児蘇生法では、教材を用いた講義と臨床場面を想定したシミュレーションを行い、基本知識の整理から情報の統合、臨床推論と実践ができるように工夫している。
時間外学修	基礎知識の復習とシミュレーションの練習が必要
評価方法と評価割合	出席状況およびレポート（30%）、技術試験（70%）を考慮して評価する。
テキスト	竹村 秀雄著 助産師外来で役立つ超音波検査ガイドブック（メディカ出版） 仁志田 博司著 新生児学入門第3版（医学書院） 田村 正徳著 日本版救急蘇生ガイドライン2010新生児蘇生法テキスト改訂第2版（MEDICAL VIEW）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	なし
到達目標	1.妊婦健康診査の目的を理解し、適切な看護技術を用いて妊婦・胎児の観察および経過診断ができる。 2.妊婦と胎児の健康状態をエビデンスに基づいてアセスメントし、必要な支援を行うことができる。 3.新生児蘇生等の救急対応についての知識と技術を説明できる。 4.褥婦および新生児の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、妊娠～育児期までの切れ目のない支援について説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口 幸：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 姫野 綾：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 植木 美穂子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 宇留嶋 佳子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 梅野 貴恵：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 佐藤 昌司：大分県立病院（実務家教員） 成田 響太：長湯鍼灸院（実務家）院長 軽部 薫：かおる助産院（実務家）院長
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	対象者を多角的に捉えた臨床での技と、エビデンスに基づいた助産ケアの実際について、その理論と確かな技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	助産保健指導演習／Midwifery health guidance seminar
時間割コード／Course Code	J00010
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	姫野 綾
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	42
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半、別途指示
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	姫野 綾、樋口 幸、宇留嶋 佳子、植木 美穂子
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題を理解する。また女性とその家族の個性を理解し、それぞれの発達段階にある個人および集団を対象として、保健相談、健康教育、援助活動が効果的に実践できるための理論的基礎を学び、指導案・教材を利用しプレゼンテーションを行う。

授業計画	01. 健康教育における保健指導計画立案のプロセス 02. 助産における保健指導 03. 思春期のリプロダクティブ・ヘルス (1) 04. 思春期のリプロダクティブ・ヘルス (2) 05. 多様な性とセクシャリティ教育の現状と課題 (1) 06. 多様な性とセクシャリティ教育の現状と課題 (2) 07. 家族計画指導に関する基礎知識 08. 受胎調節法の基礎知識 09. 妊娠期の保健指導ロールプレイとリフレクション (1) 10. 妊娠期の保健指導ロールプレイとリフレクション (2) 11. 妊娠期の保健指導計画立案と媒体作成① 12. 妊娠期の保健指導計画立案と媒体作成② 13. 妊娠期の保健指導計画立案と媒体作成③ 14. 妊娠期の保健指導ロールプレイ (1) 中間発表 15. 妊娠期の保健指導ロールプレイ (2) 中間発表 16. 妊娠期の保健指導ロールプレイ (1) 学内発表 17. 妊娠期の保健指導ロールプレイ (2) 学内発表 18. 出産前準備教室見学① 19. 出産前準備教室見学② 20. 出産前準備教室見学③ 21. 出産前準備教室見学④ 22. 性教育 (いのちの教育) の概要とオリエンテーション 23. 性教育の指導計画立案 (1) 24. 性教育の指導計画立案 (2) 25. 性教育の媒体作成 (1) 26. 性教育の媒体作成 (2) 27. 性教育のデモンストレーション (1) 28. 性教育のデモンストレーション (2) 29. 性教育の実践 (1) リハーサル 30. 性教育の実践 (2) リハーサル 31. 性教育の実践 (3) リハーサル 32. 性教育の実践 (4) リハーサル 33. 性教育の実践 (市内小学校) (1) 34. 性教育の実践 (市内小学校) (2) 35. 産褥期の保健指導案と媒体作成① 36. 産褥期の保健指導案と媒体作成② 37. 産褥期の保健指導案と媒体作成③ 38. 産褥期の保健指導案と媒体作成④ 39. 産褥期の保健指導案と媒体作成⑤ 40. 産褥退の保健指導案と媒体作成⑥ 41. 産褥退院指導発表 (1) 42. 産褥退院指導発表 (2)
その他の授業の工夫	オムニバス形式の講義。 妊娠期・産褥期の女性を設定したロールプレイを行う。 性教育は小学生を対象とした集団指導を行う。
時間外学修	ロールプレイやデモンストレーションに向けての練習等、時間外の学習が必要 (32h)。
評価方法と評価割合	課題への取り組み姿勢 (発言などの積極性、グループワークにおける貢献度) : 50% 発表内容、発表後の指導案・活用媒体修正への取り組み : 50%
テキスト	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第5版 (医学書院)
参考書	病気がみえる vol.10 産科 第4版 (医療情報科学研究所)
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	1.妊娠期・産褥期の保健指導の目的・意義を述べることができる。 2.事例妊婦・褥婦をアセスメントし、指導案を作成することができる。 3.事例妊婦・褥婦への指導に必要な媒体を作成することができる。 4.作成した指導案・媒体を用いて妊娠期・産褥期の保健指導のロールプレイが実施できる。 5.ロールプレイを振り返ることができる。 6.教員・他学生の意見を踏まえながら指導案・媒体を修正することができる。 7.性教育の媒体作成をすることができる。 8.性教育を実施することができる。
実務家教員の有無 ／ Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／ Practical teacher details	姫野 綾：病院の助産師 樋口 幸：病院の助産師 宇留嶋佳子：病院の助産師 植木 美穂子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／ Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／ Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／ Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基づいた看護実践経験や理論を基に、確かな経験・技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／ Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／ Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／ DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／ Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／ Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	分娩期実践演習／Parturition practical seminar
時間割コード／Course Code	J00011
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	姫野 綾
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	30
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	姫野 綾、樋口 幸、宇留嶋 佳子、植木 美穂子
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	助産診断および助産実践に必須な内診やクスコ診の技術、基本的な分娩介助技術を習得する。 さらに、女性の意志を尊重し、安全で安楽な分娩へのケアについて考えるとともに、助産師として必要な役割や責任についても理解し実施する。
授業計画	01.分娩介助技術の理論 02.分娩室準備 03.分娩への準備（手指消毒、内診の技術、クスコ診および子宮頸がん検診） 04.分娩介助デモンストレーション（1）（一連の流れ） 05.直接分娩介助時の物品準備と清潔野作成（1） 06.直接分娩介助時の物品準備と清潔野作成（2） 07.直接分娩介助時の産婦の準備（1） 08.直接分娩介助時の産婦の準備（2） 09.分娩介助デモンストレーション（2）（側面法） 10.分娩介助デモンストレーション（3）（正面法） 11.分娩介助デモンストレーション（4）（実習施設の方法） 12.経膈分娩介助技術：側面法・正面法（1） 13.経膈分娩介助技術：側面法・正面法（2） 14.経膈分娩介助技術：側面法・正面法（3） 15.経膈分娩介助技術：側面法・正面法（4） 16.経膈分娩介助技術：側面法・正面法（5）中間チェック 17.経膈分娩介助技術：側面法・正面法（6）中間チェック 18.出生直後の新生児のケアと胎盤の観察（1） 19.出生直後の新生児のケアと胎盤の観察（2） 20.分娩介助技術試験（1）OSCE：分娩1期末～分娩終了まで 21.分娩介助技術試験（2）OSCE：分娩1期末～分娩終了まで 22.事例を用いた分娩期シミュレーション（1）産婦入院時の対応 23.事例を用いた分娩期シミュレーション（2）産婦入院時の対応 24.事例を用いた分娩期シミュレーション（3）分娩第1期 25.事例を用いた分娩期シミュレーション（4）分娩第1期 26.筆記試験（妊娠・分娩・産褥・新生児期） 27.フリースタイル分娩介助（1） 28.フリースタイル分娩介助（2） 29.会陰切開・縫合術（1） 30.会陰切開・縫合術（2）

その他の授業の工夫	<p>全ての技術演習には、分娩助産シミュレーター、内診モデル、子宮頸がん検診モデル、会陰縫合シミュレーター等を用いて実施する。</p> <p>技術実施前には、必ず教員のデモンストレーションを実施し、その後の初めの実演は教員の見守りのもとで指導を受けながら実施する。グループごとの実施では、直接助産者役、産婦役、観察者兼間接助産者役の役割を決めて実施する。産婦役は、教員設定の初産婦・経産婦事例のつもりで実施する。</p> <p>事例を用いたシミュレーションでは、学生が状況設定に合わせて、助産師学生を演じ、ロールプレイを行う。場面はビデオ撮影を行い、場面を振り返りながら、デブリーフィング(振り返り)、ディスカッションを行う。</p>
時間外学修	時間外で技術練習を30時間以上要する。
評価方法と評価割合	<p>演習得点（OSCE）と演習への取り組み姿勢：50%</p> <p>筆記試験：50%</p>
テキスト	<p>助産学講座7 助産診断・技術学II [2] 分娩期・産褥期（医学書院）</p> <p>正常分娩の助産術 進 純郎／堀内成子著（医学書院）</p> <p>（参考）助産師必携 会陰保護技術，進 純郎著（MCメディカ）</p>
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<p>1.助産診断および助産実践に必須な内診やクスコ診の技術、基本的な分娩助産技術が実施できる。</p> <p>2.安全で安楽な分娩へのケアについて説明できるとともに、助産師として必要な役割や責任についても説明でき、女性とその家族を尊重した支援を実施できる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<p>樋口 幸：病院の助産師</p> <p>姫野 綾：病院の助産師</p> <p>宇留嶋 佳子：病院の助産師</p> <p>植木 美穂子：病院の助産師</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基いた助産を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	<p>1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力</p>

開講科目名／Course	助産過程展開演習／Midwifery process deployment seminar
時間割コード／Course Code	J00012
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	30
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>助産を実践するための基本的な助産過程の展開を、ペーパーペイシェントを用いて習得し、実践への応用能力を身に付ける。助産診断の概念および助産診断のプロセスに基づき、妊娠期および分娩期における母児の安全・安楽を保障するために、妊産婦の身体的・心理的・社会的健康状態、胎児の発育・発達および健康状態について判断し助産診断名を記述し、ケア計画を立案できる能力を習得する。</p>

授業計画	01.助産診断の概念、助産過程の展開とは 02.妊娠期の経過診断と健康生活診断 03.ペーパーペイシエント：妊娠期の経過診断（1） 04.ペーパーペイシエント：妊娠期の経過診断（2） 05.ペーパーペイシエント：妊娠期の健康生活診断（1） 06.ペーパーペイシエント：妊娠期の健康生活診断（2） 07.ペーパーペイシエント：妊娠期の助産診断名と助産目標 08.ペーパーペイシエント：妊娠期の助産計画 09.妊婦健康診査時の経過診断と健康生活診断（1） 10.妊婦健康診査時の経過診断と健康生活診断（1） 11.分娩期の経過診断と健康生活診断 12.ペーパーペイシエント：分娩期の経過診断（1） 13.ペーパーペイシエント：分娩期の経過診断（2） 14.ペーパーペイシエント：分娩期の健康生活診断（1） 15.ペーパーペイシエント：分娩期の健康生活診断（2） 16.ペーパーペイシエント：分娩期の助産診断名と助産目標 17.ペーパーペイシエント：分娩期の助産計画 18.ペーパーペイシエント：分娩経過中の変化をとらえた経過診断の修正 19.ペーパーペイシエント：分娩経過中の変化をとらえた助産計画の修正 20.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の経過診断（1） 21.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の経過診断（2） 22.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の健康生活診断（1） 23.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の健康生活診断（2） 24.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の助産診断名と助産目標 25.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の助産計画 26.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の分娩経過中の医療介入による経過診断の修正（1） 27.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の分娩経過中の医療介入による経過診断の修正（2） 28.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の分娩経過中の医療介入による助産計画の修正（1） 29.ペーパーペイシエント：ハイリスク産婦の分娩経過中の医療介入による助産計画の修正（2） 30.助産計画の修正
その他の授業の工夫	ペーパーペイシエントの個人学習ののち、2～3人のグループワーク、発表、ディスカッションを行う。 グループワーク時にパソコン入力し、発表は出力したものを貼りだし、プレゼン形式で行う。
時間外学修	個人学習やレポートの修正などで、30時間以上を要す。
評価方法と評価割合	レポート（80%）、ディスカッション（20%）
テキスト	・実践マタニティ診断第4版（医学書院） ・今日の助産（南江堂） ほか
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1.ローリスク妊産婦の身体的・心理的・社会的健康状態、胎児の発育・発達および健康状態についてアセスメントし、妊娠期および分娩期における母児の安全・安楽を担保するために必要なケア計画を立案できる。 2.ハイリスク妊産婦の身体的・心理的・社会的健康状態、胎児の発育・発達および健康状態についてアセスメントし、妊娠期および分娩期における母児の安全・安楽を担保するために必要なケア計画を立案できる。 3.ペーパーペイシエントを用いた基本的な助産過程の展開を通して、実践への応用に向けた自己の課題を明確に述べるができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口幸：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基いた事例の助産診断、助産診断に基づいた実際に経験した事例の話をふまえて教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	助産マネジメント論／Midwifery management theory
時間割コード／Course Code	J00013
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸、生野 末子、戸高 佐枝子、安部 真紀、梅野 貴恵、井本 寛子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	助産師の職務、業務範囲および法的責任を理解し、助産業務を遂行し助産サービスの質保証をするために必要な助産管理の基礎知識・技術について習得する。地域における母子保健ニーズを把握し、助産所の経営管理と働く場の違いによる助産業務管理の特性を理解し、助産所および助産外来、院内助産において助産を展開できる能力を習得する。また、他職種と連携・協働しながら、個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行える能力を習得する。
授業計画	01.管理の基本概念とプロセス 02.助産管理のための関係法規（助産師の法的責任と義務、母子保健に関わる主な法律） 03.周産期管理システム（1）母体搬送システム・搬送コーディネーター、NICU 04.周産期管理システム（2）オプンシステム・院内助産 05.周産期の医療事故とリスクマネジメント（1） 06.周産期の医療事故とリスクマネジメント（2）事例検討 07.助産サービスの質保証と助産師の自律（CLOCMiPIII） 08.助産政策 09.助産と医療経済（1） 10.助産と医療経済（2） 11.母子への災害看護 12.助産所の開業、運営の実際（自宅出産） 13.助産業務ガイドライン 14.助産所における助産業務管理（助産院の開業と管理） 15.助産所における助産業務管理（他職種との連携・協働） 16.評価
その他の授業の工夫	パワーポイントを用いて視覚に訴える授業 事例等を用いたシミュレーション学習を取り入れている
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料やテキストを用いて予習する。 事後学修：配布資料を用いて復習する。（合計45h）
評価方法と評価割合	受講態度：20% 試験：80%
テキスト	・助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版（医学書院） ・助産学講座10 助産管理 第5版（医学書院） ・新版助産師業務要覧第3版（日本看護協会出版会） ・助産業務ガイドライン2019（日本助産師会出版）
参考書	

履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 助産師の職務、業務範囲および法的責任を含めた助産管理の基礎知識・技術を述べることができる。 2. 周産期におけるリスクマネジメントの方法、災害時の母子支援方法について述べることができる。 3. 周産期管理システムにおける助産師の役割や地域の社会資源の活用や調整について説明できる。 4. 助産所および助産外来、院内助産における助産業務管理の特性と助産師の自律を述べるができる。
実務家教員の有無 ／ Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／ Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師 生野末子：助産院院長 戸高佐枝子：助産院院長 安部真紀：病院、産科診療所の助産師 梅野貴恵：病院の助産師 井本寛子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／ Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／ Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／ Educational content utilizing practical experience	妊娠・分娩・産褥・新生児期のエビデンスに基づく理論と確かな助産診断・実践について、実際の経験等を基に学生に教授する。助産院における多職種との連携・協働の実際について教授する。
DPとの対応（研究者） ／ Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／ Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／ DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／ Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／ Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	地域母子保健学特論／Regional maternal and child health theory
時間割コード／Course Code	J00014
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	後期前半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	樋口 幸、小野治子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	母子保健の変遷、母子保健政策、母子保健の水準、育児を取り巻く社会環境について学び、日本の地域母子保健の現状について理解を深め、助産師としての活動を述べる。また、国内外の地域母子保健活動についての実態を述べる。
授業計画	01.地域母子保健の意義 02. 国内外の母子保健の現状と動向 03. 地域母子保健行政の体系（わが国の母子保健行政、母子保健制度と施策） 04.大分県の母子保健行政、母子保健事業の現状と課題 05.地域で生活する母子を取り巻く問題と母子保健をめぐる関係諸機関との連携 06.育児をとりまく環境 07.子育て支援の現状と課題 08.育児を取り巻く環境と助産師の役割の発表
その他の授業の工夫	授業の中でディスカッションを行う。最後に各自で、育児を取り巻く環境と助産師の役割について様々な資料を調べ、考察したことを一人ずつプレゼンテーションする。その後ディスカッションを行う。
時間外学修	事前学修：事前課題やプレゼンテーションの準備等。 事後学修：配布資料を用いて復習する。（合計22h）
評価方法と評価割合	提出レポートやプレゼンテーション：100%
テキスト	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健（医学書院）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 国内外の地域母子保健活動についての実態を述べることができる。 2. 日本と大分県の母子保健の変遷、母子保健政策、母子保健の水準、育児を取り巻く社会環境について述べることができる。 3. 地域で生活する母子とその家族への支援についての具体的な現状と助産師の役割について説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口 幸：病院の助産師 小野 治子：学校の養護教諭

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	大分県および市町村に勤務する母子保健を担当する保健師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基いた母子保健業務を実践し、その現場の実務経験を生かした実践内容を教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	助産マネジメント演習／Midwifery management exercises
時間割コード／Course Code	J00015
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	樋口 幸、生野 末子、安部 真紀、姫野 綾、植木 美穂子、宇留嶋 佳子
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	助産師業務の行われる病院・助産所において、母子保健医療チームの一員としての助産師の役割と責任を認識し、管理の原理・原則に基づいて、助産の対象の健康管理や助産マネジメントを実践する能力を修得する。また、地域における助産の現状と今後の課題を明らかにし、地域に求められる助産師活動のあり方を考察し、自己の助産観を述べる。
授業計画	01.周産期センターにおける管理 02.母子保健に関する看護政策論（政策までのプロセス） 03.課題事例検討会(1) 04.課題事例検討会(2) 05.災害時の助産ケアの実際 06.災害時の助産ケアのシミュレーション（1） 07.災害時の助産ケアのシミュレーション（2） 08.母胎搬送事例をもとにした演習（1）演習計画の立案 09.10.母胎搬送事例をもとにした演習（2、3）シミュレーション 11.母胎搬送事例をもとにした演習（4）デブリーフィング 12.開業助産師の助産活動の実際（1） 13.開業助産師の助産活動の実際（2） 14.開業助産師の助産活動の実際（3） 15.開業助産師の助産活動の実際（4） 16.地域に求められる助産師の役割
その他の授業の工夫	開業助産院にて、助産院長に同行実習を行う。対象は、助産院に来院または入院している妊婦、産婦、褥婦、産後ケアの母子とする。 グループワークにより、事例に基づきシミュレーション計画を立案、実践する、実践のあとに振り返りの学習を行い助産師としての活動の根拠を明確化する。
時間外学修	事前学習：課題の予習やレポート作成、自己の実習目標等をレポートする。 事後学修：事後のレポート作成など。（合計45h）
評価方法と評価割合	プレゼンテーションやディスカッション：40% レポート：60%
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	助産学統合実習の履修が終了していること

その他	災害時のシミュレーション演習、母体搬送事例をもとにした演習は、母性・助産実習室において実践する。 開業助産師の助産活動の実際は、生野助産院において、各自が課題を設定し、実践を行うことにより学ぶ。
到達目標	1. 助産師業務の行われる病院・助産所において、母子保健医療チームの一員としての助産師の役割と責任を述べることができる。 2. 助産の対象の健康管理や助産マネジメントを実践するために必要とされる能力を説明できる。 3. 地域に求められる助産師活動のあり方を考察し、自己の助産観を述べるができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師 生野末子：助産院院長 安部真紀：病院の助産師 姫野綾：病院の助産師 植木美穂子：病院の助産師 宇留嶋佳子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基いた助産実践を実施し、その経験に基づく理論と確かな助産ケアを学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	助産学統合実習／Midwifery integration practice
時間割コード／Course Code	J00016
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	9.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース／course	助産学コース
必修・選択／	必修
授業回数	300
開講時期／Semester term	前期前半、前期後半
学年／Grade	2年
担当教員／	樋口 幸、姫野 綾、植木 美穂子、宇留嶋 佳子
講義形態／Class Type	実習
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>人間尊重の基本理念に基づき、新しい命の誕生に携わらせていただくことへの感謝と責任をもって、妊娠期から産褥・育児期まで継続して母子とその家族を受け持ち、専門性の高い知識・技術と五感を駆使して、正常経過を判断し、また正常からの逸脱を早期に予見し予防・対処することで、母子の安全を確保し、安楽で満足のいくお産ができ、最良の状態で育児期に移行できるように、健康的な生活を営むうえで必要な個別性に即した助産ケアを行う実践能力を養う。さらに、変化する社会のニーズや助産の現状と課題をふまえ、助産師の専門性を深める実践能力の探究と、自己の理想とする助産師像を持つことをねらいとする。</p> <p>実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.妊産褥婦及び胎児・新生児とその家族に対し、継続してアセスメントを行い、適切な健康生活のために、助産診断および技術を用いて、個別性に即した援助が実践できる能力を養う。 2.対象を尊重し、新しい命の誕生に携わる助産師としての基本姿勢を養う。 3.助産管理に必要な基本的能力を養う。 4.助産の現状と課題を踏まえ、助産師の専門性を高めるために実践を通して理論や知識を深め、探究心を養う。 5.人権と生命を尊重し、助産師としての倫理観を養うとともに、理想とする助産師像をもつ。
授業計画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.妊産褥婦および胎児・新生児とその家族を対象とした助産過程を展開する。 2.正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断およびケア、正常からの逸脱を予防するケアを自立して実践する。 3.新生児に対して胎外生活への適応レベル/健康レベルを診断し、胎外生活への適応を促すケアを自立して実践する。 4.妊娠・分娩・産褥期（1か月健診まで）の継続ケースを通して、教育支援および継続ケアを展開し、母子への一貫した助産ケアを実践する。 5.母子およびその家族に対して必要な援助並びに保健指導を実践する。 6.周産期における保健医療チームの一員として助産師の役割と責任を述べる。 7.助産業務並びに助産施設の管理を説明する。 8.変動する社会のニーズに合わせた助産の現状と今後の課題、および地域に求められる助産師活動について述べる。 9.助産師としての倫理観について考察する。 10.自己の理想とする助産師像を述べる。
その他の授業の工夫	<p>実習施設は、4施設。</p> <p>分娩介助から産後1か月健康診査までを受け持つ。継続事例は妊娠期から受け持つ。施設又は自宅に待機し、対象者の分娩状況に応じて、土日、祝日、夜間を含む実習を行う。</p>

時間外学修	事前学修：対象者に関する情報から配布資料やテキストを用いて予習する。受持ち妊産褥婦への保健指導計画（授乳・沐浴・退院・2週間健診）や指導に用いるパンフレットの作成を行う。 事後学修：分娩介助対象者（継続事例含む）10例の実習記録（様式1～16）の作成。提出後、指導者や教員の指導を受ける。（合計80h以上）
評価方法と評価割合	実習評価表：80% 実習記録物：20%
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	分娩期診断技術特論、産褥・新生児期診断技術特論、周産期診断技術演習、助産保健指導演習、助産過程展開演習、NICU課題探究実習、妊娠期課題探究実習を履修済みであること。また、分娩期実践演習の分娩期OSCEに合格していることが必要。
その他	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過をふまえ、正常分娩を阻むリスク要因も含めてアセスメントし、分娩経過の診断ができる。 2. 分娩経過診断、健康生活診断から助産計画を立案し、分娩進行状況に合わせた修正を行い、助産ケアを実施できる。 3. 分娩介助技術を基本に沿って実施できる。 4. 出生直後の新生児の胎外生活適応を促進するための看護を実施できる。 5. 褥婦の個別性をふまえた産褥経過の診断を行い、退院後の新たな生活を含めた助産計画を立案できる。 6. 褥婦の母子関係成立、母乳栄養確立に向けた援助及び保健指導を実施できる。 7. 対象とその家族の個別性をふまえた産後の生活や育児方法、家族計画、育児環境調整についての指導を行える。 8. 新生児の全身状態を観察し、健康状態をアセスメントし、健康状態を維持・向上するためのケアを行う。 9. 新生児の哺乳状況から適正な体重増加と栄養摂取をアセスメントし、必要な支援を工夫する。 10. 受持ち母子と家族に対するケアを振り返り評価・修正を行う。 11. 助産師として必要な職業倫理を配慮し、チームの一員として協調する。 12. 助産師の役割や助産師として要求される人間性を意識し、自己の助産師像を説明する。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口幸：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 姫野綾：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 植木美穂子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 宇留嶋佳子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	実習施設の指導助産師、産科医師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実際場面におけるエビデンスに基いた状況判断による助産を実践し、理論と確かな助産技術を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	

DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意意思決定能力

開講科目名／Course	ハイリスク妊産婦ケア実習／High risk maternal care practice
時間割コード／Course Code	J00017
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース／course	助産学コース
必修・選択／	必修
授業回数	40
開講時期／Semester term	前期前半
学年／Grade	2年
担当教員／	樋口 幸、姫野 綾、植木 美穂子、宇留嶋 佳子
講義形態／Class Type	実習
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>人間尊重の基本理念に基づき、助産の診断及び技術を用いてハイリスクである妊産婦と胎児または新生児及びその家族に対して必要な支援を実施する。それにより、現代社会における高度な周産期医療の現状を理解し、考え得る今後の課題を考察するとともに助産師の専門的な実践能力を探究する。</p> <p>実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ハイリスク妊産婦の身体・心理・社会的側面をアセスメントし、妊産婦と家族に寄り添い、必要な支援を実践できる能力を養う。 2.周産期医療に必要な知識、技術を用い、母体・胎児の異常、合併症に関する病態生理をアセスメントし、正常からの逸脱の判断及び予見ができる能力を養う。 3.他職種と連携・協働し、対象者が社会復帰するための調整に必要な助産師の役割と果たすべき責務を遂行する能力を養う。 4.助産師としての倫理的感応力を養う。
授業計画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ハイリスク妊産婦を対象とした助産過程を展開する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) ハイリスク妊産婦に対して適切な情報収集・アセスメントを実践する。 (2) ハイリスク妊産婦に対して助産診断・評価を実践する。 2.ハイリスク妊産婦および家族に必要なケアを実践する。 3.ハイリスク妊産婦の周産期管理に必要な助産技術を実践する。 4.ハイリスク妊産婦に行われる検査や治療を見学により理解する。 5.ハイリスク妊産婦の周産期管理に必要な他職種との連携について述べる。 6.周産期医療の現状と課題及び周産期医療における助産師の役割を探究する。 7.周産期医療における倫理問題を考察する。
その他の授業の工夫	ハイリスク妊産婦を受け持ちケアを実施する。母体搬送事例や緊急時の対応など機会があれば、見学を通して学ぶ。
時間外学修	<p>事前学修：受持ち対象についての病態・症状・治療等について配布資料やテキスト等を用いて予習する。必要時、指導計画・指導案の立案・パンフレット作製を行う。</p> <p>事後学修：実習内容を指定の実習記録（様式1-14）に記載する。提出後に教員より指導を受ける。（合計20h程度）。</p>
評価方法と評価割合	<p>評価表：90%</p> <p>評価表：実習記録物10%</p>
テキスト	

参考書	
履修する上で必要な要件	分娩期診断技術特論、産褥・新生児期診断技術特論、周産期診断技術演習、助産保健指導演習、助産過程展開演習、NICU課題探究実習、妊娠期課題探究実習を履修済みであること。分娩期実践演習の分娩期OSCEに合格していること。
その他	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイリスク妊産褥婦の病態生理をふまえ、正常からの逸脱の判断・予見を含むアセスメントを行い、対象とその家族に必要な助産計画を立案できる。 2. ハイリスク及び以上経過をたどる対象とその家族への助産計画に基づき、安全・安楽に配慮し、ケア方法を工夫し行える。 3. ハイリスク妊産褥婦と家族へ心理的ケアを実施できる。 4. 助産計画を評価し修正できる。 5. 母子保健における社会資源の活用や多職種との連携・調整の場に参加できる。 6. 高度周産期における助産師の役割と責任について述べることができる。 7. 自己の課題を明確にし、助言を得ながら誠実に取り組む行動で参加する。
実務家教員の有無 ／ Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／ Practical teacher details	樋口幸：病院の助産師 姫野綾：病院の助産師 植木美穂子：病院の助産師 宇留嶋佳子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／ Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／ Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	実習施設の指導助産師や産科医師
実務経験を生かした教育内容 ／ Educational content utilizing practical experience	実際場面におけるエビデンスに基いた状況判断による助産を実践し、理論と確かな助産技術を指導する。
DPとの対応（研究者） ／ Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／ Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／ DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／ Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／ Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	妊娠期課題探究実習／Special lecture of gestational diagnosis and skill
時間割コード／Course Code	J00018
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	80
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸、姫野 綾、植木 美穂子、宇留嶋 佳子
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>人間尊重の基本理念に基づき、助産診断及び技術を用いて、妊産婦及び胎児の健康水準を助産診断し、科学的根拠に基づいた実践及び保健指導ができる助産師を育成することをねらいとする。</p> <p>実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.母子及び家族のニーズに寄り添い、安全で快適な助産ケアを提供するために必要な継続的支援と保健指導ができる能力を養う。 2.助産診断技術を活用し妊娠の成立、妊娠経過及び母体と胎児の状態を助産診断できる能力を養う。 3.妊娠期の健康生活診断を行い、正常な妊娠経過を過ごせるように個別に応じた保健指導ができる能力を養う。 4.妊婦の主体性、行動力を引き出す能力を養う。 5.他職種と連携・協働し助産師の役割を主体的に実践できる基礎的能力を養う 6.人権と生命を尊重し、助産師としての倫理観を養う。
授業計画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.妊婦を対象とした助産過程を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 妊婦対して適切な情報収集・アセスメントを実践する。 (2) 妊婦に対して助産診断を実践する。 (3) 妊婦に対して必要な援助並びに保健指導を実践する。 2.母子及びその家族に対して必要な援助並びに保健指導を実践する。 3.周産期における保健医療チームの一員としての助産師の役割と責任を学ぶ。 4.助産師としての倫理観について考える。
その他の授業の工夫	妊婦健康診査時に超音波診断装置を用いた胎児の経過診断（計測を含む）を12例、保健指導を12例実施する。
時間外学修	<p>事前学修：学習内容について配布資料やテキスト等を用いて予習する。妊婦の事前情報に基づいて、指導計画・指導案の立案・パンフレット作製を行う。</p> <p>事後学修：実習内容を指定の実習記録（様式1-6）に記載する。提出後に教員より指導を受ける。（合計40h程度）</p>
評価方法と評価割合	<p>評価表：90%</p> <p>評価表：実習記録物10%</p>
テキスト	
参考書	

履修する上で必要な要件	助産学概論、周産期特論、リプロダクティブ・ヘルスト論、妊娠期診断技術特論、超音波診断を含む妊婦健康示唆OSCEに合格していること
その他	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過、妊婦と胎児の状態をアセスメントし、妊婦とその家族へ必要な助産計画を立案し、安全・安楽に配慮しながら、妊婦健診に必要な助産技術（子宮底・腹囲の測定）を実施できる。 2. 超音波診断装置による妊娠各期の助産診断を行い正常像を描出し、経過をふまえた胎児の状態をアセスメントできる。 3. 妊娠経過の助産診断に基づいて、対象に応じた保健指導を実施できる。 4. 実施した援助について身体的・心理的・社会的側面や安全面、エビデンスに基づき評価できる。 5. 妊婦及び家族との良好な人間関係を形成し、相互に信頼しあえる関係を構築するよう配慮できる。 6. 自己の課題を明確にし、医師・助産師に連絡・相談をうけ、主体的に実習に参加できる。 7. 医師・助産師・教員の指導助言を謙虚に受け止め、行動変容しようと工夫する。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口幸：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 姫野綾：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 植木美穂子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員） 宇留嶋佳子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務家教員）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	実習施設の指導助産師、産科医師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実際場面におけるエビデンスに基いた状況判断による助産を実践し、理論と確かな助産技術を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	N I C U 課題探究実習／NICU task study practice
時間割コード／Course Code	J00019
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	樋口 幸
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	2週間
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	樋口 幸、植木 美穂子、宇留嶋 佳子
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	リスクをもって出生した新生児の生理的特徴を理解し、子宮外生活適応の過程をアセスメントし、児の成長・発達に応じた看護を展開できる能力を養う。周産期における母子のプライマリーケアと緊急事態への対応についての助産師の役割を理解する。また、地域密着型の総合周産期母子医療センターの地域における役割や他職種とのチーム医療のあり方について理解する。
授業計画	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハイリスク新生児の形態的、生理的特徴を理解し、観察の重要性を認識した看護ができる。 2. ハイリスク新生児の看護の原理を理解し、対象の状態に応じた看護技術を習得する。 3. 早期に母子分離された母親とその家族との親子関係成立のための援助を理解する。 4. 総合周産期母子医療センターにおける他職種との連携、助産師の役割を理解する。
その他の授業の工夫	受け持ち児を通して、対象児とその家族を含めたケアの実際を学び、助産師の役割を理解できる。
時間外学修	ハイリスク新生児について自己学習が必要
評価方法と評価割合	出席状況と実習態度（10％）、記録提出状況（20％）、実習評価表（70％）で評価する。
テキスト	なし
参考書	
履修する上で必要な要件	NICUでの実習となるため、体調管理の必要がある。
その他	なし
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク新生児の形態的、生理的特徴を理解し、観察の重要性を認識した看護ができる。 2) ハイリスク新生児の看護の原理を理解し、対象の状態に応じた看護技術を実践できる。 3) 早期に家族分離された児とその家族との親子関係成立のための援助を説明できる。 4) 総合周産期母子医療センターにおける他職種との連携、助産師の役割を考察できる。 5) チーム医療の一員として自覚を持ち、謙虚な姿勢で学ぶことができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	樋口幸：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務教員） 植木美穂子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務教員） 宇留嶋佳子：大分県立看護科学大学助産学研究室（実務教員）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	飯田 浩一：大分県立病院（実務家）総合周産期母子医療センター所長 大分県立病院NICUの看護師・助産師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	ハイリスク新生児と児を取り巻く環境への継続した支援に関する他職種連携の実際と、地域社会における幅広い助産師の活動について具体的に伝えることができる。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、6.倫理的 意思決定能力

開講科目名／Course	地域母子保健演習／Regional maternal and child health exercises
時間割コード／Course Code	J00020
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	姫野 綾
コース／course	助産学コース
必修・選択／	必修
授業回数	8
開講時期／Semester term	後期前半
学年／Grade	2年
担当教員／	姫野綾、樋口 幸、宇留嶋 佳子、植木 美穂子
講義形態／Class Type	演習
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	受持ち事例（母子）の家庭訪問や市町村の乳幼児健診に参加し、地域で生活する母子のニーズを理解する。助産師として地域における母子保健ニーズに対応し、質の高い母子保健活動を展開する能力習得をめざす。
授業計画	01. 地域の特性、母子保健活動の現状と動向（1） 02. 地域の特性、母子保健活動の現状と動向（2） 03. 地域母子保健事業の実際と連携体制（1） 04. 地域母子保健事業の実際と連携体制（2） 05. 地域母子保健事業の実際と連携体制（3） 06. 地域母子保健事業の実際と連携体制（4） 07. 地域母子保健事業の実際と連携体制（5） 08. 地域母子保健事業の実際と連携体制（6）
その他の授業の工夫	受持ち事例の1か月健診までの情報から3-4か月の生活状況を予測し、助産計画を立案する。4か月時の現状を家庭訪問か電話訪問（一部施設の乳児健診）により把握し、適宜必要な助言を行う。市町村の幼児健康診査に参加し、母子保健事業の実際について体験を通して学ぶ。そこに来所される母子とのかかわりを通して、地域における母子支援の実際と多職種連携の重要性を学ぶ。 参加後に、『乳幼児健診を通しての学びと地域で生活する母子に対する助産師としての役割』についてレポートを記載する。
時間外学修	事前学修：地域の母子保健状況や事業の内容等を自己学習によってレポートする。受持ち事例の3～4か月時の助産計画を立案する。 事後学修：課題レポート作成。（合計22h）
評価方法と評価割合	受講状況：40% レポート（事前・事後）：60%
テキスト	
参考書	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健（医学書院） 実践マタニティ診断（医学書院）
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 市町村の幼児健診に参加し、地域で生活する母子のニーズと多職種連携を説明できる。 2. 受持ち事例（母子）の家庭訪問や電話訪問、乳児健診に参加し、出産施設退院後に地域で生活する母子のニーズや育児支援者を述べるができる。 3. 地域における母子保健活動を把握し、子育て期の母子や家族に対して助産師として支援できる方法を述べるができる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	姫野 綾：病院の助産師 樋口 幸：病院の助産師 宇留嶋 佳子：病院の助産師 植木 美穂子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	市町村に勤務する保健師, 実習施設の助産師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実際の母子保健事業の場面で、エビデンスに基いた保健活動をととして適宜学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	1.妊産褥婦、胎児、新生児に対して助産過程を展開できる自立した助産ケア能力、2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力、3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、4.助産システムの活用・調整および助産管理能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	広域看護学概論Ⅰ
時間割コード／Course Code	K00001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣、桑野紀子、麻原きよみ、藤内 修二
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	本科目は、専門職としての保健師の責務を果たすための知識と態度を身につけ、自分がめざす保健師像を探究する。探究するために、公衆衛生および公衆衛生看護の理念、歴史、対象の多様性、活動、コンピテンシー、保健師の使命・人権擁護・倫理、国際的役割を理解する。教員は、ディスカッションやグループワークの発表に対して、フィードバックを行う。
授業計画	01. 公衆衛生看護の基本理念 02. 公衆衛生看護の対象 03. 公衆衛生看護の場と保健師の役割（行政機関・学校保健・産業保健） 04. 諸外国と日本の公衆衛生看護の歴史 05. 保健師のコンピテンシー 06. 公衆衛生看護の基本理念に基づく活動方法（ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、PDCAサイクル） 07. 公衆衛生看護の倫理① 08. 公衆衛生看護の倫理② 09. 公衆衛生の意義と考え方 10. 公衆衛生の理念（プライマリケア・ヘルスプロモーション） 11. 公衆衛生看護の対象理解—事例から考える① 12. 公衆衛生看護の対象理解—事例から考える② 13. 公衆衛生看護の対象理解—事例から考える③ 14. 国際保健 15. めざす専門職としての保健師像
その他の授業の工夫	・公衆衛生と公衆衛生看護の実践者による講義が含まれる。 ・事例を通して、看護職としての具体的な公衆衛生看護を考え、自分の考えを説明しディスカッションする。
時間外学修	・講義前は、各回のテーマに関連するテキスト内容を読み、不明点は調べて、講義に臨む。所有している書籍等も活用する。 ・講義後は、さらに関連分野の文献や書籍を読み、理解を深める。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：60%、レポート：40% レポート内容は、別途提示する。
テキスト	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論（医学書院）
参考書	別途指示する。
履修する上で必要な要件	

その他	
到達目標	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護に関わる基本的な考え方、対象への活動の概要を説明できる ・保健師としてとるべき行動や支援を説明できる。 ・公衆衛生看護における倫理的実践能力を身につける方法を理解できる。 ・自分がめざす専門職としての保健師像をもつことができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師、桑野紀子：国際保健、麻原きよみ：行政の保健師、藤内修二：大分県福祉保健部公衆衛生医師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	保健所・市町村に勤務した経験のある保健師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護学概論Ⅱ
時間割コード／Course Code	K00002
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣、藤内修二
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>公衆衛生看護活動に理論やモデルを活用する意義を理解し、対象を理解するために理論やモデルを選択し、公衆衛生看護の実践にいかすプロセスを学ぶ。個人・家族・集団の 視点、家庭・職場・学校の視点、新生児から高齢者までのあらゆるライフステージの視点、異なる健康レベルの対象の生活と健康を守り高める視点を持ち、活用できる理論やモデルを探究する。</p> <p>本科目は、発表、ディスカッションにて進める。教員は、発表やディスカッションに対して、フィードバックを行う。</p>
授業計画	<p>01. 公衆衛生看護活動に理論・モデルに活用する意義</p> <p>02. 公衆衛生看護活動に活用できる理論①個人・家族を理解するための理論と活用</p> <p>03. 公衆衛生看護活動に活用できる理論②集団・組織を理解するための理論と活用</p> <p>04. 公衆衛生看護活動に活用できる理論③コミュニティを理解するための理論と活用①</p> <p>05. 公衆衛生看護活動に活用できる理論④コミュニティを理解するための理論と活用②</p> <p>06. 公衆衛生看護活動に活用できる理論⑤コミュニティを理解するための理論と活用③</p> <p>07. 公衆衛生看護活動に活用できる理論⑥コミュニティを理解するための理論と活用④</p> <p>08. 公衆衛生看護活動における理論の活用</p>
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は、各自が2回は必ず行う。 ・全ての実習終了後、理論やモデルを活用して実習を振り返る機会を持つ。
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・講義でプレゼンする発表資料は、事前に教員のコンサルテーションを受けながら準備する。 ・選択した理論の発表資料の内容は、講義時に説明する。 ・理論発表時の発表者以外は、発表者が選択した理論について、自己学習する。所有している書籍等も活用する。 ・講義後は、配布資料や関連分野の文献・書籍等を読み、公衆衛生看護に活用できる理論の理解を深める。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言、ディスカッション等）：50%、提出物：30%、レポート：20%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護活動に理論やモデルを活用する意義を説明できる。 ・対象を理解するために選択した理論やモデルについて、理論やモデルが出来た時代や社会的背景、理論家自身が理論を作成した背景、理論の内容を説明できる。 ・選択した理論を具体的に事例や活動等を用いて、どのように実践にいかすかを説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護展開特論
時間割コード／Course Code	K00003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣、藤井涼子、川崎涼子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	地域で生活する個人、家族、集団、地域を対象とした疾病の予防や健康の保持増進、健康課題に対する保健所と市町村保健センターの保健師の支援技術を学ぶ。具体的には、ライフサイクルや健康レベルの異なる個人や集団、地域社会全体の健康課題を解決するためのポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、共生社会をめざす保健活動を理解する。教員は、ディスカッションに対して、フィードバックを行う。
授業計画	1. 保健所/市町村保健センターの概要と保健師の支援技術の基盤 2. ポピュレーションアプローチ（地域の健康づくり）①親子保健・子育て支援 3. ポピュレーションアプローチ（地域の健康づくり）②成人・高齢者保健 4. ポピュレーションアプローチ（地域の健康づくり）③精神保健（こころの健康づくり・自殺対策） 5. 親子保健・子育て支援の実際 6. 地域包括支援センターの活動の実際 7. 歯科口腔保健活動 8. リスクを抱える人々への保健活動①親子保健の実際 9. リスクを抱える人々への保健活動②成人・高齢者保健 10. リスクを抱える人々への保健活動③精神保健（薬物・アルコール依存含む） 11. リスクを抱える人々への保健活動④障害児・者保健 12. リスクを抱える人々への保健活動⑤感染症保健の実際（結核療養患者DOTSを含む） 13. リスクを抱える人々への保健活動⑥難病保健（小児慢性特定疾患を含む） 14. 共生社会に向けた保健活動 15. 対象に多様な支援を行う意義と保健師の使命
その他の授業の工夫	・公衆衛生と公衆衛生看護の実践者による講義が含まれる。 ・第7回までの講義は、地域マネジメント実習Ⅰ・Ⅱの市町村実習前に開講し、学びを実習にいかす。 ・第8回以降の講義は、地域マネジメントⅡ実習後から広域看護活動展開実習の保健所実習前の期間に開講し、学びを実習に活かす。 ・外部講師の親子保健に関する講義は、助産学コースと一緒に受講する。
時間外学修	・講義前は、各回のテーマに関連するテキストの内容を読み、不明点は調べて、講義に臨む。所有している書籍等も活用する。 ・講義後は、関連分野の文献や書籍を読み、理解や学びを深める。

評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：50%、提出物：30%、レポート20% レポート内容は、別途提示する。
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術 第2版（医師薬出版）
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所と市町村保健センターの保健師の役割、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの意義を説明できる。 ・各々のアプローチの連動による活動、ライフサイクルや健康レベルに対する連動による活動の展開、多（他）機関との連携、共生社会をめざす保健活動を説明できる。 ・事例を通して、具体的に保健師活動としての看護を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等・支援学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	大分県および市町村に勤務する保健師、地域包括支援センターに勤務する保健師、大分県の歯科医師、地域共生の専門家
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護管理特論
時間割コード／Course Code	K00004
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	持田 恵理
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	持田恵理、川南公代
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	公衆衛生看護管理の概念、基本理論を理解し、管理的な立場の保健師の役割・機能について習得する。また、公衆衛生看護活動を展開するに当たり、チームの一員としての役割を理解し、チームの生産性向上への貢献する役割について実習経験を通して考察する。
授業計画	01. 公衆衛生看護管理の概念、組織論 02. 組織（行政）の基本方針・基本計画、政策 03. 公衆衛生看護管理（地区管理、事例管理、事業管理、組織管理） 04. 公衆衛生看護管理（組織管理、人事管理、予算管理、健康危機管理） 05. 管理的ポストが担う公衆衛生看護管理の実際 06. 予算管理の実際 07.～12.演習（公衆衛生看護管理に関するインタビュー及び観察、情報収集、資料作成） 13.～15. 演習発表、まとめ
その他の授業の工夫	講義、グループワーク、プレゼンテーションを組み合わせ、看護管理に関する関心や経験を踏まえた参加型の授業を行う。
時間外学修	講義後は示された資料や関連分野の文献・書籍等を読み、公衆衛生看護管理に関する用語やシステムの理解を深めること。
評価方法と評価割合	授業参加度：25%、提出物：35%、レポート：40%
テキスト	ハンドアウトとして適宜配布する。
参考書	別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護における管理の必要性について、説明できる。 ・公衆衛生看護管理の機能について、説明できる。 ・実習経験を基に具体的に、公衆衛生看護管理を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	持田恵理：行政の保健師、川南公代：行政の保健師

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	県の保健師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実務経験を活かし、公衆衛生看護管理を教育できる。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	産業保健特論／Advanced theory of industry workers' health
時間割コード／Course Code	K00005
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	小野治子、高波理恵、吉田愛
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	労働環境および作業上の諸条件から発生しやすい疾病・障害を防止し、身体的・精神的・社会的健康と福祉を維持増進するための、産業保健に関するシステム、産業保健活動、産業保健における看護の位置付けと役割および具体的な保健師活動のあり方を習得する。
授業計画	01.産業保健に関する制度・しくみ 02.働く人々の健康問題とその支援① 03.働く人々の健康問題とその支援② 04.多様な人々が活躍できる職場づくり 05.メンタルヘルス対策① 06.メンタルヘルス対策② 07.産業保健・看護活動の実際① 08.産業保健・看護活動の実際②
その他の授業の工夫	公衆衛生看護の実践者による講義を行う。
時間外学修	講義ごとに紹介する参考文献を次回までに読んでおくこと。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）20%、筆記試験 80%、
テキスト	公衆衛生看護学テキスト 公衆衛生看護活動Ⅱ 学校保健・産業保健 2024年度版（医師薬出版） ハンドアウトとして適宜配布する。
参考書	別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1.産業保健活動の目的、意義、対象について説明できる。 2.労働安全衛生管理の内容について説明できる。 3.産業保健の現状と労働者の健康課題解決に向けた支援の方法について考察することができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	高波理恵：起業（実務家）の保健師 吉田愛：企業の保健師

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	学校保健特論／Advanced theory of school health
時間割コード／Course Code	K00006
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	小野治子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>【目的と概要】</p> <p>学校保健活動を担当する専門職、特に養護教諭の役割と機能について学ぶ。学校保健の対象の特性を理解し、それぞれの発達段階を踏まえた健康課題への対応の具体的手法を学ぶ。また、変化する子どもの健康問題地域社会との連携を視野に入れた組織的な解決手法について考える。</p>
授業計画	<p>01. 学校保健の理念と制度</p> <p>02. 養護教諭の職務①（学校保健における健康課題）</p> <p>03. 養護教諭の職務②（健康課題を捉える方法：健康診断・健康相談活動）</p> <p>04. 養護教諭の職務③（健康課題への対応：保健指導・保健学習）</p> <p>05. 学校保健活動の現代の健康課題と連携①（グループワーク・発表）</p> <p>06. 学校保健活動の現代の健康課題と連携①（グループワーク・発表）</p> <p>07. 学校活動活動の実際①（学校訪問）</p> <p>08. 学校活動活動の実際②（学校訪問）</p>
その他の授業の工夫	学校保健の現場を見学し、養護教諭の講話を受ける。また、学校見学では学校内を巡回し、児童生徒が過ごす様子を理解する。講義で学んだ知識を学校現場訪問にてより強固なものにしていく。
時間外学修	講義後は示された資料や関連分野の文献・書籍等を読み、学校保健に関する用語やシステムの理解を深めること。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：20%、提出物：30%、レポート：50%
テキスト	標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動（医学書院） 必要時、ハンドアウトとして適宜配布する。
参考書	新訂版学校保健実務必携（第5次改訂版）（第一法規株式会社）
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<p>【達成目標】</p> <p>1.学校保健活動の概要と対象を説明できる。</p> <p>2.学校保健活動における養護教諭の役割を説明できる。</p> <p>3.学校保健活動における現代の健康課題とその解決に向けた方法について考察することができる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	学校で養護教諭として学校保健活動を実践してきた豊富な経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	健康危機管理特論
時間割コード／Course Code	K00007
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	首藤 佐織
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	首藤佐織、川南公代、小野治子、高木優衣、本山秀樹
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	平時からの地域社会における健康危機管理（災害時保健活動を含む）に関する考え方や保健師活動の展開方法および多職種連携について習得する。発災時の受援や支援時における保健師の活動について理解する。
授業計画	01. 健康危機管理に必要な考え方①健康危機管理の意義と要因 02. 健康危機管理に必要な考え方②リスクマネジメント、リスクコミュニケーション 03. 災害保健活動①：自然災害の平時・有事・事後対応(1) 04. 災害保健活動②：自然災害の平時・有事・事後対応(2) 05. 災害保健活動③：自然災害の平時・有事・事後対応(3)災害保健活動大分県/市町村の取り組みの実際 06. 感染症保健活動①：感染症発生に対する平時・有事・事後対応(1) 07. 感染症保健活動②：感染症発生に対する平時・有事・事後対応(2) 08. 感染症保健活動③：感染症発生に対する平時・有事・事後対応(3) 感染症の集団発生時の大分県の取り組みの実際 09. 感染症保健活動④：食中毒集団発生時の大分県の取り組みの実際 10. 虐待・暴力（DV）の保健活動① 11. 虐待・暴力（DV）の保健活動② 12. 保健所の健康危機管理の実際 13. 災害医療①：災害医療の役割 14. 災害医療②：DHEAT,IHEATの概要 15. 健康危機管理における保健師の役割
その他の授業の工夫	公衆衛生と公衆衛生看護の実践者による講義が含まれる。
時間外学修	講義後は示された資料や関連分野の文献・書籍等を読み、公衆衛生看護に関する用語やシステムの理解を深めること。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：30%、提出物：40%、レポート：30%。
テキスト	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論（医学書院） 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）
参考書	別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	・健康危機管理として、平時からの保健師の活動を説明できる。 ・発災時の受援や支援時における保健師の活動について、説明できる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	首藤佐織：行政の保健師、川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、高木優衣：行政の保健師、本山秀樹：獣医師（実務家）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	行政機関で医療活動や保健活動を実践してきた豊富な経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	健康増進技術演習／Seminar in Health Promotion Skills
時間割コード／Course Code	K00008
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	稲垣 敦
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	21
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	稲垣 敦 安部眞佐子 関根 剛
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	オンライン
科目の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> ・運動指導では、運動指導を科学的に捉える方法を学び、理解を深めるための演習を行う。 ・栄養指導では、保健師としての活動の基盤となる行政の政策の流れを学ぶ。また、実践的な栄養指導が行えるように知識を深め、プレゼンテーションによるわかりやすい伝え方を学ぶ。 ・心理相談では、個人へのカウンセリングスキル、リラクゼーション。集団へのグループダイナミクス情報提供などのスキルを学び、相談の実践力向上を目的とする。
授業計画	01. 運動指導：運動学、運動の測度、身体活動量について 02. 運動指導：歩行について 03. 運動指導：体位・姿勢について 04. 運動指導：体力・運動機能について 05. 運動指導：トレーニングについて 06. 運動指導：運動指導について 07. 栄養指導：栄養・食育政策の流れ 08. 栄養指導：エネルギー代謝と栄養素 09. 栄養指導：食事摂取基準 10. 栄養指導：食事バランスガイド と食品表示 11. 栄養指導：ライフステージ別栄養 12. 栄養指導：疾患と栄養（1） 13. 栄養指導：疾患と栄養（2） 14. 心理相談：心理相談の技術（1）傾聴技法を中心に 15. 心理相談：心理相談の技術（2）積極技法、共感を中心に 16. 心理相談：心理相談の技術（3）ロールプレイ 積極技法を中心に 17. 心理相談：グループダイナミクス（1）リーダーシップ、集団の中の自分 18. 心理相談：グループダイナミクス（2）構成的グループエンカウンター 19. 心理相談：リラクゼーション法：自律訓練、行動療法 20. 心理相談：危機介入：PTSDの予防、被害者や被災者への支援 21. 心理相談：情報提供や講義
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・運動指導では、自分が対象者になって体験し、自己評価する。 ・栄養指導では、与えられたテーマでパワーポイントを作成してプレゼンテーションを行い、質問に答えて理解を深める。 ・心理相談では、それぞれの心理相談スキルについて討議・演習を行って実践的な理解につなげる。

時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・運動指導：レポートを作成する。 ・栄養指導：与えられたテーマのパワーポイントを作成するのは講義時間外に行う。 ・心理相談：講義と関連した動画やサイトを視聴する。また、レポート作成を行う。 (合計36h)
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・運動指導では、レポートで評価する。 ・栄養指導では、プレゼンテーションと質疑応答により評価する。 ・心理相談では、レポートで評価する。 ・3領域の評価をもとに、総合評価する。
テキスト	・必要に応じて資料を配布する。
参考書	安部 ・日本人の食事摂取基準（2025年版）（第一出版）；厚生労働省のサイトからもダウンロード可
履修する上で必要な要件	稲垣 ・大学学部教養レベルの数学・統計学の知識。WORDやEXCELの基本技能 安部 ・食事バランスガイドを理解しておくこと
その他	
到達目標	稲垣 ・運動指導では、身体活動量や運動機能を評価し、運動実施を支援できる。 安部 ・栄養素の働き、食品との関連を指導できるようになる。 ・メタボリックシンドロームの食事指導を行えるようになる。 ・各ライフステージの食事指導を行えるようになる。 関根
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<ul style="list-style-type: none"> ・稲垣敦（実務家教員）：健康運動指導士養成講習会の講師 ・安部眞佐子（実務家教員）：管理栄養士（栄養指導経験） ・関根剛（実務家教員）：臨床心理士（教育センター、少年鑑別所、犯罪被害者支援センターなどの相談員。消防庁緊急時メンタルサポートチーム隊員、大分こころの緊急支援チーム隊員、大分いのちの電話s v、大分被害者支援センター相談員等）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力

DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	
---	--

開講科目名／Course	広域看護アセスメント学演習／Simulated training of community health nursing assessment
時間割コード／Course Code	K00009
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	小野治子、川南公代、首藤佐織、高木優衣、藤野里紗
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	地域診断を用いて地域社会の健康課題の抽出とその評価とそれに対する改善策について学ぶ。マネジメント実習Ⅰ・Ⅱに向けて実習地の既存資料や地区踏査をおこない、対象集団の理解やニーズを多面的にアセスメントし、地域の健康課題を抽出する。その健康課題に対しての具体策や評価について検討する。
授業計画	01. 地域診断の意義と目的・活用できる理論やモデル 02. 地域診断に必要なデータを収集・分析方法 03. 演習：地区踏査計画書作成・実習地の地域マップの作成 04. KDB等、コミュニティの健康状態を把握するデータの活用方法① 05. KDB等、コミュニティの健康状態を把握するデータの活用方法② 06. 実習地の情報収集と分析① 07. 実習地の情報収集と分析② 08. 中間発表①（実習地の概要） 09. 中間発表②（実習地の概要） 10. 地域マネジメント実習Ⅰにて情報収集した量的・質的情報の統合① 11. 地域マネジメント実習Ⅰにて情報収集した量的・質的情報の統合② 12. 中間発表③地域マネジメント実習Ⅱに向けて情報収集内容、取り組みたいこと 13. 中間発表④地域マネジメント実習Ⅱに向けて情報収集内容、取り組みたいこと 14. 地域マネジメント実習Ⅱで情報収集した量的・質的情報の統合と健康課題の抽出 15. 健康課題の抽出、健康課題解決のための具体策や評価
その他の授業の工夫	学生にとって必要な情報が提示できるよう、実習地の保健師や職域保健の担当者と連絡を密にとっていく。
時間外学修	事前・事後学修：実習地の概要を把握するための健康課題にホームページや国や県の統計情報を収集する。毎回、調べて、回数を重ねることで、情報の精度を上げていく。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：30%、提出物：70%
テキスト	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論第7版（医学書院）
参考書	国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド第3版（医歯薬出版） 地域看護診断第2版（東京大学出版会）
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	1. 地域をアセスメントする必要性を説明できる。 2. 地域をアセスメントするためのモデルに基づいて必要な量的・質的データを収集できる。 3. 収集したデータをもとに健康課題を抽出できる 4. 抽出した健康課題に対して具体策や評価を検討できる。
実務家教員の有無 ／ Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／ Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／ Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／ Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／ Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／ Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／ Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／ DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／ Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／ Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護技術特論
時間割コード／Course Code	K00010
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	小野治子、川南公代、首藤佐織、高木優衣、樋口幸
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	個人・家族および集団を対象とした公衆衛生看護活動について、健康支援に関連する理論を理解し、その理論に基づいてアセスメント・計画・実践・評価の過程を展開できる基礎的能力を養う。家庭訪問、健康診査、健康相談、健康教育等の実践技術を通して、対象の主體的な健康行動を支援できる力を育成する。
授業計画	01. 広域看護活動に求められる機能と技術・支援方法 02. 広域看護活動の基盤となる理論 03. 健康支援の方法：①家庭訪問 04. 乳幼児の家庭訪問：子どもの成長・発達の理解、乳幼児のいる家族 05. 乳幼児の家庭訪問：乳幼児の栄養（母乳栄養）（助産：樋口先生） 06. 乳幼児の家庭訪問：乳幼児の栄養（離乳食） 07. 乳幼児の家庭訪問：訪問計画の作成 08. 乳幼児の家庭訪問演習（ロールプレイング） 09. 乳幼児の家庭訪問演習（ロールプレイング） 10. 健康支援の方法：②健康診査（乳幼児健康診査・特定健康診査） 11. 乳幼児の健康診査演習（ロールプレイング） 12. 乳幼児の健康診査演習（ロールプレイング） 13. 健康支援の方法：③健康相談 14. 健康支援の方法：④健康教育 15. 健康支援の方法：⑤グループ支援・組織化活動
その他の授業の工夫	・事例を用いて乳幼児の家庭訪問のアセスメントや訪問計画の立案、乳幼児健康診査の問診の演習を実施し、生活支援実習に活かしていく。 ・健康教育の実施については、2年次健康教育演習で実施する。
時間外学修	ロールプレイングに関しては、学生各自による予習と練習を行い、準備を整える。また、演習後、技術の不足については各自練習を実施する。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）20％・提出物（訪問計画・訪問記録等）30％・ロールプレイ評価50％
テキスト	標準保健師講座 公衆衛生看護技術（医学書院） 母子保健マニュアル 改訂8版（南山堂）

参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護における基本的な健康支援(健康教育・保健指導・健康相談・健康診査・グループ支援)について、その理論的根拠を理解し、対象に応じた展開方法について説明できる。 ・家庭訪問や乳幼児健康診査における対象のアセスメントおよび計画を立案し、ロールプレイングを実施できる。 ・講義・演習を通じて、支援技術を提供する上での保健師に必要な姿勢や態度について言語化できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野治子：高等学校の養護教諭、川南公代：行政保健師、首藤佐織：行政保健師、高木優衣：行政保健師、樋口幸：病院助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	担当教員全員が、実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	健康リスクアセスメント演習／Simulated training of health risk assessment
時間割コード／Course Code	K00011
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	首藤 佐織
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	首藤佐織、川南公代、小野治子、高木優衣
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	感染症における平時から感染予防と拡大防止体制を整える実践対応能力を養う。感染症健康危機管理の発生に対応する能力や感染症健康危機の小康期、収束に対応する能力を事例等を通して習得する。感染症における健康危機管理における保健師の役割について、考察できる。
授業計画	01 事例1：感染症調査と対策の実際（結核） 02 事例1：感染症調査と対策の実際（結核） 03 事例1：各グループの発表・ディスカッション 04 事例1：各グループの発表・ディスカッション 05 事例2：保育所での感染症対応 06 事例2：保育所での感染症対応 07 事例2：各グループの発表・ディスカッション 08 事例2：各グループの発表・ディスカッション 09 事例3-1：施設での感染症対応（初動調査） 10 事例3-2：施設での感染症対応（積極的疫学調査・調査結果の分析と対応） 11 事例3-1：各グループの発表・ディスカッション 12 事例3-2：各グループの発表・ディスカッション 13 実技：呼吸器感染症Zの疫学調査 14 実技：呼吸器感染症Zの疫学調査 15 呼吸器感染症Zの疫学調査のディスカッション
その他の授業の工夫	・健康危機管理を実践するにあたって必要な専門知識および方法について理解するために、既存の資料等で事前学習した内容をもとに、グループワークを実施する。 ・グループワークは、少人数（2～3名）で取り組み、各事例について発表しディスカッションする。
時間外学修	事前学習：授業内容や事例について調べ、授業に臨む。 事後学習：授業内容を振り返り、関連する文献や書籍等を活用し、学びを整理する。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：25%、提出物：50%、レポート：25%
テキスト	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）
参考書	別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康危機を生じさせる感染症について説明できる。 ・感染症の集団発生時の拡大予防策、調査方法を説明できる。 ・事例を通して、健康危機が個人・家族・集団に及ぼす影響を説明することができる。 ・感染症の危機管理における保健師の役割を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	疫学特論／Epidemiology
時間割コード／Course Code	K00012
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	野津 昭文
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	野津 昭文
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	人間集団における健康事象の頻度分布とそれに影響を与える多様な因子を分析するために不可欠な疫学の理論と実践の手法を獲得する。疫学調査法、曝露の効果評価、因果推論という基本的な理論を正しく理解したうえで、現実の人間集団を対象とした場合に必要となる疫学調査研究の倫理的問題、調査におけるさまざまな誤差・バイアスという問題についても理解する。さらに保健師としての活動で特に必要度の高い調査手法とその具体例について事例を通じて理解を深める。
授業計画	01.疫学の基礎 02.疫学の歴史 03.因果関係の考え方 04.疾病発生の測定 05.曝露効果の指標 06.疫学調査法(1) 07.疫学調査法(2) 08.疫学研究における偶然誤差とバイアス 09.疫学データの統計解析 10.交絡の制御(1) 層化 11.交絡の制御(2) 多変量解析による方法 12.臨床疫学(1) 臨床疫学の方法 13.臨床疫学(2) スクリーニング 14.感染症の疫学 15.まとめ 最終試験
その他の授業の工夫	パソコンを使った演習を織り交ぜながら、理解を深める。
時間外学修	テキストの該当部分を事前学習する必要がある。
評価方法と評価割合	小テストもしくはレポート：40% 最終試験：60%
テキスト	ロスマンの疫学（第2版）（篠原出版新社）ISBN-13: 978-4884123727
参考書	
履修する上で必要な要件	Excel, R等を利用した演習を含むためオフィスソフトを中心としたパソコンの基本的な活用能力および初歩的な統計学の理解を必要とする。
その他	

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師国家試験出題範囲をカバーするのみならず，各種疫学調査実践の方法論を理解し，疫学調査データの解析をパソコンで実践できる。 ・EBMにおいて必須となる因果推論の理論やデータやエビデンスに含まれる恐れのあるバイアスについて説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	保健統計学／Health Statistics
時間割コード／Course Code	K00013
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	野津 昭文
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	野津昭文、岡田悠希
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	人口統計や疾病情報、保健情報など、公衆衛生活動の基礎となる集団における健康情報の調査法とその概要、ならびに分析法について学ぶ。また、それら健康情報を適切に整理・分析するための生物統計学の手法を身につける。
授業計画	01.人口統計やその他の保健統計 02.データの要約と統計ソフト 03.確率論 04.推測統計 05.サンプリング理論 06.検定: 連続量 07.検定: 離散量 08.一般線形モデル: 分散分析と線形回帰 09.相関と回帰: ロジスティック回帰 10.生存時間解析 11.症例数設計と多重性の調整 12.優越性と非劣性/中間解析 13.因果推論: 反事実結果 14.因果推論: 観察研究 15.因果推論: 因果ダイアグラム 最終試験
その他の授業の工夫	事前学習とパソコンを用いた演習をミックスして、学習の効率を高め、理解を深める。
時間外学修	事前学習及び提出課題の作成を必要とする回が多い。
評価方法と評価割合	小テスト・小レポート等：50% 最終試験：50%
テキスト	
参考書	生物統計学入門 ―ハーバード大学講義テキスト, 丸善, ISBN 978-4621072066
履修する上で必要な要件	Excel, R等を利用した演習を含むため、オフィスソフトを中心としたパソコンの基本的な活用能力および初歩的な統計学の理解を必要とする。
その他	保健統計部分については、テキストを指定しないが「国民衛生の動向（最新版）」を用意することが望ましい。
到達目標	保健統計データを単に暗記するだけでなく、その発生から活用までのプロセスを説明できる。統計学についても、基本的な統計手法の理解を深めた後、集団の健康事象に関する研究や実務に関連する高度な統計手法も統計ソフトウェアを用いて実践できる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務 経験の有無 ／Practical experience of non- teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務 経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレン ト） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上 させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案 し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	疫学・保健統計学演習／Exercise of Epidemiology and Health Statistics
時間割コード／Course Code	K00014
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	野津 昭文
コース ／course	地域看護学コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	コースによる
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	野津昭文、品川佳満、岡田悠希
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>保健統計学および疫学で学んだ内容をさらに具体的に理解し、手法を実践する能力を身につけることを目的として演習を行う。保健師業務に必須であるICT技術を身につけ、情報収集・分析・発信に活用できる能力を養う。</p> <p>様々な健康情報についての安全で効率的な情報管理の技法、疫学・保健統計データの高度な解析技術、更にはシミュレーションやネットワークを活用した情報発信の技術など、多様な実践能力を養う。</p>
授業計画	01.情報処理の基礎、文献検索・管理 02.データ解析基礎演習 03.保健統計データの解析(1)データの収集と加工 04.保健統計データの解析(2)主要推測統計手法 05.保健統計データの解析(3)多変量解析手法 06.疫学データの解析(1)交絡への対処 07.疫学データの解析(2)生存時間解析 08.総合演習（GIS，統計解析を含む） 各テーマ2コマ
その他の授業の工夫	具体的事例を題材に、一人ずつパソコンを使った演習を行う。
時間外学修	演習内容に関しては、事前に疫学・保健統計学の内容を復習して準備を行う。
評価方法と評価割合	各回の実技を含む小テストもしくはレポート課題：100%
テキスト	保健統計学および疫学特論で使用した講義資料とテキストを利用する。 別途、配布資料を提供する。
参考書	
履修する上で必要な要件	前期科目の「疫学特論」及び「保健統計学」の単位が修得できていない場合、またはそれに相当する知識を有していない場合は履修を許可しない。
その他	
到達目標	疫学・保健統計データの高度な解析を行える。 また、保健師業務に必須であるICT技術を身につけ、情報収集・分析・発信に活用できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	3.研究に必要な英文原著論文を読める力、情報処理能力、及び研究に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	保健医療福祉行政特論
時間割コード／Course Code	K00015
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、持田恵理
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	人々の生命・健康と暮らしを支える社会保障制度の理念と構造を理解し、保健師として各種保健事業を企画・執行するうえで必要な政策形成、企画立案の能力を涵養することを目的として、保健・医療・福祉の制度と政策理念、行財政の方法を習得する。具体的には、法と社会、保健・医療・福祉の行政構造、医療制度と社会保険、親子・成人・高齢者・障がい者など対象者の特性に応じた保健・福祉・介護のシステムについて学ぶ。
授業計画	01. 保健医療福祉行政の基盤 02. 保健医療福祉制度の変遷 03. 保健医療福祉の行政・財政の理念としくみ 04. 保健医療福祉制度と保健師活動 05. 社会保障制度の理念としくみ 06. 保健医療福祉の計画・実施・評価 07. わが国・県・市町村の制度・政策と動向①健康づくり 08. わが国・県・市町村の制度・政策と動向②親子 09. わが国・県・市町村の制度・政策と動向③成人 10. わが国・県・市町村の制度・政策と動向④高齢者 11. わが国・県・市町村の制度・政策と動向⑤障がい者 12. わが国・県・市町村の制度・政策と動向⑥感染症 13. 保健医療福祉の施策の企画・立案・評価① 14. 保健医療福祉の施策の企画・立案・評価② 15. 保健師活動における保健医療福祉制度の活用の意義
その他の授業の工夫	社会資源の活用や事業化、政策提言など保健師に求められる能力を涵養するために、社会保障制度の理解を前提として、現実社会の事象や制度について批判的吟味を加える。事例を通して、保健医療制度のしくみや活用方法のディスカッションを行う。
時間外学修	講義内容について自己学習し、講義中の発言やディスカッションにいかす。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言、ディスカッション等）：50%、筆記試験：50%
テキスト	・標準保健師講座 保健医療福祉行政論 第5版（医学書院）
参考書	・保健学講座 保健医療福祉行政論5（メディカルフレンド社） ・これからの保健医療福祉行政論 法・制度としくみ/政策化・政策形成/地域づくり 第3版（日本看護協会出版社）
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、医療、福祉、介護の制度・政策と動向を説明できる。 ・保健、医療、福祉、介護の地域の健康課題に関して、PDCAに基づいた計画の企画、立案、評価のプロセスを説明できる。 ・事例をととして、対象者や地域特性に応じた健康課題を改善するための保健医療福祉制度のしくみや活用方法を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政保健師、持田恵理：行政保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	疾病予防学特論／Advanced theory of prevention of disease
時間割コード／Course Code	K00016
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	藤内修二、池邊淑子、三浦源太
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	さまざまな健康レベルにある個人、個人を取り巻く家族、集団、社会の健康状態を的確に判断・評価する能力を身につけるために、解剖・生理学、疾病病態学、フィジカルアセスメント、臨床検査法等、診断治療学などの医学的な知識を習得する。また、疾病予防のためにエビデンスに基づいた保健師としての保健指導の実践活動ができるようにするために、必要な知識、および実践能力を習得する。
授業計画	01. 疾病予防の概念 02. 臨床検査および結果の解釈①：肥満、糖尿病、耐糖機能異常 03. 臨床検査および結果の解釈②：脂質異常、高尿酸血症、肝機能異常 04. 臨床検査および結果の解釈③：高血圧、動脈硬化 05. 検査結果の解釈と評価：メタボリックシンドローム、検査異常値の背景にある生活習慣の関連 06. 特定健診・特定保健指導①制度の説明、健診から保健指導の流れ 07. 特定健診・特定保健指導②保健指導の基本（標準化ツールの意義と使用方法） 08. 特定保健指導の実際①：健診データと問診情報の読み取り 09. 特定保健指導の実際②：健診データと問診情報の読み取り 10. 特定保健指導の実際③：背景となる生活習慣の問題点の検討 11. 特定保健指導の実際④：背景となる生活習慣の問題点の検討 12. 特定保健指導の実際⑤：保健指導の実施 13. 特定保健指導の実際⑥：保健指導の評価とPDCA 14. 離島医療① 15. 離島医療②
その他の授業の工夫	公衆衛生の実践者による講義が含まれる。
時間外学修	講義後は示された資料や関連分野の文献・書籍等を読み、公衆衛生看護に関する用語やシステムの理解を深めること。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：80%、レポート：20%
テキスト	必要に応じて配布資料を提供する。
参考書	健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版（日本医事新報社） 成果につなげる特定健診・特定保健指導ガイドブック（中央法規） 特定健診・特定保健指導プログラム（令和6年度版）（厚労省HP）
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	生活習慣病に関する臨床検査とその結果について解釈することができる。 生活習慣病の要因とその背後の生活習慣について関連づけることができる。 生活習慣病に関する保健指導（ロールプレイ）をすることができる。 離島の医療の実際と課題について述べることができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	藤内修二：県福祉保健部（実務家）の医師、池邊淑子：県福祉保健部（実務家）の医師、三浦源太：診療所（実務家）の医師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	医療機関および行政機関で医師として活動を実践してきた豊富な経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	実践薬理学特論／Practical Pharmacology
時間割コード／Course Code	K00017
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	吉田 成一
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	吉田 成一
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	生体内に投与された薬物の生体への影響（薬力学）と、生体内に入った薬物の生体処理法（薬物動態学）を理解し、薬害と有害作用、処方概要と投薬設計、治療効果と副作用についての基礎知識を学ぶ。特に、保健指導に活用する生活習慣病を中心とした疾患（糖尿病、高脂血症、高血圧症など）に対する主な治療薬の作用機序、副作用、注意事項などを理解する。
授業計画	01. 薬理学の概要、医薬品に関連する保健師の業務、薬物の作用様式と作用機序 02. 薬害と有害作用 03. 薬物動態 04. 特定の背景を有するヒトに対する注意事項 05. 添付文書・医薬品インタビューフォーム、各種ガイドラインの見方 06. 生活習慣病治療薬（脂質異常症） 07. 生活習慣病治療薬（糖尿病） 08. 生活習慣病治療薬（高血圧症）
その他の授業の工夫	薬理学の基礎を習得した上で、比較的保健師が対応することの多い疾患の医薬品について論文データを利用しながら講義を行う。
時間外学修	事後学習として学んだ内容を整理するとともに、講義で詳細に説明した以外の医薬品について、積極的に情報を収集すること。
評価方法と評価割合	試験：100%
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 疾患の治療に医薬品を使用する理由が説明できる。 2. 保健師として医薬品に関連する保健師の業務を説明できる。 3. 医薬品の体内動態および副作用、相互作用について説明できる。 4. 保健指導に活用する生活習慣病治療薬の作用機序、副作用、注意事項など説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	薬剤マネジメント学特論／Advanced theory of pharmacy management
時間割コード／Course Code	K00018
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	小野治子、井上真
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	服薬不遵守（ノンコンプライアンス）や多剤投薬（ポリファーマシー）、国民医療費の高騰など医薬品に関する諸問題について理解し、その対策を考える。さらに、生活習慣病などの慢性疾患に使用される医薬品の効能や適切な取り扱い方法、服用方法について保健指導に必要な知識を習得する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の基本、薬局/薬剤師の役割 2. 服薬不遵守（ノンコンプライアンス）への対応 3. 多剤投薬（ポリファーマシー）への対応 4. 脱水、栄養障害への対応 5. 感染症と抗菌薬 6. 妊娠、授乳と薬 7. 生活習慣病と薬物治療 8. 医薬品のリスクマネジメント
その他の授業の工夫	保健活動を行う上で、最低限知っておきたい薬物療法の理論・倫理性を学習し、実際の臨床の場で薬物療法がどのように実施されているのか、何が問題でどんな点に気をつければよいのかを考える上で基礎となる科目であるため、授業時に口頭による解答を求め、学生の理解を確認する。
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義に関連する部分に目を通して授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 ・身の回りの医薬品にどのようなものがあるか、ニュースでは医薬品に関してどのようなことが報じられているか、調べておくとい。
評価方法と評価割合	筆記試験（レポートを含む）：90%、：平常点：（発言・授業参加態度）10%。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<p>医薬品を取り巻く最新の諸問題について説明することができる。</p> <p>保健指導を行う上での医薬品適正使用の対策について考察することができる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	井上真：病院（実務家）の薬剤師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	担当教員は、医療機関で薬剤師として実践してきた豊富な経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	環境保健学特論／Advanced Environmental Health
時間割コード／Course Code	K00019
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小嶋 光明
コース ／course	地域看護学コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	12
開講時期 ／Semester term	後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	小嶋光明
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	オンライン
科目の目的と概要	環境と健康の関係を理解するために、社会的ニュースを事例にして、物理的要因、化学的要因、生物的要因、さらには社会的要因と健康との関係について、基礎概念を中心に解説する。最新の知見を提供する研究論文を解説する力を習得する。
授業計画	01. 環境保健とは 02. 健康やリスクを測る指標 03. 疾病の原因と予防対策 04. 身の回りの発がん物質、がんの寄与リスク 05. 喫煙のリスク、アルコール飲酒のリスク 06. 食のリスク 07. 大気汚染物質の曝露と健康リスク 08. 放射線の曝露と健康リスク 09. リスク評価と環境基準 10. 感染リスクとワクチン 11. リスク論 12. まとめ
その他の授業の工夫	すべての学生が最新の英文原著論文を抄読しプレゼンをする。
時間外学修	最新の英文原著論文を抄読し、プレゼン資料を準備する。
評価方法と評価割合	英文論文を例題として設問に答える問題で試験を行う。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	環境と健康の関係を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	地域生活支援実習／Onsite training of community quality-of-life support
時間割コード／Course Code	K00020
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	50
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>2026年度入学生より適用</p> <p>個別の1事例を担当し、継続的な訪問を通して、地域で生活する個人・家族を対象とした支援を実践できる能力を習得する。そのために、対象者と家族を継続的に訪問し、家族が支援の単位であることを理解する。また、対象者とその家族が地域で暮らしていくための支援の方法を考える。個人・家族を支援する保健師の役割を考察する。</p>
授業計画	<p>実習期間：2年次に実施する</p> <p>実習時間：継続した家庭訪問や関連事業への参加（月1回程度）</p> <p>実習方法：担当事例について、継続家庭訪問を実施する。対象児に関しては、実習指導者との同行訪問を原則とするが、最後の訪問は単独訪問できるようにする。</p> <p>[実習前]</p> <p>1)訪問に必要な基礎知識をまとめておく。</p> <p>①事例（個別・家族）のライフステージにおける個々の発達課題を調べ、整理し、説明できる。</p> <p>②事例のライフステージに合わせた市町村の保健事業の体系について調べ、整理する説明できる。</p> <p>③家族を支援する上で、必要な理論やモデルについて調べ、説明できる。</p> <p>2)初回訪問前に、事例についての事前に情報を得て、訪問目的、訪問計画を立案し、実習指導者と教員に提出し、助言を得る。</p> <p>3)立案した計画に応じ、訪問対象となる家族の情報、社会資源について情報を収集し、訪問時に必要な物品等の準備の確認を実習指導者に行う。</p> <p>4)訪問時に起こりうる事象（相談事などを含む）を予測し、対応できるように準備を行う。</p> <p>[実習中]</p> <p>1) 毎回、訪問前に訪問計画を立案し、実習指導者と教員に余裕（原則1週間前）を持って提出し助言を得る。</p> <p>2) 訪問後（訪問当日）、実習指導者と振り返りを行い、訪問時の疑問点、不明点、課題等を明らかにする。</p> <p>3) 訪問後（訪問当日）、大学に戻り、担当教員に口頭で訪問の報告する。</p> <p>4) 訪問後、原則、翌日までに訪問日誌、訪問記録、エコマップを記載し、実施指導者と教員へ提出し、助言を得る。</p> <p>[実習後]</p> <p>実習後は地域生活支援演習を参照する。</p>

その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の希望等を踏まえ、担当事例は実習指導者にご相談し、対象者のご了解をいただき決定していく。 ・少なくとも実習の訪問導入期は実習指導者との同行訪問とする。 ・地域生活支援演習と連動しながら進めていく。
時間外学修	・実習に向けて、毎回、訪問前に必要な基礎知識をまとめておく。
評価方法と評価割合	実習態度：40%、実習記録物：40%、レポート：20%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	実習内容に関連する書籍、文献を活用する。
履修する上で必要な要件	<ul style="list-style-type: none"> ・広域看護技術特論における家庭訪問の演習を終了していること。 ・必ず担当教員の指導を受け、訪問を実施すること。 ・中間報告を終了していること。
その他	
到達目標	1) 個人・家族の健康課題に対して、家庭訪問のプロセス(情報収集、計画立案、実施、評価)を通して支援できる。 2) 個人・家族の健康課題に対して、関係機関との連携や行政・民間の資源やサービスを活用して支援できる。 3) 個別支援を通じて、地域の健康課題について考えることができる。 4) 公衆衛生看護活動での個人／家族に対して必要な倫理的配慮を説明できる。 5) 個人・家族を支援する保健師の役割を考察できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	市町村保健センターに勤務する保健師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力

DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	
---	--

開講科目名／Course	健康教育演習
時間割コード／Course Code	K00021
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	小野治子、川南公代、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	2026年度入学生より適用 健康教育および公衆衛生看護活動に活用できる理論に基づき事例に対する健康教育の技術および保健師活動の展開方法（健康教育企画案と健康教育指導案の作成、媒体の作成、ロールプレイの実施、評価）を習得する。
授業計画	01. 健康教育とは 02. 健康教育の方法と媒体 03. 演習：健康教育企画案の作成 04. 演習：健康教育企画案の作成（発表） 05. 演習：健康教育指導案の作成 06. 演習：健康教育指導案の作成（発表） 07. 演習：健康教育（発表①） 08. 演習：健康教育（発表②）
その他の授業の工夫	・1年次の広域看護学概論Ⅱ（理論）・広域看護技術特論で学習した理論や知識を用いて健康教育に企画案を考え、健康教育の実施内容を検討する。 ・広域看護活動展開実習ⅡまたはⅢで実際の健康教育を実施する。
時間外学修	・健康教育（模擬）で使用する媒体の作成および発表練習等、各自、準備を整える。また、演習後、企画案、指導案の不足は修正を行い、技術の不足については各自練習を実施する。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：30%、提出物：70%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	最新保健学講座 別巻1 健康教育論 2版（メデカルフレンド社）
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	・個人および集団における学習や行動変容に関わる理論について説明できる。 ・個人および集団の健康課題に対し、対象者の特性に配慮した健康教育の計画・実施することができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野治子：高等学校の養護教諭、川南公代：行政保健師、首藤佐織：行政保健師、高木優衣：行政保健師

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	担当教員全員が実践してきた豊富な経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、7.倫理的意決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	地域生活支援演習
時間割コード／Course Code	K00022
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース／course	地域看護学コース
必修・選択／	必修
授業回数	8
開講時期／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年／Grade	2年
担当教員／	小野治子、川南公代、首藤佐織、高木優衣
講義形態／Class Type	演習
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>2026年度入学生より適用</p> <p>地域生活支援実習と連動し、各自の事例を通しての学生自身の学びのディスカッションを通じて、多様な事例と支援方法について理解を深める。</p> <p>学生は、主体的に発表、ディスカッションを進める。教員は、発表やディスカッションに対してフィードバックを行う。</p>
授業計画	<p>01. 初回家庭訪問の振り返り（事例の紹介 6月）</p> <p>02. 初回家庭訪問の振り返り（事例の紹介 7月）</p> <p>03. 中間報告（今後の支援の方向性について）</p> <p>04. 中間報告（今後の支援の方向性について）</p> <p>05. 家庭訪問のまとめの準備（地域生活支援実習の発表準備）</p> <p>06. 家庭訪問のまとめの発表（地域生活支援実習の発表）</p> <p>07. 家庭訪問のまとめの発表（地域生活支援実習の発表）</p> <p>08. 振り返り</p>
その他の授業の工夫	<p>健康教育特論、地域生活支援実習を連動し、家庭訪問を行う上で必要な技術や知識を活用し、実施している地域生活支援実習について振り返る。各自学生の事例の振り返り、ディスカッションを行うことで、それぞれの事例の応じた保健師の役割や社会資源の活用について理解を深める。発表時の司会進行は学生が担当する。</p> <p>1) 学内での実習報告会（初回・中間8月・最終2月）を開催し、実習での学びを報告・共有する。 【共有・発表の目的】 初回発表：初めての訪問での困りや感動の共有 中間発表：事例の共有し、支援の方向性への助言を得る。 最終発表：地域生活支援実習を通しての学生自身の学びについて一貫性を持って報告する。</p> <p>2) 学内での実習報告会に向けて、実習内容をまとめ、プレゼンテーションの準備し、事前に教員の助言を得る。</p> <p>3) 分かりやすくプレゼンテーションし、質疑応答に対応する。</p>
時間外学修	発表資料は、事前に教員のコンサルテーションを受けながら準備する。資料の内容は、講義で習得した知識や理論やモデルを用いて、実践的な家庭訪問の方法、意義、保健師の役割などを含む。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：50%、提出物：50%
テキスト	標準保健師講座 公衆衛生看護技術（医学書院）

参考書	参考書は別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1.事例の共有を通じて、対象者の健康ニーズの個別性、多様性を説明できる。 2.訪問を通しての学生自身の学びについて一貫性を持って報告できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭、川南公代：行政の保健師、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	地域マネジメント演習
時間割コード／Course Code	K00023
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	小野治子、川南公代、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	地域マネジメント実習ⅠとⅡを連動し、実習地を理解するために、地区踏査を行う。また、各学生の実習地を共通理解するために、発表及びディスカッションを通じて、多様な地域の現状を理解し、健康課題の解決に向けた保健師活動を考察できる能力を養う。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 地域診断と地域保健活動の整理①（地区踏査） 3. 地域診断と地域保健活動の整理②（地区踏査） 4. マネジメント実習Ⅰでの情報共有 5. マネジメント実習Ⅰでの情報共有 6. 発表：地域診断と地域保健活動の統合①（マネジメント実習Ⅱの発表） 7. 発表：地域診断と地域保健活動の統合②（マネジメント実習Ⅱの発表） 8. 振り返り
その他の授業の工夫	広域看護アセスメント学演習と地域マネジメント実習ⅠとⅡを連動し、地域診断の一連の過程を振り返る。各自学生の実習地の事例を振り返り、ディスカッションを行うことで、それぞれの地域課題に応じた保健師の役割について理解を深める。発表、ディスカッションの司会進行は学生が担当する。
時間外学修	発表資料は、事前に教員のコンサルテーションを受けながら準備する。発表内容は、今までの講義、演習、実習で習得した知識を用いて、地域の健康課題及び地域保健活動、保健師の役割などについて考察する。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：50%、提出物：50%
テキスト	標準保健師講座 公衆衛生看護技術（医学書院）
参考書	参考書は別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 実習地の概要を説明できる。 2. 抽出した健康課題について根拠を持って発表できる。 3. 健康課題解決のための支援方法と保健師の役割について考察できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭、川南公代：行政の保健師、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護活動展開演習
時間割コード／Course Code	K00024
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	小野治子、川南公代、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	広域看護活動展開実習Ⅰと連動し、各実習地での実習内容のまとめ発表及びディスカッションを通じて、事例の多様性と保健活動について理解する。学修した健康政策や保健医療福祉システムをもとに、公衆衛生看護活動について理論をもとに整理・統合する能力を養う。
授業計画	01. 広域な組織や地域社会を対象とした看護活動に関する法律と変遷① 02. 広域な組織や地域社会を対象とした看護活動に関する法律と変遷② 03. 広域な組織や地域社会における課題の整理①（広域看護活動展開実習Ⅰの発表準備①） 04. 広域な組織や地域社会における課題の整理②（広域看護活動展開実習Ⅰの発表準備②） 05. 広域な組織や地域社会における課題の整理③（広域看護活動展開実習Ⅰの発表準備③） 06. 広域な組織や地域社会における課題と保健活動（広域看護活動展開実習Ⅰの発表） 07. 広域な組織や地域社会における課題と保健活動（広域看護活動展開実習Ⅰの発表） 08. 振り返り
その他の授業の工夫	各自学生の実習地の事例を振り返り、ディスカッションを行うことで、今後必要とされる社会資源や健康政策・保健医療システムについて理解を深める。発表、ディスカッションの司会進行は学生が担当する。
時間外学修	講義前に、発表資料を作成する。発表資料は、事前に教員のコンサルテーションを受けながら準備する。
評価方法と評価割合	授業参加度（発言・ディスカッション等）：50%、提出物：50%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	別途指示する。
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各事例の共有を通じて、施策・事業を説明できる。 ・実習を通して抽出した健康課題に対する具体的な解決策やその評価について自分の考えを述べることができる。 ・今後の保健所保健師の役割について考察することができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭、川南公代：行政の保健師、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	地域マネジメント実習Ⅰ
時間割コード／Course Code	K00025
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	25
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	市町村の保健師活動に参加し、市町村保健師の役割を理解するために、実習中の事業等に参加する。参加する事業については、PDCAサイクルを意識し、実施するに至った経緯（背景）、目的、対象、実施内容、評価等を理解する。
授業計画	実習期間：令和8年7月の1週間 実習時間：8:30-17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間） 実習方法：市町村で実施されている保健事業に、目的を設定し参加する。
その他の授業の工夫	・事前準備として、実習場所となる市町村の概要を既存資料から読みとり、地域の特徴を分析する。5月に実習場所となる市町村へ出向き事前相談を行う。その際、学生自身が作成した実習希望理由書を用い説明を行う。 ・本実習終了後は、地域マネジメント実習Ⅱに向けて、学生自身の興味と市町村の課題を指導保健師や教員とともに検討し、実習テーマを決定する。
時間外学修	・実習に備えて、参加する事業については、事前に実施するに至った経緯（背景）、目的、対象、実施内容、評価等を把握し、理解する。
評価方法と評価割合	実習態度50%、実習記録物50%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	実習内容に関連する書籍、文献等を活用する。
履修する上で必要な要件	
その他	実習条件 1.広域看護アセスメント学演習（6月）の発表を終了していること。
到達目標	・市町村の保健師活動に参加を通して、理解した市町村保健師の役割を説明できる。 ・参加した事業の実施するに至った経緯（背景）、目的、対象、実施内容、評価等を説明できる。 ・実習を通して理解した住民や地域について、自分の考えを説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	市町村保健センターに勤務する保健師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	担当教員全員が、実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	地域マネジメント実習Ⅱ
時間割コード／Course Code	K00026
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	75
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	地域マネジメント実習Ⅰに連続して、地域および集団の健康課題を特定できる能力を修得する。健康課題の特定に際しては、地区視診や既存資料の分析結果を統合する能力、保健所と市町村の保健医療に関するデータを二次的に活用できる能力を強化する。収集したデータを統合し、地域診断し、地域の健康課題を抽出し、健康課題の解決に向けた対策、評価評価ができる能力を養う。実習を通じて、市町村保健師の役割を考察する。
授業計画	実習期間：令和8年8月-9月3週間 実習時間：8:30-17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間） 実習方法：自身の関心事に対して、実習地が取り組んでいる、もしくは、取り組むことが必要な健康課題に焦点を当て、実習を進めていく。また、市町村で実施されている保健事業についても参加する。実習を進めるにあたっては、実習指導者や教員へ、随時、報告連絡相談を行う。
その他の授業の工夫	事前準備： ・広域看護アセスメント学演習、地域マネジメント実習Ⅰ、地域マネジメント演習と連動し、実習地域の市町村の概要を既存資料から読みとり、地域の特徴を分析し実習に臨む。 ・実習中に把握したい情報は、実習指導者へご相談し、実習前に情報集を進める。
時間外学修	実習中： ・実習で収集した情報を整理し、実習指導者や教員へ報告する。 ・実習指導者や教員からのアドバイスを参考にし、統合したデータのアセスメント、さらに、収集したい情報を検討できる。
評価方法と評価割合	実習態度：40%、実習記録物：40%、レポート：20%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	実習内容に関連する書籍、文献等を活用する。
履修する上で必要な要件	
その他	実習条件 ・広域看護アセスメント学演習での6月・8月の2回の発表を終了していること。 ・7月の地域マネジメント実習Ⅰを終了していること。
到達目標	・実際の保健事業の参加や住民との関わりを通じて、量的データや質的データを収集できる。 ・実習期間内にアセスメントを基に、実際の地域の健康課題を検討できる。 ・市町村保健師の役割を考察できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	市町村保健センターに勤務する保健師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	行政機関及び学校保健での保健活動を実践してきた豊富な経験をもとに、学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護活動展開実習Ⅰ
時間割コード／Course Code	K00027
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	75
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>地域マネジメント実習Ⅰ・Ⅱで習得した知識と技術を統合させ、関心ある分野の難病、精神、母子、感染症、地域・職域連携などの現状から健康課題を抽出し、健康課題を解決する保健師の取り組み、評価までのプロセスを展開する実践力を修得する。そのために、関心ある分野の特定の個人記録等から事例の経過、活用している社会資源等を情報収集し、整理を通して事例を理解する。事例の健康課題の改善のためには、どのような社会資源の整備が必要かを具体的に検討し、どのような指標で評価するか考える。これらを通して保健所保健師の役割を考察する。このプロセスを、分かりやすく伝える能力を養う。</p>
授業計画	<p>実習期間：令和8年11月 3週間 実習時間：8:30-17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間） 実習方法：自身の関心ある分野について実習指導者のアドバイスをいただきながら、学生、教員間と実習状況を共有しながら実習を進める。 [実習前]：広域看護活動展開演習を参照 [実習中] 1週目：関心ある分野の特定の個別事例や関連事業の参加を通して実際の状況を整理、把握する。 1) 特定の個別事例の記録の読み取りや関連事業の参加を通して、事例の実情、支援体制、支援内容、不足している社会資源を整理、把握する。 2) 関心ある分野の特定のいくつかの事例の特徴（共通点・相違点）や健康課題などを整理、把握する。 3) 2週目以降、深めて行きたい方向性を明らかにする。 2週目：関心ある分野の特定の個別事例の当事者や家族の思い、支援者の意図、実際の支援体制について把握し、述べることができる。 1) 特定のいくつかの個別事例の当事者や家族の思いを把握する。 2) 支援者の意図を把握し、支援体制の現状について整理する。 3週目：実習中に得た情報や経験を統合し、現状を整理する。健康課題を明確化し、支援策と評価方法を検討する。実習を通して保健所における保健師の役割について考察する。</p>
その他の授業の工夫	<p>・自分の関心と合わせてテーマ候補を挙げ、実習希望書・実習要項を作成する。その上で、実習要項を用いて保健所で実習打ち合わせを行い、指導保健師と教員と相談してテーマを決定し、実習計画を作成していく。</p> <p>・テーマを持って実習に臨み、アセスメントに必要な情報を追加収集する。情報とは、量的データや質的データ（実習中に把握した住民や保健師の方々の声等）である。自分の関心あるテーマから考えた健康課題を明確化できるように、実習前、実習中に教員と状況を共有する機会を随時設定する。</p>

時間外学修	<p>実習前：（広域看護活動展開演習で下記を行う）</p> <p>1) 地域保健法など保健師業務に関連する法律、事業などの歴史と時代的背景から、保健師業務内容や役割の変遷を整理する。</p> <p>2) 関心ある分野の難病、精神、母子、感染症、地域・職域連携などの各保健分野において、歴史の変遷から関連する法律や制度を整理し、国・都道府県・市町村の役割や事業体系、関係機関、組織を整理する。</p> <p>3) 保健所報などの既存の資料より、実習地の取り組みについてわかる範囲で整理する。</p> <p>実習後：レポートを作成する。広域看護活動展開演習へ連動し、報告会に向けて準備する。</p>
評価方法と評価割合	実習態度40%、実習記録物40%、レポート20%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	実習内容に関連する書籍、文献を活用する。
履修する上で必要な要件	
その他	<p>実習条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメント実習Ⅱを終了し、地域マネジメント演習の発表を終了していること。
到達目標	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所の機能と保健師の役割を説明できる。 ・関心ある分野の特定の個人記録から事例の経過、活用している社会資源を説明できる。 ・保健所管内の関心ある分野の収集した量的及び質的データを基に、保健所の管内の現状を説明できる。 ・関心ある分野の量的及び質的データを統合し、健康課題を抽出し、健康課題を解決するための支援策と評価方法を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	県に勤務している保健師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力

DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	
---	--

開講科目名／Course	広域看護活動展開実習Ⅱ
時間割コード／Course Code	K00028
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	25
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	川南公代、小野治子、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	地域マネジメント実習と広域看護活動展開実習で習得した知識と技術を統合させ、労働者の健康課題を総合的にとらえ活動する産業保健師の役割を学ぶ。また、産業保健と地域保健との連携・協働について考察できる能力を養う。
授業計画	<p>実習期間：令和8年6月から10月 実習時間：8:30～17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間） 実習方法：関心のある分野について実習指導者のアドバイスをいただきながら、学生、教員間と実習状況を共有しながら実習を進める。</p> <p>[実習前] 以下の時間外学修を参照する。 [実習中] 事前に立案した実習計画をもとに、産業保健活動への参加・実施を行う。 [実習後] 時間外学修を参照する。</p>
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心と合わせて実習希望書を作成する。その上で、実習打ち合わせを行い、指導保健師と教員と実習計画を作成する。 ・産業保健の事業について、主体的に事業を実施するに至った経緯（背景）、目的、対象、評価等を理解するために、指導者からご指導を受ける。
時間外学修	<p>[実習前] 1) 実習施設の産業保健チームの位置づけ、活動体制、健康管理に関わる職場内外の関係者や組織、機関の役割をHPより調べ、整理し、説明できる。 2) 実習施設で発生しやすい健康問題等について、職場の業務内容等から分かる範囲で整理し、考察する。 3) 実習中に実施する産業保健活動（健康相談、健康教育、保健指導）の内容について実習指導者と相談し、準備する。 [実習後] 1) 学内で実習での学びを報告・共有する。</p>
評価方法と評価割合	実習態度：50%、実習記録物：30%、レポート：20%
テキスト	標準保健師講座 シリーズ（医学書院）
参考書	実習内容に関連する書籍、文献を活用する。
履修する上で必要な要件	<p>実習条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメント実習Ⅱ、広域看護活動展開実習Ⅰを終了し、地域マネジメント演習と広域看護活動展開演習の発表を終了していること。
その他	

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業における産業保健師活動の実際と役割を説明できる。 ・産業保健活動（健康相談、健康教育、保健指導）の一部を実施できる。 ・産業保健と地域保健との連携・協働について考察し、説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	企業に勤務している看護職
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	医療機関および行政機関、企業で看護職として保健活動を実践してきた豊富な経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護活動展開実習Ⅲ
時間割コード／Course Code	K00029
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	小野 治子
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	25
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	小野治子、川南公代、首藤佐織、高木優衣
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	地域マネジメント実習と広域看護活動展開実習で習得した知識と技術を統合させ、高齢者の健康課題を総合的に捉え活動する保健師の役割を学ぶ。地域包括支援センターの役割と機能を理解するとともに、多職種との連携の中で求められる保健師の専門的役割や調整機能について理解を深める。さらに、地域社会に暮らす高齢者の健康課題に対応した保健福祉事業の企画・運営の実践を理解し、今後の保健師活動の展開について考察する。
授業計画	<p>実習期間：令和8年6月から10月 実習時間：8:30～17:15（実習時間は原則として各実習施設の勤務時間） 実習方法：関心のある分野について実習指導者のアドバイスをもらい、学生、教員間と実習状況を共有しながら実習を進める。</p> <p>[実習前]以下の時間外学修を参照する。 [実習中] 1) 事前に立案した実習計画をもとに、地域包括支援センターでの保健活動への参加・実施を行う。 [実習後]以下の時間外学修を参照する。</p>
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心と合わせてテーマ候補を挙げ、実習希望書・実習要項を作成する。その上で、実習要項を用いて保健所で実習打ち合わせを行い、指導保健師と教員と相談してテーマを決定し、実習計画を作成していく。 ・「何のために行うか」、「何の情報が必要か」を考えながらテーマを持って実習を行い、保健福祉事業における関係機関の連携・協働の重要性を学べるよう指導していく。
時間外学修	<p>[実習前] 1) 実習施設のある地域の高齢者施策の体系図、高齢者の健康課題などをHP等より調べ、整理し、説明できる。 2) 実習施設で取り組んでいる事業の目的・法的根拠・事業の経緯などについて分かる範囲で整理し、考察する。 3) 実習中に参加または実施できる事業の内容について実習指導者と相談し、準備する。 [実習後] 1) 学内で実習での学びを報告・共有する。</p>
評価方法と評価割合	実習態度：50%、実習記録物：30%、レポート：20%。
テキスト	標準保健師講座シリーズ（医学書院）
参考書	実習内容に関連する書籍、文献を活用する。
履修する上で必要な要件	

その他	<p>実習条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメント実習Ⅱ・広域看護活動展開実習Ⅰを終了し、地域マネジメント演習および広域看護活動展開演習の発表を終了していること。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターでの保健師活動の実際を説明できる ・多職種連携の視点からその機能と役割（保健師の役割含む）について説明できる。 ・地域包括支援センターが展開する事業の実際および地域の健康課題との関連性を述べるができる。 ・地域の高齢者の健康課題に対応するための社会資源の活用、今後の課題、今後求められる保健師の役割について自分の意見を述べるができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野治子：高等学校の養護教諭、川南公代：行政の保健師、首藤佐織：行政の保健師、高木優衣：行政の保健師、
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	地域包括支援センターに勤務する看護職
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	NP特論
時間割コード／Course Code	NPO001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	西田 裕子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	西田裕子、小野美喜、石田佳代子、草野淳子、甲斐博美、庄山由美、上野聖子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	日本の医療社会情勢の変化とNursePractitioner教育の創設経緯について学ぶとともに、米国等の海外のNP教育の歴史的変遷やNPの役割・活動について理解し、健康増進・疾病予防はもちろん、症状マネジメント、他職種との連携の重要性など、高度実践看護師としてのコンピテンシーを学び、日本のNPに係わる現状の課題や展望から、今後NPが果たすべき役割について考える。
授業計画	01 日本におけるNPに求められる役割、役割の効果をどう示すか（石田） 02 日本の小児NPの教育と活動(草野) 03 日本におけるNP教育活動、本学のNP教育活動、NPに必要な7つの能力（小野、西田） 04 チーム医療とNPの実践活動（上野） 05 NPに必要な能力（実践と教育から）（庄山） 06 地域医療を支えるNPの実践活動（甲斐） 07 08 高度実践看護師としてNPに必要な能力とは（草野、石田、甲斐、西田）
その他の授業の工夫	講師の診療看護師は、診療看護師（NP）の根幹となる実践知を通じてNPの役割を講義する。
時間外学修	講義と参考テキストなどにより、NPの役割をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。
評価方法と評価割合	講義参加態度・プレゼンテーション（50%）レポート内容（50%） レポート提出方法と期限は別途指示する。
テキスト	高度実践看護 総合的アプローチ（ヘルス出版）等
参考書	APNに関する書籍
履修する上で必要な要件	参考図書、診療看護師（NP）の活動に関する論文や診療看護師（NP）の目指す7つの能力について事前学習をする。
その他	スケジュールは別途示す
到達目標	1. 日本の医療社会情勢を踏まえてNursePractitioner教育の創設経緯について学びが理解でき、プレゼンテーションできる。 2. 国内外のNPや診療看護師教育とNPの役割・活動について理解し、NPに求められる7つの能力とAPNのコンピテンシーについての学びをでディスカッションやプレゼンテーションにより言語化できる。 3. レポートの体裁を整え、参考文献を活用して考察できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	西田裕子（診療看護師）、小野美喜（看護師）、石田佳代子（看護師）、草野淳子（看護師）、甲斐博美（看護師）

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	庄山由美：長崎県病院企業団 長崎県壱岐病院（実務家）看護師（診療看護師） 上野聖子：臼杵市医師会立臼杵コスモス病院（実務家）看護師（診療看護師）
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	指導者となる診療看護師（NP）は、実務経験を有し、活動を通じて、診療看護師（NP）に必要な高度実践能力を指導する。医師や看護管理者は、診療看護師の育成に携わる経験により実習指導を強化する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	プライマリNP演習
時間割コード／Course Code	NPO002
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	西田 裕子
コース／course	NPコース
必修・選択／	必修
授業回数	8
開講時期／Semester term	前期後半
学年／Grade	1年
担当教員／	西田裕子、石田佳代子、草野淳子、三苫美和、甲斐博美、大島操、廣田真理、光根美保、清原小百合、上野聖子、筑濱浩子、岩崎正和、小野智佳子
講義形態／Class Type	演習
オンライン授業の実施について／online	一部オンライン
科目の目的と概要	診療看護師（NP）の活動について具体的に理解し、高度実践看護師の在り方、今後必要となる高度看護実践能力と自己の課題を明確にする。健康増進・疾病予防の活動、他職種連携、NPが活躍する組織や地域などの内容を含めて、プライマリNPとしての役割について、文献研究し、プレゼンテーション、ディスカッションする。
授業計画	<p>演習方法</p> <p>1. 演習時間 学内4日 施設でのNP同行演習1日</p> <p>2. 演習場所 学内（オンライン） 診療看護師（NP）が活動する一般病院、診療所、介護老人保健施設、訪問看護ステーション等</p> <p>3. 演習の展開方法</p> <p>①学内にて、診療看護師（NP）の役割や活動する組織における安全管理、組織分析等を講義とディスカッションにて学ぶ</p> <p>②1日施設にて診療看護師（NP）NPに同行（演習施設の指導NPと事前相談する）</p> <p>③学内にてカンファレンスで学びを共有する</p> <p>④演習の学びをレポートにまとめ今後の自己の学習課題を明確にする</p>
その他の授業の工夫	学内演習を経て、本学の修了生（診療看護師）が活動する施設にて診療看護師（NP）に同行することにより、様々な場での実践活動を知り、今後の学習のイメージを深めることができる。
時間外学修	事前にビジュアルラーニング・ナーシングスキルを視聴し活用すること。
評価方法と評価割合	授業態度・演習の取り組み（同行演習、プレゼンテーション、ディスカッション参加度）：50% 学内演習課題レポート、同行演習計画と演習記録）：50%
テキスト	ビジュアルラーニング・ナーシングスキルの視聴 5th EDITION高度実践看護総合アプローチ へるす出版
参考書	組織分析に関するもの
履修する上で必要な要件	NP特論での学びを整理する。
その他	<p>・オリエンテーション、演習スケジュールは別途指示する。</p> <p>・NP同行演習までに、施設管理者・医師・診療看護師（NP）と打ち合わせを行う。</p>

到達目標	<p>学内演習に向けた自己学習と学内演習での課題やディスカッションを通じて、診療看護師（NP）の活動について理解し同行の演習に望むことができる。（組織分析・文献レビューなど）</p> <p>同行演習にあたり指導を受けながら演習計画を立案し、現地の指導者と打合せができる。</p> <p>同行演習では、計画を自律的に実施し、学びを目標に基づいて述べることができ、指導者と共有することができる。</p> <p>高度実践看護師の在り方、今後必要となる高度看護実践能力と自己の課題を明確にすることができる。</p> <p>健康増進・疾病予防の活動、他職種連携、NPが活躍する組織や地域などの内容を含めて、プライマリ領域の診療看護師（NP）としての役割について、同行演習や文献学習を考察できる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<p>西田裕子（診療看護師）、石田佳代子（看護師）、草野淳子（看護師）、三苫美和（看護師）、甲斐博美（看護師）、大島操（看護師）</p> <p>廣田真理：学校法人別府大学（看護師）</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	<p>光根美保：中津胃腸病院（実務家）看護師 診療看護師</p> <p>清原小百合：国東市民病院訪問看護ステーション（実務家）看護師 診療看護師</p> <p>上野聖子：臼杵市医師会立コスモス病院（実務家）看護師 診療看護師</p> <p>筑濱浩子：臼杵市医師会立コスモス病院（実務家）看護師 診療看護師</p> <p>岩崎正和：津久見市医師会立津久見中央病院（実務家）看護師 診療看護師</p> <p>小野智佳子：津久見市医師会立津久見中央病院（実務家）看護師 診療看護師</p>
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	指導者となる診療看護師（NP）は、実務経験を有し、活動を通じてNPに必要な高度実践能力を指導する。医師や看護管理者は、診療看護師の育成に携わる経験によりNPの学生への指導を強化する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	NP実践特論
時間割コード／Course Code	NPO003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	石田佳代子 草野淳子 小野美喜 古賀雄二 西田裕子 安部涼子 菅谷愛美 高根利依子 後藤愛 光根美保
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	オンライン
科目の目的と概要	既存の知識や理論を活用して現象を分析するとともに、対象者の発達段階や健康段階、対象者を取り巻く家族や地域といった環境面からも幅広く包括的に捉える過程を通して、診療看護師（NP）としての活動の本質を探究する。
授業計画	01. オリエンテーション、NPの役割と看護理論（石田） 02. 成人・老年と家族看護、取り巻く環境の理解、社会資源の活用（古賀） 03. 小児分野で使用する看護理論、小児の遊び（草野） 04. 小児と家族看護、取り巻く環境の理解、社会資源の活用（草野） 05. 高齢者への看護実践と理論（小野） 06. 高齢者への看護実践と理論（小野） 07. 小児の在宅療養を支えるNPの活動（菅谷） 08. 障害をもつ児を支えるNPの活動（後藤） 09. 成人・老年の在宅療養を支えるNPの活動（高根） 10. 爪ケアに関わるNPの活動（安部） 11. 在宅における他職種連携（光根） 12. 在宅における他職種連携（光根） 13. シュラーのNPモデル（西田） 14. NPの実践と看護理論の探究（プレゼンテーション） 15. NPの実践と看護理論の探究（プレゼンテーション）
その他の授業の工夫	診療看護師（NP）として実践している修了生の体験やその考え方、特徴について、学んだことや考察したことについて、個人でレポートを書く。その後、グループディスカッションにより考察を深め、プレゼンテーションおよび最終レポートの記載を通して診療看護師（NP）としての活動の本質を探究する。
時間外学修	修了生の講義後の課題レポートの作成
評価方法と評価割合	・診療看護師の授業後の課題レポート内容（30%） ・グループワークの参加度（10%） ・プレゼンテーションの内容（20%） ・最終レポートの内容（40%）
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の発達段階や健康段階、取り巻く家族や地域といった環境面を含めて、幅広く捉えることができる。 ・実践の基盤となる看護理論を探究し、NPとしてのより質の高い看護実践について考察することができる。 ・診療看護師（NP）の役割や責任、活動の実際などを理解し、将来のNPとして活動する展望や課題を深める。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	石田佳代子：病院の看護師 草野淳子：病院の看護師 小野美喜：病院の看護師 古賀雄二：病院の看護師 西田裕子：病院の看護師、診療看護師（NP） 安部涼子：病院の看護師、診療看護師（NP） 菅谷愛美 病院貴勤務で在宅医療にも関わる診療看護師 高根利依子 訪問看護ステーションに勤務する診療看護師 後藤愛 重症心身障害児施設に勤務する診療看護師 光根美保 訪問看護ステーションおよび病院等での勤務経験がある診療看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	診療看護師の活動経験や考え方、エビデンスに基づき実践してきた活動内容
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	診察診断学特論
時間割コード／Course Code	NPO004
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	濱中 良志
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	24
開講時期 ／Semester term	前期後半、後期前半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	濱中良志、安部隆三、永瀬公明、安東優、溝口博本、糸永一郎、佐分利能生、宮崎英士、西水翔子、平井健一、長濱明日香、別府幹庸、草野淳子、足立綾、坪内優太、恵谷玲央、安部涼子、西田裕子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	各分野の疾患の主要症状の診断の仕方を学び検査所見を理解する。
授業計画	01-02 泌尿器科系疾患とその主要症状の診かたおよび検査所見の解釈（平井） 03-04 血液疾患とその主要症状の診かたおよび検査所見の解釈（佐分利） 05-06 消化器系疾患とその主要症状の診かたおよび検査所見の解釈(溝口) 07-08 X線画像・超音波画像の読み方(恵谷、坪内、西田) 09-10 心血管系疾患とその主要症状の診かたおよび検査所見の解釈（永瀬） 11-12 呼吸器系疾患とその主要症状の診かたおよび検査所見の解釈(安東) 13-14 救急患者の診かたと所見の解釈 (安部) 15-16 整形外科疾患と主要症状の診かたおよび検査所見の解釈（糸永） 17-18 地域医療における症状の診方および検査所見の解釈（宮崎・西水） 19 小児の病歴の取り方、診断の進め方（別府） 20 小児プライマリケアにおける薬剤と輸液の適正使用・ワクチン接種の実際（別府） 21 小児の初期診療の基本検査の進め方と評価（別府） 22 小児のX線画像、心電図波形、超音波画像の読み方（長濱） 23 小児の泌尿器系疾患と主要症状の診方と検査の解釈（長濱） 24 アトピー性皮膚炎、じんましん、紫斑、爪の診方と検査の解釈（長濱）
その他の授業の工夫	対話形式で授業を行う。
時間外学修	各分野の診察診断学のテキストを予習する。
評価方法と評価割合	各分野の内容の筆記試験：100%（80%以上が合格とする）。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	各分野の疾患の主要症状の診断の仕方および検査所見の解釈が出来るようになる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	アセスメント学演習
時間割コード／Course Code	NPO005
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	石田佳代子 濱中良志 立川洋一 三苫美和 甲斐博美 西田裕子 安部涼子 内倉祐介
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	オンライン
科目の目的と概要	<p>包括的健康アセスメント、医療処置治療マネジメント能力を修得することを目的とする。そのためシミュレーショントレーニングを行い、実践的な専門的知識と技術を養い、慢性疾患や症状等を伴う高齢者（成人を含む）の包括的健康アセスメントと医療処置治療マネジメントを繰り返し行い、臨床推論能力を養う。</p> <p>1. 演習の展開方法</p> <p>1) 事例の包括的健康アセスメントを行い、看護的治療マネジメントの立案を行う</p> <p>2) アセスメントや看護的治療マネジメントの演習は、ロールプレイによる模擬患者や臨床事例を通してトレーニングを行う</p> <p>3) アセスメントの結果および看護的治療マネジメントをプレゼンテーションし、ディスカッションを通して技術や知識を共有し、個々の能力を発展させる</p>
授業計画	<p>01 オリエンテーション POS 臨床推論の思考プロセス</p> <p>02 事例Aに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>03 事例Bに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>04 事例Cに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>05 事例Dに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>06 事例Eに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>07 事例Fに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>08 事例Gに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>09 事例Hに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（老年NP） 小児事例Aに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（小児NP）</p> <p>10 事例Iに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（老年NP） 小児事例Bに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（小児NP）</p> <p>11 事例Jに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（老年NP） 小児事例Cに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（小児NP）</p> <p>12 事例Kに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（老年NP） 小児事例Dに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション（小児NP）</p> <p>13 事例Lに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>14 事例Mに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>15 事例Nに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>16 事例Oに対する臨床推論のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>＊演習の詳細スケジュールは別途配布</p> <p>＊症例課題は演習の1週間前に提示する</p>

その他の授業の工夫	事前課題として、臨床で多く経験する症状・症候などを含んだ事例に対し、ケースレポートを作成し、演習の中でプレゼンテーションを行い、医師から直接指導を受ける。臨床推論の思考を養うために、数多くの事例に取り組んでいく。本科目の一環とである授業の総まとめとしての実習前試験では、模擬患者の協力を得てOSCEを実施し、包括的健康アセスメント、医療処置治療マネジメントの確実な能力の修得を図る。
時間外学修	演習のための基本的な知識習得のための自己学習が必要です。プレゼンテーションの準備をしてください。
評価方法と評価割合	筆記試験とOSCEにより評価する。(100%)
テキスト	各疾患診療ガイドライン 診察診断学（医学書院）他
参考書	
履修する上で必要な要件	本演習に出席し、プレゼンテーション、ディスカッションに参加すること。 演習終了後（指定された期限内）に担当のプレゼンテーションを含むすべての症例課題レポートを提出すること。
その他	
到達目標	1) 事例の包括的健康アセスメントと、看護的治療マネジメントの立案を行うことができる。 2) ロールプレイによる模擬患者や臨床事例を通してトレーニングを行うことができる。 3) アセスメントの結果および看護的治療マネジメントをプレゼンテーションし、ディスカッションを通して技術や知識を共有し、個々の能力を発展させることができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	石田佳代子：看護師 濱中良志：医師 三苫美和：看護師 西田裕子：看護師、診療看護師（NP） 安部涼子：看護師、診療看護師（NP） 甲斐博美：看護師 内倉祐介：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	立川洋一：大東よつば病院（実務家）循環器内科医師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床の医師と診療看護師、大学教員の医師や看護師が演習形式でサポートします。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	臨床薬理学特論
時間割コード／Course Code	NPO006
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	吉田 成一
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	24
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	吉田 成一、●伊東 弘樹、●田中 遼大、●吉川 直樹
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	慢性疾患を中心とした疾患の治療に用いる医薬品についての作用機序、体内動態（血中濃度）、代謝経路、副作用、適応疾患、年齢依存性などの基本的事項を理解し、処方にあたったの留意点、年齢や病態による薬物動態の変動、および薬物相互作用について学ぶ。薬物療法を受ける対象者に対する実践的な観察能力、判断能力を高めることを目的とする。
授業計画	01. 臨床薬理学総論：薬物動態 02. 臨床薬理学総論：医薬品の関与する医療事故の現状 03-24. 各種治療薬各論
その他の授業の工夫	医薬品の体内動態、相互作用など薬理学の基礎を学習した上で、様々な疾患の治療薬を学習することで、各種治療薬を一つずつ単純に学習するのではなく、一般化して学習できるように講義をすすめる。
時間外学修	講義中に行う、確認問題等を事後学習するとともに、講義で使用した資料、教科書を整理し、理解を深めること。
評価方法と評価割合	試験：100% 試験で評価点として80点以上の得点をとること。
テキスト	N E W薬理学 改訂第7版（南江堂） 今日の治療薬 ―解説と便覧（南江堂）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 慢性疾患を中心とした疾患の治療に用いる医薬品について説明できる。 2. 各種ガイドラインから治療薬の選択理由を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	伊東 弘樹：大分大学医学部(実務家) 薬剤師 田中 遼大：大分大学医学部附属病院薬剤部(実務家) 薬剤師 吉川 直樹：大分大学医学部附属病院薬剤部(実務家) 薬剤師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	医療処置・管理の実践能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	臨床薬理学演習
時間割コード／Course Code	NPO007
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	吉田 成一
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	吉田 成一、甲斐 博美、●高木 繁薫
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	対象者に対するNPの役割を理解し、必要とされる薬理学に関する高度看護実践能力を事例によるシミュレーションを通じて学ぶ。
授業計画	01-02. 導入、降圧薬、脂質異常症治療薬、消化器疾患治療薬、高尿酸血症治療薬 03-04. 循環器系疾患治療薬（抗不整脈薬、昇圧薬、呼吸管理用剤） 05-06. 脳梗塞治療薬、心不全治療薬 07-08. 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬 09-10. ぜん息治療薬、COPD治療薬、抗けいれん薬 11-12. 糖尿病治療薬、抗不安薬、抗精神病薬 13-14. 睡眠薬、抗うつ薬、輸液、栄養輸液調整、認知症治療薬 15-16. 麻酔薬（局所麻酔薬、鎮痛薬、鎮静薬、吸入麻酔薬）
その他の授業の工夫	事例毎に1名の受講生が説明し、教員および参加受講生全員とディスカッションを行う。 処方箋の書き方など薬物の処方の実際について、p-drug(事例演習)で行う。
時間外学修	毎回の演習にあたり課題のプレゼンテーション準備をする。演習のための基本的な知識習得のための自己学習が必要です。 担当した事例を含め、演習で使用した事例全てについてまとめる。
評価方法と評価割合	プレゼンテーション、ディスカッション、演習の参加度（70%） 担当のプレゼンテーションを含むすべての事例の提出（30%）
テキスト	
参考書	ポケット医薬品集（白文社） 今日の治療薬（南江堂） NEW薬理学 改定第6版（南江堂）他、ガイドライン等
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 事例に含まれる各種患者情報を考慮した薬剤選択について説明できる。 2. 各種医薬品の作用及び副作用について説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	高木繁薫：社会医療法人関東会 坂ノ市病院（実務家）薬剤師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	病院薬剤師および調剤薬局薬剤師を講師とした演習により、より実践的な薬理学の学習とする。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、看護マネジメント能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	医療安全実践演習
時間割コード／Course Code	NPO008
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	西田 裕子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期後半、後期前半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	西田裕子（診療看護師）、石田佳代子（看護師）、草野淳子（看護師）、甲斐博美（看護師）、足立綾（看護師）、安部涼子（診療看護師）、大島操（看護師）、濱中良志（医師）
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	特定行為を含み高度な知識・技術を修得し、安全面に配慮した高度実践看護師としての能力を養う。特定行為により症状マネジメントのための技術について安全かつ確実に実施できる能力を養う。
授業計画	01 特定行為研修について（石田） 02,03 手順書作成（西田） 04,05 創傷管理関連（西田） 06,07 ろう孔管理関連（西田） 08,09 栄養に係るカテーテル管理関連（西田） 10,11 胸腔・腹腔・創部ドレーン管理関連（西田） 12,13,14 呼吸器関連（大谷） 15,16 薬剤投与関連、その他（西田） 詳細なスケジュールは別途知らせます。
その他の授業の工夫	シミュレーターや実技等を多用して指導する。演習がスムーズに実施できるように、学内で演習を行います。
時間外学修	学内の自己学習システムであるナースングスキルの特定行為のプログラムを視聴し、自己学習して臨むこと。
評価方法と評価割合	演習準備・参加態度（40％） 技術習得度・特定行為試験（筆記試験・OSCE試験）の結果（60％） OSCE試験は第3者の評価を行います。
テキスト	ナースングスキルの特定行為のプログラムを活用すること
参考書	特定行為研修到達度チェックリスト（別途渡します）
履修する上で必要な要件	ナースングスキルの特定行為のプログラムを視聴学習自己学習すること
その他	詳細なスケジュールは別途示す。
到達目標	・診療において頻繁に遭遇する検査、治療、処置ができる。 ・医療面接やシミュレーターを用いたフィジカルアセスメント技術、超音波検査などの医療機器を使用した診察・検査ができる。 ・創傷処置や胃ろうカテーテル交換など侵襲性の高い特定行為を安全・確実に実施できる。 ・演習で学んだ技術を、自己、学生間での演習につなげる。 ・治療技術の基本原則を学び、安全にモデルを用いて実施できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	西田裕子（診療看護師）、石田佳代子（看護師）、草野淳子（看護師）、甲斐博美（看護師）、三 苫美和（看護師）、足立綾（看護師）、内倉佑介（看護師）、安部涼子（診療看護師）、大島操（ 看護師）、濱中良志（医師）
教員以外で指導に関わる者の実務 経験の有無 ／Practical experience of non- teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務 経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	大谷清太郎：大分大学医学部附属病院（実務家）看護師 診療看護師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床の医師や看護師、診療看護師が特定行為に係る技術や治療に係る判断や技術などの実践を指導 します。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレン ト） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメ ント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	特定行為実習
時間割コード／Course Code	NPO009
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	－
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期後半、別途指示
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	石田佳代子 西田裕子 甲斐博美 安部涼子 大島操
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>1. 特定行為の実施において患者の安全と倫理的観点から順守すべき内容を述べることができる。</p> <p>2. 特定行為の必要性の判断、適応や禁忌の判断、実施時及び実施後のアセスメントを述べ、記述できる。</p> <p>3. 特定行為の実施の前中後において、医療チームとの協働の重要性とその中での診療看護師の役割について述べるができる。</p> <p>4. 特定行為の実習を通して、NPとなるための専門的知識・技術、臨床推論・臨床判断、また倫理観や説明責任を含む態度など、自己の思考や行動を省察できる。</p>
授業計画	<p>・実習期間：4月～8月 約20週間（昼間の授業科目がない日） 2月～3月 約4週間</p> <p>・実習場所：一般病院（8施設）</p> <p>・実習の展開方法：</p> <p>① 1つの特定行為につき、5症例以上の経験を通し、当該特定行為の適応や実施の必要性、実施の可否の判断、実施中や実施後のアセスメントができる能力を修得する。</p> <p>② 特定行為の実践能力に関して、医師・診療看護師の指示の下で、患者・家族へのインフォームドコンセントおよび技術を修得する。</p> <p>③ 特定行為の一連の判断や行動において、チーム医療の一員としての行動がとれる</p> <p>④ 特定行為レポートの記録を通して、実施前、中、後のアセスメントについて、より深く考察するとともに、自己の判断や行動を省察する。</p> <p>※詳細については、ガイダンスを行う。</p>
その他の授業の工夫	<p>① 1年次に特定行為の筆記試験、OSCE試験を実施し合格していることが前提の実習である。</p> <p>② 本学が開講している17区分31行為のうち、個々の学生が認定を希望する特定行為の事前調査および学生の希望を参考に、実習施設や時期の実習計画を立てる。</p> <p>③ 実習中は、特定行為の症例の経験が主である。</p> <p>④ 特定行為レポートが、厚生労働省の規定する5症例を満たしているかの判断となるため、大学で特定行為レポートの複写を保存する。</p> <p>⑤ 本学での特定行為の認定は学生個々に認定し、学生の認定申請に基づき行う。</p>
時間外学修	<p>① ナーシングスキルを実習前OSCEと試験までに必ず視聴学習し、実習前にも再度視聴学習して実習に臨むこと。繰り返し視聴し、指定された時間の視聴は必須である。</p> <p>② 学内実習において、シミュレーターなどで自主的トレーニングをする。</p> <p>③ 特定行為実践のための基本的な知識習得のための自己学習、必要な医学的知識の習得。</p>

評価方法と評価割合	特定行為レポート内容・期限内の提出（70%）、実習態度（30%） レポートの提出期限は、実習終了後1週間までとする。提出期限を過ぎたものは受け付けない。 （詳細は実習要項に示す）
テキスト	ナーシングスキルによる学習 診察診断学（医学書院） 看護師特定行為区分別科目研修テキストシリーズ（中央法規） 看護師特定行為研修共通科目テキストブックシリーズ（中央法規）等
参考書	各種ガイドライン
履修する上で必要な要件	特定行為研修における、筆記試験とOSCEに合格することが履修条件となる。
その他	実習は、特定行為の症例が達成できるまで履修となる。4月～8月が実習予定期間である。 特定行為研修に向けたOSCEと筆記試験の合格が履修条件となる。 特定行為レポート提出：特定行為の実施後は、実施週に必ずレポートを記入する。それぞれの特定行為の実習終了後1週間以内に担当教員に紙媒体で直接提出する。 特定行為実績表記入：上記レポート提出と同時に実績数を入力。 特定行為実施に係る指導者からの証明（印鑑）：教員が取りまとめたレポート提出時に証明の印鑑を頂く。
到達目標	1．特定行為研修到達度チェックリストに沿った学習と実践ができる。 2．示された内容のレポート記述 3．特定行為レポートの期限内の提出（実習終了後1週間の期限）
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	石田佳代子：看護師 西田裕子：看護師、診療看護師（NP） 安部涼子：看護師、診療看護師（NP） 甲斐博美：看護師 大島操：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	病院の医師、診療看護師、看護師長、看護管理者
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床の医師や診療看護師による特定行為の指導、判断、スキルに関する指導を行う。大学教員は特定行為に係るレポートや態度、倫理的観点から指導を行う。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	

DPとの対応（助産学）
／Correspondence with DP
(Midwifery)

--

開講科目名／Course	NP探究セミナー
時間割コード／Course Code	NPO010
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	草野 淳子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	5
開講時期 ／Semester term	後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	草野淳子 甲斐博美 西田裕子 足立綾 大島操
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	NP実習にて担当した事例の中から1事例を総まとめの実践として振り返る。担当教員や他学生との意見交換、文献学習を行なうことで知識・技術を強化し、NPとしての意識と実践能力を高める。実習した3施設での、プライマリNPとしての役割を考察し、発表用のパワーポイントを作成し、意見交換をする。
授業計画	<p>1．ケースレポートの発表と討議（4コマ） NP実習にて担当した事例（12事例目）の臨床推論と実践を発表する。担当教員や他学生との意見交換、文献学習を行なうことで知識・技術を強化し、NPとしての実践能力を高める。</p> <p>2．プライマリNPの役割に関する発表と討議（4コマ） 実習した3施設における、プライマリNPとしての役割を理論を用いて考察し、パワーポイントを作成後に発表し、意見交換をする。</p> <p>3．意思決定支援事例の演習（4コマ）</p> <p>4．実習記録のまとめ（8コマ） ケースレポート、評価表のまとめ</p>
その他の授業の工夫	NP実習で担当した症例について、文献学習や学生間での意見交換等を通して診療看護師(NP)として、より質の高い看護実践について振り返り、探究できるようにする。
時間外学修	NP実習のケースレポート作成や基本的な知識の習得において、文献講読などの時間外学習を行う。
評価方法と評価割合	ケースレポート・診療看護師（NP）の役割（70%） 発表・全体討議・事例演習への参加度（30%）
テキスト	各種診療ガイドライン他
参考書	
履修する上で必要な要件	14週間の実習を履修することが条件となる
その他	スケジュールの詳細は別途指示
到達目標	<p>1．ケースレポートを通じて、実習で学んだ症例の展開が述べられる。</p> <p>2．診療看護師（NP）の7つの能力を用いて、役割を考察することができる。</p> <p>3．意思決定支援に関して、自己学習と事例のディスカッションができる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	甲斐博美（看護師）草野淳子（看護師） 西田裕子（看護師 診療看護師） 大島操（看護師）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	症例の内容や診療看護師（NP）の役割の考察に対し、看護師の役割側面から指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	老年疾病特論
時間割コード／Course Code	NPR001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	濱中 良志
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	濱中 良志、安東優、財前 博文、一万田 正彦、木村 成志、塩月成則、加隈哲也、小坂聡太郎、安部涼子、西田 裕子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	NPとしてプライマリケアを提供するために、老年期によくみられる慢性期の疾病および継続療養における臨床評価について学び、その診断・処方（薬、検査）・治療について知識を修得する。
授業計画	01. 循環器系の病気と治療（冠動脈疾患他）（財前） 02. 循環器系の病気と治療（高血圧症、他）（財前） 03. 呼吸器系の病気と治療（閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患）（安東・濱中） 04. 呼吸器系の病気と治療（人工呼吸器）（安東・濱中） 05. 輸液 （塩月） 06. 電解質 （塩月） 07. 内分泌の病気と治療 （加隈） 08. 代謝系の病気と治療 （加隈） 09. 神経疾患の病気と治療(脳梗塞後遺症、パーキンソン病他）（木村） 10. 心の病気と症状・治療（老年期うつ、認知症、不眠、せん妄）（木村） 11. 終末期の症状（一万田） 12. 緩和医療（ペインコントロール、抗うつ剤、抗不安薬の使用）（一万田） 13. 消化器疾患と治療（小坂） 14. 消化器感染症と治療（小坂） 15. まとめ（濱中） 注）順序は変動する。
その他の授業の工夫	対話形式で行う。
時間外学修	予習を課す。
評価方法と評価割合	筆記試験：100%（80点以上で合格）
テキスト	配布資料
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	各疾患についての所見・診断・治療について説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	濱中 良志、佐分利能生、加隈哲也、財前 博文、小坂聡太郎、一万田 正彦、木村 成志（すべて病院で勤務する臨床医）

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	老年NP実習Ⅰ／Gerontological Nurse Practitioner Nursing & PracticeⅠ
時間割コード／Course Code	NPR008
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	8.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子
コース／course	NPコース
必修・選択／	必修
授業回数	40
開講時期／Semester term	前期後半、後期前半
学年／Grade	2年
担当教員／	石田佳代子 西田裕子 安部涼子 内倉佑介 濱中良志
講義形態／Class Type	実習
オンライン授業の実施について／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>1. 一般病院において高齢者に対し包括的健康アセスメント及び治療処置マネジメントを医師や診療看護師の指導の下で修得することを目指す。</p> <p>2. 症例の担当、病棟や外来他部門での実践を通じて臨床推論、アセスメント能力、フィジカルアセスメント能力の向上を目指す。</p> <p>3. 対象者を取り巻くチーム医療マネジメント能力の向上を目指す</p> <p>4. 高度実践看護における倫理観を高める。</p> <p>＊履修年度の実習前試験に合格していることを履修条件とする</p>
授業計画	<p>実習方法</p> <p>1. 実習時間 8週（1日8時間、5日/週の実習時間）</p> <p>2. 実習場所 一般病院</p> <p>3. 実習の展開方法</p> <p>①外来や在宅において、軽微な症状や慢性期疾患（高血圧、糖尿病、COPD、認知症など）をもつ高齢者の包括的健康アセスメント、および看護的治療マネジメントに関する実践能力を医師や診療看護師の指導の下で修得する</p> <p>②患者の包括的健康アセスメント、治療処置マネジメントの所見・結果を記録する</p> <p>③医師や診療看護師の指導下で特定行為の技術を習得とする</p> <p>④医師、診療看護師、看護指導者、本学教員を含めたカンファレンスを適宜設けて振り返り、実践を深める</p> <p>⑤高齢者特有の疾患をもつ患者のケースレポートをまとめ、ケース発表を通して学生間で学びを共有する</p> <p>＊実習の詳細スケジュールや実習要項を別途配布する</p>
その他の授業の工夫	<p>実習で担当する症例や診療に係る他部門での実習を基にケースレポートを作成し、医師や診療看護師（NP）、看護管理者、大学教員からの指導を受け、臨床推論能力やアセスメント能力の向上を目指していきます。2週間毎に、実習施設と学内帰学日でのカンファレンスを通じて指導をしていきます。</p>
時間外学修	<p>ナーシングスキルの視聴をすること</p> <p>特定行為に関しては、学内実習室におけるシミュレーターでの演習を自律的に行う。</p> <p>特定行為実践のための基本的な知識習得のための自己学習が必要です。</p> <p>診療に必要な医学的知識、看護治療マネジメントのための基礎知識、介護保険等の自己学習が必要です。</p>

評価方法と評価割合	<p>実習出席日数、実習態度、症例プレゼンテーション：60%</p> <p>実習記録、レポート課題、実習達成度（実習評価表A・B）：40%</p> <p>実習評価表A：ひとつでもD判定があれば不合格となる。</p> <p>実習評価表B：指導医からの評価により再学習が必要な場合は、実習期間中に再指導を受け、評価をいただく。</p>
テキスト	<p>ナーシングスキルによる学習</p> <p>診察診断学（医学書院）</p> <p>看護師特定行為区分別科目研修テキストシリーズ（中央法規）</p> <p>看護師特定行為研修共通科目テキストブックシリーズ（中央法規）等</p>
参考書	各種ガイドライン
履修する上で必要な要件	履修年度のアセスメント学演習を履修し、その単位である実習前の筆記試験・OSCEに合格することが履修条件となる。
その他	<p>1. 原則100%の出席</p> <p>2. 実習スケジュールは別途配布</p>
到達目標	<p>1) 複数の診療科及び外来や放射線部、検査部、手術室、ICU、救急部等において多様な症例の包括的健康アセスメントを実施する能力を養う。</p> <p>2) 医療処置・管理の実践（特定行為を含む）や看護実践を通じた看護マネジメントの展開をする。</p> <p>3) 症例への医療提供が円滑となるようチームの中での連携のあり方を学ぶ。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<p>石田佳代子：病院の看護師</p> <p>西田裕子：病院の看護師</p> <p>安部涼子：病院の看護師</p> <p>内倉佑介：病院の看護師</p> <p>濱中良志：病院の医師</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	各実習施設の指導は一般病院医師（内科・外科等）、看護師、看護管理者、診療看護師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床の医師や看護師、大学教員の医師や看護師から臨床推論やアセスメント、特定行為に係る指導をします
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	老年NP実習Ⅱ／Gerontological Nurse Practitioner Nursing & PracticeⅡ
時間割コード／Course Code	NPR009
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	4.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	西田 裕子
コース／course	NPコース
必修・選択／	必修
授業回数	20
開講時期／Semester term	前期後半、後期前半
学年／Grade	2年
担当教員／	西田裕子、甲斐博美、大島操、濱中良志
講義形態／Class Type	実習
オンライン授業の実施について／online	一部オンライン
科目の目的と概要	<p>1. 診療所において高齢者に対し包括的健康アセスメント及び看護治療マネジメントを医師の指導の下で習得することを目指す</p> <p>2. 症例の担当、病棟や外来他部門、訪問診療での実践を通じて臨床推論、アセスメント能力、フィジカルアセスメント能力の向上を目指す</p> <p>3. 対象者を取り巻くチーム医療マネジメント能力の向上を目指す</p> <p>4. 高度実践看護における倫理観を高める</p> <p>＊履修年度の実習前試験に合格していることを履修条件とする</p>
授業計画	<p>実習方法</p> <p>1. 実習時間 4週（1日8時間、5日/週の実習時間）</p> <p>2. 実習場所 診療所・クリニック</p> <p>3. 実習の展開方法</p> <p>①外来や在宅において、軽微な症状や慢性期疾患（高血圧、糖尿病、COPD、認知症など）をもつ高齢者の包括的健康アセスメント、および看護的治療マネジメントに関する実践能力を医師の指導の下で修得する</p> <p>②患者の包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントの所見・結果を記録する</p> <p>③医師の指導下で医行為の技術を習得とする</p> <p>④医師、看護指導者、本学教員を含めたカンファレンスを適宜設けて振り返り、実践を深める</p> <p>⑤高齢者特有の疾患をもつ患者のケースレポートをまとめ、ケース発表を通して学生間で学びを共有する</p> <p>⑥特定行為研修として手順に沿って指導の下で経験を積む</p> <p>＊実習の詳細スケジュールや実習要項を別途配布する</p>
その他の授業の工夫	<p>実習で担当する症例や診療に係る他部門での実習を基にケースレポートを作成し、医師や診療看護師（NP）、看護管理者、大学教員からの指導を受け、臨床推論能力やアセスメント能力の向上を目指していきます。2週間毎に、実習施設と学内帰学日でのカンファレンスを通じて指導をしていきます。</p>
時間外学修	<p>事前にビジュランクラウド・ナーシングスキルの視聴をすること</p> <p>特定行為に関しては、学内実習室におけるシミュレーターでの演習を自律的に行う</p> <p>特定行為実践のための基本的な知識習得のための自己学習が必要です</p> <p>診療に必要な医学的知識、看護治療マネジメントのための基礎知識、介護保険等の自己学習が必要です</p>

評価方法と評価割合	原則100%の実習出席 実習態度、担当症例への取り組みとプレゼンテーション（50%） 実習記録（デイリーレポート、ケースレポート）の作成と期限内の提出、実習達成度（実習評価表A・B）（50%）
テキスト	ビジュランクラウド・ナースングスキルの視聴 診察診断学、各種ガイドライン 看護師特定行為区分別科目研修テキストシリーズ（中央法規） 看護師特定行為研修共通科目テキストブックシリーズ（中央法規）等
参考書	各種ガイドライン
履修する上で必要な要件	履修年度のアセスメント学演習を履修し、その単位である実習前の筆記試験・OSCEに合格することが履修条件となる。
その他	1. 原則100%の出席 2. 実習スケジュールは別途配布
到達目標	1) 外来にて軽微な症状の初期診療ができる。 2) 慢性疾患（表2参照）の診療ができる。 3) 指導医の訪問診療・往診に同行し、在宅での継続診療ができる。 4) 在宅領域での、包括的健康アセスメントができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	西田裕子（診療看護師）、甲斐博美（看護師）、大島操（看護師）、濱中良志（医師）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	各実習施設の指導は一般病院と診療所の医師（内科・外科等）、看護師、看護管理者、診療看護師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床の医師や看護師、大学教員の医師や看護師から臨床推論やアセスメント、特定行為に係る指導をします
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	老年NP実習III／Gerontological Nurse Practitioner Nursing & PracticeIII
時間割コード／Course Code	NPR010
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	西田 裕子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	10
開講時期 ／Semester term	前期後半、後期前半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	西田裕子、甲斐博美、大島操、濱中良志
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	<p>1. 介護老人保健施設や在宅において高齢者に対し包括的健康アセスメント及び看護治療マネジメントを医師の指導の下で習得することを目指す</p> <p>2. 症例の担当、病棟や外来他部門、訪問診療での実践を通じて臨床推論、アセスメント能力、フィジカルアセスメント能力の向上を目指す</p> <p>3. 対象者を取り巻くチーム医療マネジメント能力の向上を目指す</p> <p>4. 高度実践看護における倫理観を高める</p> <p>＊履修年度の実習前試験に合格していることを履修条件とする</p>
授業計画	<p>実習方法</p> <p>1. 実習時間 2週（1日8時間、5日/週の実習時間）（施設：2週）</p> <p>2. 実習場所 介護老人保健施設</p> <p>3. 実習の展開方法</p> <p>①施設や在宅において、軽微な症状や慢性期疾患（高血圧、糖尿病、COPD、認知症など）をもつ高齢者の包括的健康アセスメント、および看護的治療マネジメントに関する実践能力を医師の指導の下で修得する</p> <p>②患者の包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントの所見・結果を記録する</p> <p>③医師の指導下で医行為の技術を習得する</p> <p>④医師、看護指導者、本学教員を含めたカンファレンスを適宜設けて振り返り、実践を深める</p> <p>⑤高齢者特有の疾患をもつ患者のケースレポートをまとめ、ケース発表を通して学生間で学びを共有する</p> <p>⑥特定行為研修として手順に沿って指導の下で経験を積む</p> <p>＊実習の詳細スケジュールや実習要項を別途配布する</p>
その他の授業の工夫	<p>実習で担当する症例や診療に係る他部門での実習を基にケースレポートを作成し、医師や診療看護師（NP）、看護管理者、大学教員からの指導を受け、臨床推論能力やアセスメント能力の向上を目指していきます。2週間目に実習施設と学内帰学日でのカンファレンスを通じて指導をしていきます。</p>
時間外学修	<p>事前にビジュラクラウド・ナーシングスキルの視聴をすること</p> <p>特定行為に関しては、学内実習室におけるシミュレーターでの演習を自律的に行う</p> <p>特定行為実践のための基本的な知識習得のための自己学習が必要です</p> <p>診療に必要な医学的知識、看護治療マネジメントのための基礎知識、介護保険等の自己学習が必要です</p>

評価方法と評価割合	原則100%の実習出席 実習態度、担当症例への取り組みとプレゼンテーション（50%） 実習記録（デイリーレポート、ケースレポート）の作成と期限内の提出、実習達成度（実習評価表A・B）（50%）
テキスト	ビジュランクラウド・ナースングスキルの視聴 診察診断学、各種ガイドライン 看護師特定行為区分別科目研修テキストシリーズ（中央法規） 看護師特定行為研修共通科目テキストブックシリーズ（中央法規）等
参考書	各種ガイドライン
履修する上で必要な要件	履修年度のアセスメント学演習を履修し、その単位である実習前の筆記試験・OSCEに合格することが履修条件となる。
その他	1. 原則100%の出席 2. 実習スケジュールは別途配布
到達目標	1) 入所している高齢者およびデイケアに参加する在宅高齢者の包括的健康アセスメントができる。 2) 医療処置・管理の実践や看護実践を通じた看護マネジメントを実施できる（特定行為を含む）。 3) 急変を含めた健康状態の変化を早期発見し、施設における医療的処置の必要性の判断と実施ができる。 4) 倫理的な判断を要する治療・療養環境の選択などの意思決定にかかわる支援ができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	西田裕子（診療看護師）、甲斐博美（看護師）、大島操（看護師）、濱中良志（医師）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	各実習施設の指導は医師（内科）、看護師、看護管理者、診療看護師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床の医師や看護師、大学教員の医師や看護師から臨床推論やアセスメント、特定行為に係る指導をします
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	小児疾病特論
時間割コード／Course Code	NPS001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	草野 淳子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	27
開講時期 ／Semester term	後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	草野 淳子、足立綾、井原健二、脇口宏之、前田知己、小林修、福永拙、原卓也、糸永知代、井上真紀、 大川優子、後藤洋徳、河野暢之、平野直樹、矢田満里子、衛藤恵理子、岸本慎太郎、清田晃生、
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	小児医療の場で自律的な看護実践を行うために必要な小児の慢性・急性疾患の知識と技術等を学ぶ。また、小児の疾病に関する臨床推論能力を高め、より高度で専門的な知識と技術を修得する。
授業計画	01. 中枢神経の蓄積病（先天性代謝異常症）（井原）1h、 小児の脳腫瘍・血管性病変（水頭症他）（後藤）1h 02. 筋疾患・ミトコンドリア病（大川）1h、新生児神経・発達医学（前田）1h 03.小児の骨・関節疾患（福永）2h 05. 小児の成長・栄養（井原）、小児の新血管系疾患と主要症状・検査（原）1h 06 .小児の新血管系疾患と主要症状・検査（原）2h 07.先天性代謝異常症（井原）1h、小児の内分泌疾患（糸永）1h 08..腫瘍性疾患（平野）1h、細菌感染症（矢田）1h 09.小児の呼吸器疾患（脇口）1h、小児の血液・造血管疾患（後藤）1h 10.小児の消化器疾患（脇口）1h、アレルギー（脇口）1h 11.水・電解質（河野）1h、新生児学総論（前田）1h 12.新生児学各論（井上）1h、ウイルス感染症（衛藤）1h 13.川崎病・不整脈・起立性調節障害（岸本）1h、免疫不全症（脇口）1h 14.リウマチ性疾患（脇口）1h、小児期の痙攣・てんかん・脳波の基礎（小林）1h 15.小児中枢神経感染症・脳炎（小林）1h、先天性疾患の診療・病態生理（原）1h 16.先天性疾患の診療・病態生理（原）1h、先天性疾患の診療・病態生理（原）1h 17.小児のこころの病気と治療（思春期の病理）（清田）1.5h 18.小児のこころの病気と治療（思春期のうつ、児童虐待ほか）（清田）1.5h
その他の授業の工夫	適宜、ハンドフリーの資料を配布する。
時間外学修	予習：疾患に関する文献を調べ学習を行う。(13h) 復習：講義の資料を中心に、疾患の概略と治療等について深める。(13h)
評価方法と評価割合	試験：100%
テキスト	特になし
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	講義内容やスケジュールの詳細については別途指示

到達目標	小児医療の場で自律的な看護実践を行うために必要な小児の慢性・急性疾患の知識と技術等を学び、小児の疾病に関する臨床推論能力を高め、2年次の実習で生かすことができる。試験を受験し80%以上を取得することができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	草野淳子：保健所保健師の経験あり 足立綾：大学病院小児科/成人病棟の経験あり
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	井原健二（大分大学医学部小児科学講座教授：研究職） 脇口宏之（大分大学医学部大分子子ども急性疾患学部門医療・研究事業：教授：研究職・実務家） 福永拙（社会福祉法人別府発達医療センター理事長兼センター長：実務家） 前田知己（社会福祉法人別府発達医療センター医師：実務家） 原卓也（大分県立病院小児科部長：実務家） 清田晃生（大分療育センター所長：実務家） 岸本慎太郎（大分大学医学部小児科学講座：研究職・実務家） 小林修（大分大学医学部小児科学講座助教：研究職・実務家） 糸永知代（大分大学医学部小児科学講座：研究職・実務家） 井上真紀（大分大学医学部小児科学講座講師：研究職・実務家） 大川優子（大分大学医学部小児科学講座：研究職・実務家） 後藤洋徳（大分大学医学部小児科学講座：研究職・実務家） 河野暢之（大分大学医学部小児科学講座：研究職・実務家） 平野直樹（大分大学医学部小児科学講座：研究職） 矢田満理子（大分大学医学部小児科学講座：研究職・実務家） 衛藤恵理子（大分大学医学部小児科学講座：研究職・実務家）
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	各疾患・分野の専門の医師により、エビデンスに基づいた専門性が高い疾病論と治療の実践について学生が学び、理解ををしていく過程を教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	小児NP実習Ⅰ／Pediatric Nurse Practitioner Nursing & PracticeⅠ
時間割コード／Course Code	NPS008
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	8.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	草野 淳子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	8週間
開講時期 ／Semester term	後期前半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	草野 淳子、原卓也、黒木雪江、
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> ・主に慢性疾患を持ちながら地域で暮らす小児に対して、医師の指導の下、自律的に医療的・看護的介入を行い、プライマリケアを提供できる実践力を養う。 ・総合病院において受け持ち患児の疾患の臨床推論等の実践技術を修得する。 ・事例分析を通して、小児がケアされている環境の現状分析を行い、高度実践看護師としての援助のあり方を探る。
授業計画	<p>実習方法</p> <p>1. 実習時間 8週（1日8時間、5日/週の実習時間）</p> <p>2. 実習場所 総合病院</p> <p>3. 実習の展開方法</p> <p>① 病棟や外来において、軽微な症状や慢性期疾患（喘息、糖尿病、便秘、発熱など）をもつ小児の包括的健康アセスメント、および看護的治療マネジメントに関する実践能力を医師の指導の下で修得する</p> <p>②患者の包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントの所見・結果を記録する</p> <p>③医師の指導下で医行為の技術を習得とする</p> <p>④医師、看護指導者、本学教員を含めたカンファレンスを適宜設けて振り返り、実践を深める</p> <p>⑤小児特有の疾患をもつ患者のケースレポートをまとめ、ケース発表を通して学生間で学びを共有する</p> <p>⑥特定行為研修に関する行為について見学・実施を指導者の下で行う</p>
その他の授業の工夫	<p>実習指導体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中に受け持ち患児の記録について、実習施設の指導者または担当教員より指導をうける。 ・指導は、実習施設と大学内とを併用する形とする。実習施設において、適宜医師など医療従事者からも助言やフィードバックを積極的に受ける。 ・特定行為等については実習評価表に基づき指導者の評価をうける。
時間外学修	疾患に対する予習（4h）毎日のレポート作成、自己学習（4h）を行ってください。
評価方法と評価割合	<p>100%の実習参加と8事例の報告レポート提出</p> <p>実習参加状況と、提出レポートの内容が看護実践に繋がる臨床推論を記載しているかを評価する（100%）。</p>
テキスト	特になし

参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	小児に一般的で、NPに対応が求められる疾患を持つ小児の臨床推論、治療・看護計画を立案できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	草野淳子：保健所の保健師の経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	原 卓也：大分県立病院小児科部長 医師（実務家） 黒木雪江：大分県立病院看護部 看護師 診療看護師（NP）の資格をもつ（実務家）
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	小児専門医による指導により、高度医療のもとで、小児に特有な疾患の理解、臨床推論、治療・看護的マネジメントを教授いただく。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	小児NP実習Ⅱ／Pediatric Nurse Practitioner Nursing & Practice II
時間割コード／Course Code	NPS009
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	4.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	草野 淳子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修（小児か老年を選択の上）
授業回数	4週間
開講時期 ／Semester term	後期前半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	草野 淳子、足立 綾、福永 拙、後藤 愛
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>・主に慢性疾患を持ちながら地域で暮らす小児に対して、医師の指導の下、自律的に医療的・看護的介入を行い、プライマリケアを提供できる実践力を養う。</p> <p>・医療型障がい児入所施設において受け持ち患児の疾患の臨床推論等の実践技術を修得する。</p> <p>・事例分析を通して、小児がケアされている環境の現状分析を行い、高度実践看護師としての援助のあり方を探る。とともに、事例分析などを通して、小児がケアされている環境の現状分析を行い、高度実践看護師としての援助のあり方を探る。</p>
授業計画	<p>実習方法</p> <p>1. 実習時間 4週（1日8時間、5日/週の実習時間）</p> <p>2. 実習場所 重症心身障害児医療センター</p> <p>3. 実習内容</p> <p>①病棟や外来・在宅において、重症心身障害児者の軽微な症状（便秘、発熱など）を包括的健康アセスメント、および看護的治療マネジメントに関する実践能力を医師の指導の下で修得する</p> <p>②患者の包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントの所見・結果を記録する</p> <p>③医師の指導下で医行為の技術を習得とする</p> <p>④医師、看護指導者、本学教員を含めたカンファレンスを適宜設けて振り返り、実践を深める</p> <p>⑤小児特有の疾患をもつ患者のケースレポートをまとめ、ケース発表を通して学生間で学びを共有する</p> <p>⑥特定行為研修に関する行為について指導者の下で見学・実施を行う</p>
その他の授業の工夫	<p>実習指導体制</p> <p>・実習中は1週間に1度は担当教員または実習施設の指導者より指導をうける。</p> <p>・指導は、実習施設と大学内とを併用する形とする。実習施設において、適宜医師など医療従事者からも助言やフィードバックを積極的に受ける。</p>
時間外学修	毎日の実習報告と、4週間で4事例の報告書の作成を求める。疾患に対する予習（4h）毎日のレポート作成、自己学習（4h）を行ってください。
評価方法と評価割合	毎日の実習報告と、4事例の報告書の提出 提出レポートの内容が看護実践に繋がる臨床推論を記載しているかを評価する（100％）。
テキスト	特になし
参考書	
履修する上で必要な要件	

その他	
到達目標	重症心身障害児施設に入所する子どものケアや症状について臨床推論をし、治療・看護計画を展開できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	草野淳子：保健所の保健師の経験 足立 綾：大学病院小児科/成人病棟の経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	福永 拙：別府発達医療センターセンター長 医師（実務家） 後藤 愛：別府発達医療センター看護部 診療看護師（NP）（実務家）
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	小児科医師、小児NPにより、重症心身障害児施設に入所する子どものケアや症状について臨床推論をし、治療・看護計画を教授いただく。臨地においてエビデンスに基づいた医療技術と高度な看護実践を指導いただく。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	小児NP実習III／Pediatric Nurse Practitioner Nursing & PracticeIII
時間割コード／Course Code	NPS010
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	草野 淳子
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	2週間
開講時期 ／Semester term	後期前半
学年 ／Grade	
担当教員 ／	草野 淳子、足立 綾、別府 幹庸、長濱 明日香
講義形態 ／Class Type	実習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	<p>診療所における小児看護関連領域の包括的指示の下に行う高度な実践技術を修得するとともに、事例分析などを通して、小児がケアされている環境の現状分析を行い、高度実践看護師としての援助のあり方を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に慢性疾患を持ちながら地域で暮らす小児に対して、医師の指導の下、自律的に医療的・看護的介入を行い、プライマリケアを提供できる実践力を養う。 ・診療所において受け持ち患児の疾患の臨床推論等の実践技術を修得する。 ・事例分析を通して、小児がケアされている環境の現状分析を行い、高度実践看護師としての援助のあり方を探る。とともに、事例分析などを通して、小児がケアされている環境の現状分析を行い、高度実践看護師としての援助のあり方を探る。
授業計画	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習時間 2週（1日8時間、5日/週の実習時間） 2. 実習場所 診療所・クリニック 3. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 外来や在宅において、軽微な症状や慢性期疾患（喘息、糖尿病、便秘、発熱など）をもつ小児の包括的健康アセスメント、および看護的治療マネジメントに関する実践能力を医師の指導の下で修得する ②患者の包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントの所見・結果を記録する ③医師の指導下で医行為の技術を習得とする ④医師、看護指導者、本学教員を含めたカンファレンスを適宜設けて振り返り、実践を深める ⑤小児特有の疾患をもつ患者のケースレポートをまとめ、ケース発表を通して学生間で学びを共有する ⑥特定行為研修に関する行為について指導者の下で見学・実施を行う
その他の授業の工夫	<p>実習指導体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は指導医師または担当教員より、受け持ち患者の記録の指導を受ける。 ・指導は、実習施設と大学内とを併用する形とする。実習施設において、適宜医師など医療従事者からも助言やフィードバックを積極的に受ける。
時間外学修	毎日の実習報告と、2週間で2事例の報告書を作成する。疾患に対する予習（4h）毎日のレポート作成、自己学習（4h）を行ってください。

評価方法と評価割合	実習参加状況と、提出レポートの内容が看護実践に繋がる臨床推論を記載しているかを評価する（100%）。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	診療所における子どものプライマリケアにおいて、小児科医師による初期診断、アセスメント、臨床推論、治療・看護計画の立案を教授いただく。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	草野淳子：保健所の保健師の経験 足立 綾：大学病院の小児科/成人病棟の経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	別府幹庸：三重東クリニック 医師（実務家） 長濱明日香：坂ノ市病院 医師（実務家）
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨地においてエビデンスに基づいて高度な医療技術を指導する
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	生体科学特論／Advanced life science
時間割コード／Course Code	OP0001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	濱中 良志
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	コースによる
授業回数	15
開講時期／Semester term	前期前半
学年／Grade	1年
担当教員／	濱中良志、坪内優太
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	オンライン
科目の目的と概要	細胞から個体レベルまで生命活動を営むための人体の構造・機能・代謝および臨床の現場で頻回に遭遇する疾患との関連性について理解する。
授業計画	01. 解剖・生理学総論（濱中） 02. 解剖・生理学各論：人体の構成単位 細胞・組織（濱中） 03. 解剖・生理学各論：筋骨格系（濱中） 04. 解剖・生理学各論：神経系（濱中） 05. 解剖・生理学各論：感覚器系（濱中） 06. 解剖・生理学各論：循環器系（濱中） 07. 解剖・生理学各論：呼吸器系（濱中） 08. 解剖・生理学各論：消化器系（濱中） 09. 解剖・生理学各論：内分泌系（濱中） 10. 解剖・生理学各論：血液造血器系（濱中） 11. 解剖・生理学各論：腎・泌尿器系（濱中） 12. 解剖・生理学各論：心電図（濱中） 13. 解剖実習見学（濱中・坪内） 14. 代謝 生化学：栄養と栄養素（濱中） 15. 代謝：タンパク質代謝と脂質代謝、ビタミンとミネラル（濱中） 順番は変更になることがある。
その他の授業の工夫	質疑応答形式にしている。
時間外学修	YouTube の配信動画（HAMANA+K+チャンネル；心電図：暗記からの卒業シリーズ、国試対策：暗記からの卒業シリーズ https://www.youtube.com/channel/UCTSwGFAu2uGlfaCVi6zSwcQ ）の授業の該当箇所を視聴して事前学習及び授業後の復習とする。
評価方法と評価割合	筆記試験：100%（NPコースは80点以上が合格、それ以外のコースは60点以上が合格）
テキスト	1. 人体の構造と機能[Ⅰ]解剖生理学（医学書院） 2. 配布資料 3. ヒト解剖体（ご遺体）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	臨床で遭遇する疾患の解剖生理学に基づく病態生理学を説明できる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	濱中良志（臨床医）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力

開講科目名／Course	病態生理学特論／Advanced pathphysiology
時間割コード／Course Code	OP0003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	濱中 良志
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	コースによる
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	濱中良志、黒川竜紀
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	オンライン
科目の目的と概要	疾患の成り立ちにおける過程で生じる生理学的変化に関する基本知識を体系的に学習する。さらにその疾患に付随する全身の症状の過程を学習し、臨床症例との関連性についても探求する。
授業計画	01. 病態・疾患学について（黒川） 02. 循環器疾患（不整脈）（黒川） 03. 循環器疾患（心不全）（黒川） 04. 呼吸器疾患（閉塞性疾患）（黒川） 05. 呼吸器疾患（拘束性疾患）（黒川） 06. 消化管疾患（黒川） 07. 肝・胆・膵疾患（黒川） 08. 腎臓・尿路疾患（黒川） 09. 内分泌疾患（黒川） 10. 代謝疾患（黒川） 11. 自己免疫・アレルギー疾患（黒川） 12. 血液疾患（黒川） 13. 神経・筋疾患（黒川） 14. 臨床検査値異常（黒川） 15. まとめ（濱中）
その他の授業の工夫	対話形式授業で行う。
時間外学修	教科書の予習を課す。 YouTube の配信動画（HAMANA+K+チャンネル；心電図：暗記からの卒業シリーズ、国試対策：暗記からの卒業シリーズ https://www.youtube.com/channel/UCTSwGFAu2uGlfaCVi6zSwcQ ）の授業の該当箇所を視聴して事前学習及び授業後の復習とする。
評価方法と評価割合	筆記試験：100%（80点以上が合格、その他のコースは60点以上が合格）
テキスト	病気がみえるシリーズ（MEDIC MEDIA）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	緊急を要する疾患及び臨床で遭遇しやすい疾患の病態生理学を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	濱中良志（病院で勤務する医師）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力

開講科目名／Course	フィジカルアセスメント学特論／Lecture and Exercise on Physical Assessment
時間割コード／Course Code	OP0004
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子
コース ／course	NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	コースによる
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	石田佳代子、安部涼子、濱中良志、黒木雪絵
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	<p>・対象の身体的状態について、正常から逸脱した状態か否か、根拠に基づき判断できる能力を養う。</p> <p>・五感を駆使し、問診、視診、触診、打診、聴診の基本技術を身に付け、身体の構造、機能、病態生理の専門的知識に裏付けられた判断ができる知識・技術を学ぶ。</p>
授業計画	01.オリエンテーション、フィジカルアセスメント学概論、全身・頭頸部の理論（プレゼンテーション） 02.全身・頭頸部のフィジカルイグミネーション 03.胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメントの理論（プレゼンテーション） 04.胸部（肺・胸郭）のフィジカルイグミネーション 05.胸部（心・血管系）のフィジカルアセスメントの理論（プレゼンテーション） 06.胸部（心・血管系）のフィジカルイグミネーション 07.腹部のフィジカルアセスメントの理論（プレゼンテーション） 08.腹部のフィジカルイグミネーション 09..四肢のフィジカルアセスメントの理論（プレゼンテーション） 10.四肢のフィジカルイグミネーション 11.神経系のフィジカルアセスメントの理論（プレゼンテーション） 12.神経系のフィジカルイグミネーション 13.小児のフィジカルアセスメント 14.小児のフィジカルイグザミネーション 15.生殖器・乳房を含む全系統の技術演習 試験（筆記・OSCE）
その他の授業の工夫	プレゼンテーションの後は、ディスカッションして理解を深められるようにする。 実技演習は、ロールプレイで行い、患者役や実施者役の役割の評価のポイントが理解できる。 シミュレーターを活用し、異常な状態を五感で観察できるようにしている。 講義と演習を組み合わせ、知識と技術を統合できるようにしている。
時間外学修	事前学習として、当該範囲の調べて、プレゼンテーションの準備をする。 フィジカルイグザミネーションでは、当該範囲を調べて、技術の練習を行う。 講義・演習で扱った内容以外でも当該領域の医学的な理論・技術についての理解を深める。

評価方法と評価割合	<p>①プレゼンテーション：50点（15%） ※実施回数には個人差があるため、複数回の場合には平均点</p> <p>②デモンストレーション：50点（15%） ※実施回数には個人差があるため、複数回の場合には平均点</p> <p>③演習終了後のレポート：30点（10%）</p> <p>④筆記試験：100点（30%）</p> <p>⑤実技試験：100点（30%）</p>
テキスト	<p>各自が持っているフィジカルアセスメントの参考書</p> <p>筆記試験では、医師国家試験問題から出題することはあります。またヘルス・フィジカルアセスメント上巻（日総研）、フィジカルアセスメント完全ガイド（学研）、診察診断学（医学書院）等も活用して学習にしてください。</p>
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	<p>NPコースは1年次の履修が望ましい。但し長期履修予定者は除く。</p> <p>看護管理・リカレントコースは1年次、2年次のいずれでも良い。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 対象の身体的状態について、正常から逸脱した状態か否か、根拠に基づき判断できる。 五感を駆使し、問診、視診、触診、打診、聴診の基本技術を身に付けることができる。 身体の構造、機能、病態生理の専門的知識に裏付けられた判断ができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<p>石田佳代子：病院看護師</p> <p>安部涼子：病院看護師、診療看護師（NP）</p> <p>濱中良志：病院医師</p> <p>黒木雪絵：病院勤務の診療看護師（小児NP）</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基づいた臨床経験を活かし、その理論と技術を教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、熟練した看護実践能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	健康増進科学特論／Seminar on Health Promotion Science
時間割コード／Course Code	OP0005
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	稲垣 敦
コース ／course	研究者コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	稲垣 敦、安部眞佐子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	運動学、栄養学におけるヘルスプロモーションに関する方法論を学び、新たな健康指導や保健指導のあり方を考え、身につける。
授業計画	01 科学とは 02 ボディメカニクス 03 運動の測度、運動強度 04 エネルギー消費量、運動量 05 運動機能と体力 06 レジスタンストレーニング 07 ストレッチング 08 有酸素能力 09 行動変容 10 レポート作成 11 栄養アセスメント 12 栄養指導の手法 13 食事摂取基準とは 14 食事摂取基準の読み方 15 栄養とサプリメント 16 試験
その他の授業の工夫	体験をするため、演習も含まれます。
時間外学修	レポートを作成します。
評価方法と評価割合	レポート（50％）、試験（50％）
テキスト	必要に応じて配付します。
参考書	
履修する上で必要な要件	大学卒業レベルの基礎学力（数学、統計学等）
その他	
到達目標	健康増進に必要な運動及び栄養のポイントを説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	稲垣 敦：健康運動指導士養成研修会講師

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力

開講科目名／Course	人間関係学特論／Seminar in Human Relations
時間割コード／Course Code	OP0006
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	吉村 匠平
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	選択
授業回数	15
開講時期／Semester term	後期後半
学年／Grade	1年、2年
担当教員／	吉村匠平
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	一部オンライン
科目の目的と概要	講義の前半は、レスポナント条件づけ、オペラント条件について、教員が講義を行ない、対人援助、対人関係の基礎となる理論や考え方などについて理解を深める。講義後半は、受講者同士の討議、事例、質疑などを中心に展開し、心理学の理論と看護の現場がつながるよう、理解を深めることを目的とする。講義テーマは、授業計画にある通りだが、時に、受講者が関心のある領域に関する講義、文献購読、ロールプレイなどを行なうなど、柔軟な授業展開を行う。
授業計画	01. オリエンテーション 02. レスポナント条件付けの理解① 基礎的な概念の理解 03. レスポナント条件付けの理解② 行動変容への応用 04. 文献購読 レスポナント条件づけ① 05. 文献行動 レスポナント条件づけ② 06. オペラント条件付けの理解① 基礎的な概念の理解 07. オペラント条件付けの理解② 行動変容への応用 08. 応用行動分析の理解① ABC分析の基礎理解 09. 応用行動分析の理解② ABC分析に基づくアセスメント 10. 文献購読 オペラント条件付けと応用行動分析① 11. 文献購読 オペラント条件づけと応用行動分析② 12. 心理学における事例検討の体験：PCAGIP法の体験① 13. 心理学における事例検討の体験：PCAGIP法の体験② 14. 自分に気づく①：構成的エンカウンターグループ① 15. 自分に気づく②：構成的エンカウンターグループ②
その他の授業の工夫	・座学だけではなく、ロールプレイやグループワーク、討議などを多用して、理論と現場、理論と自分がつながることができるようにする。 ・基本的概念の定着をはかるため、講義樹幹中に問題演習を行う。
時間外学修	・毎時終了後、web上の掲示板への投稿、投稿へのコメントを課す。 ・期末にレポート作成を求める。
評価方法と評価割合	・講義における演習課題結果、質問など講義への積極的な関与（チャットによる）：50% ・講義に関するレポート等の提出：50%
テキスト	
参考書	行動分析学入門 杉山尚子 集英社新書
履修する上で必要な要件	履修要件は特にありません。
その他	事例検討、構成的エンカウンターグループは、対面での講義を予定しています。それ以外については、基本的にオンラインによる講義となります。演習課題や質疑には積極的に参加して下さい。

到達目標	①レスポナント条件づけの概念を用いて、恐怖症の条件づけについて説明することができる。 ②オペラント条件づけの概念を用いて、強化（弱化）されている行動をABC分析することができる。 ③講義内容と受講者の実務と関連させて疑問や考えたことを述べることができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	・吉村匠平（実務家教員）：公認心理士、学校心理士（適応指導教室、子ども園、小学校、中学校などの相談員等）
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	行動変容に関する具体例を提示する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	熟練した看護実践能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	2.女性の一生における性と生殖に関する健康課題に対する支援能力

開講科目名／Course	看護管理学特論／Special Lecture on Nursing Administration
時間割コード／Course Code	OP0007
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	福田 広美
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	コースによる
授業回数	15
開講時期／Semester term	後期前半
学年／Grade	1年
担当教員／	福田広美、荒木章裕、甲斐仁美
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	一部オンライン
科目の目的と概要	本科目は保健医療福祉を取り巻く環境の変化を踏まえ、看護サービスを提供する様々な場においてサービスの質を組織的に高めるために必要なマネジメントおよび諸理論を学ぶ。さらに、看護管理に関する近年の資料や文献を活用しながらプレゼンテーション・討論・意見交換を通して、看護管理学に関する理解を深める。
授業計画	01. 看護を取り巻く保健医療福祉制度と看護サービス 02. 看護サービスの提供と質保証 03. 課題プレゼンテーション・討論と意見交換 04. 看護職の業務管理・経営と看護管理 05. 課題プレゼンテーション・討論と意見交換 06. 看護サービスの提供と組織の成り立ちや構造 07. 課題プレゼンテーション・討論と意見交換 08. 組織管理論・組織文化 09. 課題プレゼンテーション・討論と意見交換 10. 人的資源管理論・人材の育成と活用 11. 課題プレゼンテーション・討論と意見交換 12. 人的資源管理論・専門職業人とキャリア形成 13. 課題プレゼンテーション・討論と意見交換 14. サービス提供体制の変革に向けて 15. 課題プレゼンテーション・討論と意見交換
その他の授業の工夫	講義、課題プレゼンテーション・討論と意見交換を組み合わせ、受講者の看護管理に関する関心を踏まえた参加型の授業を行う。
時間外学修	事前学習：課題についてプレゼンテーションの準備を行う。事後学習：講義を通して学び、理解を深めた内容についてレポートを作成する。（合計45時間）
評価方法と評価割合	課題プレゼンテーション（50％）レポート（50％）
テキスト	
参考書	看護管理学習テキスト 第4版 第1巻 保健医療福祉制度・政策論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第2巻 看護サービスの質管理（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第3巻 人材管理論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第4巻 組織管理論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第5巻 経営資源管理論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 別巻 看護管理基本資料集（日本看護協会出版会）

履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉を取り巻く環境の変化を踏まえ、看護サービスを提供する様々な場においてサービスの質を組織的に高めるために必要なマネジメントおよび諸理論について述べることができる。 ・看護管理に関する近年の資料や文献を活用しながら自らの経験を踏まえて考えを述べるができる。 ・講義を通して看護管理学に関する理解を深めたことをレポートに記述することができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	福田広美：病院の看護師として勤務
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	病院に勤務する看護管理者
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実務経験を活かして看護管理を教育する
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力、3.研究に必要な英文原著論文を読める力、情報処理能力、及び研究に関する能力、4.特別研究と通して得た、研究分野の論文をレビューする力、課題を洞察する力、データを分析する力を身に
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	看護理論特論／Advanced Nursing Theorists
時間割コード／Course Code	OP0008
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	秦 さと子
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	選択
授業回数	16
開講時期／Semester term	後期後半
学年／Grade	1年、2年
担当教員／	秦 さと子、桑野 紀子、石丸智子
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	オンライン
科目の目的と概要	看護理論の基本構造について理解し、看護実践への活用について検討することを目的とする。講義やグループワークを通して看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造および特徴について理解する。学生は自身の実践フィールドとの適応を考察したうえで関心ある看護モデルを選択し、その理論の重要概念、実践への具体的な活用についてプレゼンテーション、ディスカッションを通して理解を深める。
授業計画	01. 看護理論とは、看護理論の歴史と変遷 02. 看護理論の構造および特徴 03. グループワーク：関心領域の看護理論の理解 04. グループワーク：関心領域の看護理論の理解 05. グループワーク：関心領域の看護理論の実践への活用の仕方 06-07. 看護理論の特徴、分析・評価、実践への活用法(1) マーサー・E・ロジャーズ 08-09. 看護理論の特徴、分析・評価、実践への活用法(2) ベティ・ニューマン 10-11. 看護理論の特徴、分析・評価、実践への活用法(3) J・ワトソン 12-13. 看護理論の特徴、分析・評価、実践への活用法(4) M・M・レイニンガー 14-15. 看護理論の特徴、分析・評価、実践への活用法(5) アファフ・I・メレイス
その他の授業の工夫	・各理論家の看護モデルに精通した教員によるオムニバス授業形式 ・5人の理論家の看護モデルから興味ある分野の看護理論を選択して取り組める ・プレゼンテーションを課することで主体的な学習を促す
時間外学修	事前学習：関心ある看護理論家の看護モデルについて、学生個々がその重要概念、構造や特徴について理解し、実践へどのように活用できるかを具体的にまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。 事後学習：授業でのディスカッションの内容と学びを振り返る。
評価方法と評価割合	プレゼンテーションの内容（70%）、ディスカッションへの参加（30%） プレゼンテーションは次の観点で評価する。1) 発表内容に①担当理論家の理論の重要概念、②実践への具体的な活用例が示されていたか、2) 理論家の理論をわかりやすく解説できたか、3) 理論に則った具体例を示していたか、4) 時間配分が適切であったか、5) 質問にわかりやすく回答できたか。ディスカッションへの参加については、質問した回数で評価する。毎回の授業開始時に出席の有無を確認する。欠席（-3点／回）、遅刻（-1点／回）は減点とし、遅刻3回で欠席1回とする。

テキスト	<教科書> 指定なし <参考書> Fawcett,Jacqueline(2005). Analysis and Evaluation of Nursing Theories (F A Davis Co) フォーセット看護理論の分析と評価 新訂版 太田喜久子、筒井真優美監訳（医学書院） 看護理論家の業績と理論評価 第3版（2025）、筒井真優美編（医学書院）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	2人以上の理論家の理論について、 ①看護理論の基本構造や理論評価の意義および視点について説明できる。 ②看護実践への活用について、具体的事例を用いて解説できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	秦さと子：本学基礎看護学研究室 教授 桑野紀子：本学国際看護学研究室 教授 石丸智子：本学基礎看護学研究室 准教授
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	担当理論家について、経験を通して具体的に解説し理解の促進を図る。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	看護教育学特論／Seminar in Nursing Education
時間割コード／Course Code	OP0009
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	秦 さと子
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	選択
授業回数	16
開講時期／Semester term	後期前半
学年／Grade	1年、2年
担当教員／	秦さと子、吉村匠平、桑野紀子、樋口幸、石丸智子、小野治子、山崎清男
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	一部オンライン
科目の目的と概要	看護を担う人材の育成が質の高い看護教育に基礎をなすという観点から、教育的機能の基本を理解し、看護教育の歴史的変遷と法的基盤、看護教育制度を学習することにより、保健師、助産師、看護師における看護学教育の現状を理解する。また、現在の看護基礎教育のカリキュラム枠組みの構成概念をなす人間の発達を理解するとともに、教育原理と技法を学び、看護学実習教育のあり方をふまえ、看護実践場面において、自己教育力、生涯教育力を具えた人材に育成について検討する。また、海外の看護教育に関する知見をもち広い視野から看護学教育を捉え、考察する力を養う。
授業計画	01. オリエンテーション・看護教育学とは 02. 看護教育の歴史的変遷と看護教育制度の現状 03. 教育原理 04. 教育方法 05. 教育評価 06. 看護教育における海外事情 07. 看護基礎教育と継続教育 08. 現任教育の在り方、スタッフ教育 09. 看護教育方法論 10. 自己教育力・生涯教育能力の開発 11. 看護基礎教育における看護学実習 12. 保健師および助産師教育の現状 13. 課題探究「それぞれの立場で看護教育を考える」文献検討 14. 課題探究「それぞれの立場で看護教育を考える」レポート作成 15. レポート発表・ディスカッション 16. 課題に対するディスカッション
その他の授業の工夫	講義は教育原理など教育学の基礎の講義で導入し、次に看護教育制度、看護教育カリキュラムなどの要素を説明する。看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素（教育評価など）を教授し、さらに海外事情の看護教育について見方を広げ、その後、保健師、助産師を含む看護基礎教育、継続教育、看護学実習など具体的な教育の現状を教授する。また、最初に、各個人が問題意識を持ち、講義に臨むように課題を提示する。
時間外学修	レポート課題有り

評価方法と評価割合	レポート提出（40％）、授業参加度（10％）、プレゼンテーション(50%) 授業参加度：授業（プレゼン含む）中の質問や発言の内容によって加点とし、欠席遅刻は減点とする。 プレゼン・レポートの評価の視点：「課題の明確さ」、「課題に基づく内容」「課題、内容、考察・結論の一貫性」とする。
テキスト	看護教育学 第8版 杉森みどり, 舟島なおみ著（医学書院） 看護学教育評価の基礎と実際 第2版 田島桂子（医学書院） 看護学教育評価論 質の高い自己点検・評価の実現 舟島なおみ, 杉森みどり(文光堂)
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	看護教育学の理解を深め、それぞれの立場で看護職が教育的機能を果たすために必要なことについて考察し、述べることができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	秦さと子：病院の看護師、本学基礎看護学研究室 教授 吉村匠平：子ども園、小学校、中学校、適応指導教室での教育相談等、本学人間関係学研究室 教授 桑野紀子：病院の看護師、保健師、海外教育機関との国際交流活動、本学国際看護学研究室 教授 樋口幸：病院の看護師、助産師、本学助産学研究室 教授 石丸智子：病院の看護師、本学基礎看護学研究室 准教授 小野治子：高校・支援学校の養護教諭、本学地域看護学研究室 准教授
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	山崎清男：大分大学元副学長、大分大学教育人間科学部 特任教授
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	本科目では、教育学の基礎と看護学各領域（基礎看護講座、国際看護学、広域看護学、助産学等）と、看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素（看護教育制度、看護教育カリキュラムなどの要素や、看護学教育評価などを教授している。また受講生が看護職として発達への支援を通して、看護の対象となる人々に質の高い看護を提供するような問いを教育内容としている。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	看護コンサルテーション論／Nursing Consultation Theory
時間割コード／Course Code	OP0010
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	後藤 成人
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	コースによる
授業回数	8
開講時期／Semester term	後期後半
学年／Grade	1年、2年
担当教員／	後藤 成人、吉村 匡平、竹村 陽子
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	オンライン
科目の目的と概要	看護職が行うコンサルテーションの概念及び方法、評価について概観し、看護場面における個人および組織を対象としたコンサルテーションのプロセスを学習する。さらに、コンサルテーションの実践についての事例検討及び学生の経験をもとにディスカッションすることを通して、高度実践看護師が担うコンサルテーションの役割と課題について考える。
授業計画	1・2 看護におけるコンサルテーションの概念、プロセス（後藤） 3・4 コンサルテーションの実践（竹村） 5・6 組織に対するコンサルテーション（後藤） 7・8 対象者理解のための心理的アセスメント法（新任講師） 9・10 効果的な心理教育と心理的援助法（吉村） 11・12 コンサルテーション事例検討（後藤） 13・14 コンサルテーション事例検討（後藤） 15・16 看護におけるコンサルテーションの課題（後藤）
その他の授業の工夫	・臨床現場で実際に看護コンサルテーションを実践する専門看護師から講義を受けることで、実際の看護コンサルテーションがどのように行われているか学びを深める。 ・コンサルタントとして実践する際に活かせる心理学的知識と対応の仕方について学べるよう、人間関係学の教員による講義を組み込んでいる。
時間外学修	講義で学んだことを踏まえ、参考図書等により知識を深め実践に活かす 学生の経験した事例を提供する際の資料作成
評価方法と評価割合	演習への参加度 20% レポート 80%
テキスト	使用教材はその都度配布する。
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	参考図書： 野末聖香編 リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために 医歯薬出版株式会社 アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェロバツ編 武井麻子監訳 組織のストレスとコンサルテーション 対人援助サービスと職場の無意識 金剛出版
到達目標	1. 看護職が行うコンサルテーションの概念とプロセスについて述べるができる 2. 看護師が行うコンサルテーションの役割と課題について理解できる 3. 自身がコンサルタントとして実践する際に活かせる心理学的知識と対応の仕方を述べるができる
実務家教員の有無／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	後藤成人：精神科病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	竹村陽子：大分赤十字病院（実務家）　がん看護専門看護師
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床現場で実際に実施している看護コンサルテーションの事例をもとに講義をおこなう。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力

開講科目名／Course	看護倫理学特論／Ethics in Nursing
時間割コード／Course Code	OP0011
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小野 美喜
コース ／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	小野 美喜、濱 耕子、後藤 成人
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	医療・看護の現場における倫理的諸問題に対処するために、実践的な調整・問題解決能力を高めることを目的として、看護職に必要な看護倫理の知識と倫理的思考方法について学ぶ。
授業計画	01. 看護専門職と倫理（小野美） 02. Professionの責任と倫理（小野美） 03. 看護の価値観・倫理規定（小野美） 04. 患者の権利・インフォームドコンセント（後藤） 05. 看護倫理のアプローチ；原則の倫理（小野美） 06. 看護倫理のアプローチ；徳の倫理、ケアの倫理（小野美） 07. 倫理的意思決定のステップ（小野美） 08. 事例演習（小野美） 09. 終末期医療における倫理的課題（小野美） 10. 事例演習（小野美） 11. 生殖領域における倫理的課題（濱） 12. 精神領域における倫理的課題（後藤） 13. 事例報告と討論1（小野美、濱、後藤） 14. 事例報告と討論2（小野美、濱、後藤） 15. 事例報告と討論3（小野美、濱、後藤）
その他の授業の工夫	随時事例演習を行なって、理論だけでなく実践的な問題解決の方法を学ぶ。事例討議ではグループに分かれ、教員をファシリテーターとするグループ討議を行う。
時間外学修	事例報告のためのレポートを作成する。
評価方法と評価割合	事例報告レポートおよび討論により評価する（100％）。
テキスト	教員の用意したハンドアウトを使用する。
参考書	小西恵美子編 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 改訂第3版（南江堂）
履修する上で必要な要件	特に履修する上での必要要件はありません。
その他	基本的にオンライン授業ですが、事例報告と討論は対面での授業を予定しています。
到達目標	①事例演習において指示に基づいた分析・対応について述べるができる ②事例報告において倫理的課題を有する事例を見出し、分析・対応について述べるができる

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野美喜：看護師 濱 耕子：助産師 後藤成人：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床で生じやすい倫理的課題をとりあげ、倫理的課題へのアプローチと看護実践を共に考える授業をします。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	7.倫理的意志決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	6.倫理的意志決定能力

開講科目名／Course	看護政策論／Health and Nursing Policy
時間割コード／Course Code	OP0012
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	持田 恵理
コース ／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	後期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	持田恵理、川南公代、杉本圭以子、中西三春、立森久照、小池智子、小山秀夫
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	オンライン
科目の目的と概要	保健・医療・福祉・介護等における看護政策の現代的課題を多方面から理解し、各自の活動領域における課題を明確にする。
授業計画	<p>基本はオムニバス形式だが、同一講師の講義では内容の接続もある。講師の都合によりテーマや順序を変更する場合がある。</p> <p>01. 日本と大分県の看護政策保健医療政策の評価 02. こころの健康を支える政策・制度 03. 保健政策の国際比較と評価－認知症、高齢者虐待、自殺対策を例に 04. 保健医療政策の評価 05. 看護政策の今日的課題：政策を『つくる』・『動かす』 06. 行動経済学の医療政策への活用－ナッジ設計演習 07. 看護からみた介護報酬改定 08. 看護の質 組織の質 経営の質</p>
その他の授業の工夫	学外講師を招き、演習形式を交えた講義を行う。
時間外学修	授業内容を各自の活動領域に適用して復習し、最終レポートに反映する。
評価方法と評価割合	最終レポートによる（100%）。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉・介護等における看護政策の現代的課題を説明できる。 ・各自の活動領域における課題を説明できる。 ・各自の活動領域における課題について改善、解決の方策を説明できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	医療保健福祉制度の活用・開発能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	健康社会科学特論／Introduction to Health related social Sciences
時間割コード／Course Code	OP0013
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	持田 恵理
コース ／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期後半、後期前半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	持田 恵理
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	オンライン
科目の目的と概要	健康政策および保健・医療・福祉に関連する諸制度について概観し、社会および社会システムから分析を行う基本的な方法を学ぶ。
授業計画	1．社会システム論（法、政策、行政） 2．社会科学の方法論 3～6．文献講読 7～13．演習（中間発表含む） 14～15．演習発表・総合討論
その他の授業の工夫	社会科学の方法論については、それぞれの研究課題や関心分野に関係する領域で文献研究を行って実践的な活用方法を学ぶ。
時間外学修	関心のあるテーマを選び、発表準備を行う。
評価方法と評価割合	演習により評価する（100％）。
テキスト	ハンドアウトを使用するほか、適宜参考文献を紹介する。
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	・法、政策、行政の仕組みを理解することができる。 ・関心のあるテーマを選定し、社会科学の方法論を活用して、課題と改善、解決方法を考察することができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	持田恵理：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	

実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力、4.専門分野の研究論文を批判的にレビューする能力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力、4.特別研究を通して得た、研究分野の論文をレビューする力、課題を洞察する力、データを分析する力を身に
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	医療保健福祉制度の活用・開発能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	3.他職種と協働し社会資源を活用・開発し、個人および社会の性と生殖に係わる健康問題を解決できる能力、5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	看護科学研究特論／Advanced lecture of Nursing Science Research
時間割コード／Course Code	OP0014
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小嶋 光明
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	必修
授業回数	15
開講時期／Semester term	前期前半
学年／Grade	1年、2年
担当教員／	小嶋光明、麻原きよみ、稲垣敦、石田佳代子、川南公代、桑野紀子、古賀雄二、秦さと子、杉本圭以子、野津昭文、濱 耕子、吉田成一、大田えりか（非常勤講師）
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	オンライン
科目の目的と概要	EBN（Evidence-Based Nursings）の基礎をなす看護科学研究の理論及び手法を概観し、研究活動を自ら展開する為に必要な事項を学び、実践的知識の習得を目指す。
授業計画	01. 研究の意義 02. 研究倫理と研究計画書の書き方 03. リサーチクエスションと疫学的発想 04. 学術誌・オリジナリティ・ピアレビュー 05. 研究デザインを理論的に考える 06. 臨床試験の進め方 07. 調査研究の方法と手続き 08. 論文の構成と表現 09. 疫学的観察研究 10. 心理学的測定の方法 11. 質的研究 12. 実験的研究 13. 文献レビューとクリティーク 14. 二次資料と文献研究 15. まとめ
その他の授業の工夫	代表的な看護研究の手法を教授し、今後の研究活動に活かせるようにする。
時間外学修	課題を与え、レポートをまとめる。 APRiNeラーニングを受講する。
評価方法と評価割合	各回にレポートもしくは口頭試問を行い評価する（100％）。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	看護研究の手法を説明できる
実務家教員の有無／Practical teacher	無
実務家教員詳細／Practical teacher details	

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	保健情報学特論／Biostatistics and Epidemiology
時間割コード／Course Code	OP0015
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	品川 佳満
コース ／course	研究者コース、助産学コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	コースによる
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	品川佳満、野津昭文、岡田悠希
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	保健医療福祉分野における情報活用に欠かせない高度な情報リテラシーの獲得，データ分析に必須な統計学の理論とデータ解析の技術の習得をめざす。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー 01. デジタルとアナログ 02. 情報管理と情報セキュリティ 03. 医療・保健分野でのデータ処理(1) 04. 医療・保健分野でのデータ処理(2) 05. 医療・保健分野でのデータ処理(3)，課題 ・生物統計学 06.統計データとは，データの要約(1) 07.データの要約(2) 08.確率 09.確率分布 10.推測統計総論 11.推定 12.検定 13.検定各論 14.統計ソフトウェア1 15.統計ソフトウェア2 最終試験
その他の授業の工夫	演習を交えながら理解を深めるとともに，情報処理・データ解析の技術を身につける。
時間外学修	提出課題や小レポートの作成，プレゼンテーション（生物統計学パート）の準備を時間外に行う。
評価方法と評価割合	提出課題・小テスト・小レポート，生物統計学パートのプレゼンテーション等：80% 最終試験（生物統計学パート）：20%
テキスト	特に指定しない

参考書	<p>生物統計学パート</p> <p>1) よくわかる！Rで身につく統計学入門. 兵藤昌／中川智之／渡邊弘己 著（共立出版）</p> <p>2) やさしい保健統計学（改訂第5版増補） 縣 俊彦 著 南江堂</p> <p>3) 生物統計学入門－ハーバード大学講義テキスト 竹内 正弘 監訳（丸善）</p>
履修する上で必要な要件	
その他	生物統計学パートでは、各回のテーマについて数名がプレゼンテーションを行い、ディスカッションの後、教員によるまとめと演習を行うという形式で進行する。
到達目標	保健医療福祉分野において必要とされる高度な情報リテラシーを説明できる。 修士レベルの研究に必要な統計学について説明でき、データ解析ができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力

開講科目名／Course	英語論文作成概論／Introduction to writing research papers in English
時間割コード／Course Code	OP0016
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	G.T. Shirley
コース ／course	助産学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	コースによる
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	G.T. Shirley
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	This course is a workshop for practicing English writing, with a focus on grammar for accuracy and clarity. The goal is to produce clear, simple, and logical English paragraphs. This is a student-centered course that emphasizes active and cooperative learning. Students will practice writing through pair work and group work.
授業計画	01. Introduction; Textbook Work 02. Textbook Work 03. Textbook Work 04. Textbook Work 05. Textbook Work 06. Textbook Work 07. Textbook Work 08. Textbook Work
その他の授業の工夫	The teacher will monitor and give real-time advice and instruction to students during their writing practice.
時間外学修	Before class, students should review all materials and look up words they don't understand. After class, they should review and practice all materials again to prepare for the next class.
評価方法と評価割合	Students will be evaluated on class participation (50%), and on their in-class writing assignments (50%).
テキスト	This course requires a textbook. Textbook information (title, edition, and purchasing details) will be provided by the teacher before the course begins.
参考書	Nothing.
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. Students can practice reading English. 2. Students can practice writing English. 3. Students can practice writing simple, logical English paragraphs. 4. Students can actively participate in English group work. 5. Students can actively support and help partners during English pair work and group work.
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	

教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	3.研究に必要な英語原著論文読解力と英語論文を書く基礎力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	3.研究に必要な英文原著論文を読める力、情報処理能力、及び研究に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力

開講科目名／Course	薬理学特論
時間割コード／Course Code	OP0017
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	1.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	吉田 成一
コース ／course	NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	8
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	吉田 成一
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	臨床薬理学を学修する上で基盤となる薬物についての作用機序、体内動態（血中濃度）、代謝経路、副作用、適応疾患、年齢依存性などの基本的事項を理解し、処方にあたっての留意点、年齢や病態による薬物動態の変動、および薬物相互作用を理解する。
授業計画	01. 薬理学の概要、薬物の作用様式と作用機序 02. 薬物動態（吸収・分布など） 03. 薬物動態（代謝・排泄など） 04. 特定の背景を有する患者に対する薬物療法 05. 薬害と有害作用、処方の概要と薬の投与設計 06. 医薬品の関与する医療事故の現状 07. 治験 08. 添付文書・医薬品インタビューフォームの見方
その他の授業の工夫	講義内で受講生の意見・判断および知識を確認して講義をすすめる。そのため、受講生の積極的な発言を求める。
時間外学修	講義中に行う、確認問題等を復習するとともに、講義で使用した資料、教科書を整理し、理解を深めること。
評価方法と評価割合	試験：100%
テキスト	NEW薬理学 改訂第7版（南江堂） 今日の治療薬 ―解説と便覧（南江堂）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	NPコースでは履修を強くすすめます。
到達目標	1. 医薬品の体内動態および副作用、相互作用について説明できる。 2. 医薬品に関する資料・情報を入手・理解できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	医療処置・管理の実践能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	看護アセスメント学特論／Seminar for Nursing Assessment
時間割コード／Course Code	R00001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子
コース ／course	研究者コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	コースによる
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	石田佳代子 草野淳子 後藤成人
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	看護職が対象者の状況に対する課題解決を図る際に、アセスメントに基づいた信頼性のある方法で解決を図るため知識・技術を学ぶ。観察や収集した情報の意味とその解釈・情報相互の関連性を理解し、それらの情報を統合し、的確な看護判断と課題解決の一連のプロセスを探究できる能力を養う。
授業計画	01. 看護理論と看護アセスメント（1）講義・演習のオリエンテーション 02. 看護理論と看護アセスメント（2）アセスメント 03. 看護理論と看護アセスメント（3）看護診断 04. 看護理論と看護アセスメント（4）プレゼンテーション・ディスカッション 05. 災害時のアセスメント 06. 災害看護において活用できる概念や理論の探究（文献検討） 07. 災害看護における課題とその解決を図るための方法の探究（文献検討） 08. 災害看護の文献検討に基づくプレゼンテーションとディスカッション 09. 小児のフィジカルアセスメントと救急法：講義 10. 小児に関連する理論とアセスメント：講義 11. 小児の家族看護とアセスメント：講義 12. 小児の家族看護の実際：事例演習 13. 精神看護におけるアセスメント（1）精神症状、心理反応のアセスメント 14. 精神看護におけるアセスメント（2）薬物療法、セルフケアのアセスメント 15. 精神看護におけるアセスメント（3）事例展開演習 16. 精神看護におけるアセスメント（4）事例展開演習
その他の授業の工夫	オムニバス形式とし、多角的な視点から専門領域のアセスメントを深める
時間外学修	課題に対するレポートや発表準備を行う。
評価方法と評価割合	レポート課題、発表・ディスカッション内容：50% 授業の参加態度：50%
テキスト	テキストは使用せず、参考図書や資料は別途提示及び配布する。
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	詳しい講義内容やスケジュールは別途指示するが、履修者は後期開始までに、担当教員に連絡を取ること

到達目標	1. 看護過程および看護診断に関わる概念や理論を調べ、事例展開を通して考察することができる。 2. 小児のフィジカルアセスメント、家族看護とアセスメントおよび看護の実際について考察することができる。 3. 災害看護に関する概念や理論を調べ、課題やその解決方法について考察することができる。 4. 精神看護におけるアセスメントおよび事例展開ができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	石田佳代子：病院看護師 草野淳子：保健所保健師、病院助産師 後藤成人：病院看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基づいた看護アセスメントや看護実践を通し、その理論を学生に指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	精神保健学特論／Seminer for Community Mental Health
時間割コード／Course Code	R00002
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	杉本 圭以子
コース／course	研究者コース、地域看護学コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	選択
授業回数	15
開講時期／Semester term	後期前半
学年／Grade	1年、2年
担当教員／	杉本圭以子 持田恵理
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	オンライン
科目の目的と概要	精神医療保険福祉に関する社会の状況、制度の変遷と現状について理解を深め、当事者が地域で継続して生活するために必要な支援について学ぶ。精神医療保険福祉における理論と実践を理解し、看護職が担える役割について学ぶ。
授業計画	01. 精神医療保険福祉に関連する法制度とシステム 02. 精神科医療の歴史と現状 03. 地域精神医療の方向性、長期入院者の退院支援 04. 地域生活支援の現状 05. 精神医療保険福祉における理論と援助法 06. セルフグループの支援、ピアサポート、ピアスタッフ活動 07. 地域精神保健業務①ケースワーク 08. 地域精神保健業務②インテークとアセスメント 09. 児童・生徒のメンタルヘルス 10. 職場のメンタルヘルス 11. 自殺対策、政策、啓発活動 12. 高齢者に対する精神医療、依存症対策 13. 災害時のメンタルヘルス支援、司法精神看護 14. 地域実践、相談援助の事例 15. 地域精神保健福祉の現状と課題
その他の授業の工夫	保健師として実際に地域精神保健業務を担当した経験から、ケースワークやインテークの実際について講義を行う。 後半の講義では、テーマに関する事例をあらかじめ受講生が調べ、授業内で提示し意見交換することで学びを深める
時間外学修	事前学習：各回テーマに関連するニュースや記事を探し、あらかじめ精神的健康との関連を考えてから授業に臨む 事後学修：学習した内容を自身の活動に活かせるように整理し、各自が希望する将来の活動領域における精神保健の課題を考え、最終レポートに反映させる。
評価方法と評価割合	授業回数の2/3以上の出席者を評価対象とする 最終レポート80%、授業内でのディスカッション参加20%
テキスト	授業内で提示する
参考書	精神障害者支援の思想と戦略 QOLからHOLへ 田中英樹 金剛出版 2018
履修する上で必要な要件	
その他	

到達目標	1. 精神医療保険福祉に関する制度の現状と歴史的経過について理解できる 2. 精神医療保険福祉における理論と実践について理解できる 3. 当事者が地域で生活するために必要な制度と活用方法について理解できる
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	杉本圭以子：看護師 持田恵理：保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	精神科での看護師としての経験、保健師としての経験を活かしわかりやすく伝える。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	基盤看護学演習／Seminar in Fundamental Nursing
時間割コード／Course Code	R00003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	4.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子
コース ／course	研究者コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	30
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	石田佳代子/秦さと子/杉本圭以子/品川佳満/伊東朋子
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	基盤看護学における研究の方法について、さまざまな視点からその手技方策について、具体的に解説する。担当教員が専門とする内容をチュートリアル形式の演習によって展開し、看護活動のエビデンスを探究し、補完することができるような思考方法を養う。
授業計画	01-02. 看護における臨床推論に関するレビュー 03-04. フィジカルアセスメントの教育効果に関する研究 05-06. 嚥下機能評価：評価方法の現状と課題 07-08. 嚥下機能評価：評価方法の実際 09-10. 実験機器による看護活動のエビデンス：実験研究の方法 11-12. 実験機器による看護活動の実際；BIS及びNIRSを用いて 13-14. 質問紙による精神健康とQOLの評価方法 15-16. 質問紙による精神健康とQOLの評価の応用 17-18. 質問紙による睡眠の評価 19-20. 睡眠日誌 21-22. 心拍変動解析：心拍変動解析とは 23-24. 心拍変動解析：心拍変動と自律神経機能評価 25-26. 心拍変動解析：心電図測定 27-28. 心拍変動解析：測定データの処理 29-30. 心拍変動解析：測定データの解析一部オンライン
その他の授業の工夫	オムニバス方式で行い、多角的な視点から、看護活動のエビデンスを探究する。
時間外学修	担当教員が指示した課題についてレポートや発表プレゼンテーション資料を作成する。
評価方法と評価割合	出席状況：30% レポート課題：40% プレゼンテーション及びディスカッション：30%
テキスト	テキストは使用せず、参考図書等は別途資料を配布する。
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	詳しい講義内容やスケジュールは別途指示するが、履修者は後期開始までに、担当教員に連絡を取ること
到達目標	基盤看護学における研究の方法について、さまざまな視点からその手技方策について、テーマに沿って探究することができる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	石田佳代子：病院看護師 秦さと子：病院看護師 杉本圭以子：病院の看護師 伊東朋子：病院看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	看護実践の経験からその理論と研究手法、そのエビデンスについて指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	小児看護学特論／Seminar in Advanced Pediatric Nursing
時間割コード／Course Code	R10001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	草野 淳子
コース ／course	研究者コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	草野 淳子、足立綾
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	小児の各期における成長発達の特性と環境を理解し、小児と小児をとりまく環境との相互作用を理解するための理論と看護への活用方法を学ぶ。
授業計画	01. 科目オリエンテーション（草野） 02. 小児看護で用いる理論 /認知発達理論・セルフケア理論（草野） 03. 小児看護で用いる理論/家族看護の理論ストレスコーピング/事例展開（草野） 04. 愛着理論（草野） 05. 小児の栄養（草野） 06. 小児の成長・発達の評価と家族支援（草野） 07. 小児の成長発達と遊びの支援（草野） 08. 児童虐待の問題・愛着形成の障害（草野） 09. 地域でのプライマリヘルスケア/小児と家族を取り巻く環境と社会的資源（草野） 10. 小児医療における生命倫理・インフォームドアセント・プリパレーション（足立） 11. 予防接種の動向、疾患がある児への対応（足立） 12. 糖尿病の小児看護の実際（草野） 13. 障害をもつ児と家族への支援/在宅支援（草野） 14. 小児看護に関する研究の視点/スタッフ教育のための指導案の立案（草野） 15. 課題レポート発表（草野・足立）
その他の授業の工夫	小児看護に関連した理論をDVDなどを用いて説明する。 小児看護をより深く理解できるようにな講義内容を適宜更新を説明する。
時間外学修	シラバスの授業内容に関する資料からの予習・復習(10h)、課題レポートの作成や発表の準備(27 h)
評価方法と評価割合	課題レポートの完成度、およびプレゼンテーションなどを評価する。 課題レポート（50%）、プレゼンテーション(30%)、授業における討論参加状況(20%)
テキスト	適宜ハンドフリーの資料を配布する
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 小児の各期における成長発達の特性と環境を理解し、小児と小児をとりまく環境との相互作用を理解するための理論と看護への活用方法が説明できる。 2. 小児看護に関係する原著論文を読み、概略をまとめ自分の考えを述べることができる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	草野 淳子：保健所の保健師 足立 綾：大学病院の小児科の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	産科病棟（新生児看護、出産後の母子愛着形成）、保健所保健師（未熟児訪問、乳幼児健診、母子の自主グループ活動）、病院小児科（小児に特有な疾患を持つ小児の看護、外来看護）
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	臨床経験を踏まえて、小児の発達過程の特質の理解を促す。また、小児の行動を多面的にとらえ、発達段階に応じた日常生活の援助方法と健康障害がある小児の疾患と援助方法を教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力、4.特別研究を通して得た、研究分野の論文をレビューする力、課題を洞察する力、データを分析する力を身に
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	成人看護学特論／Advanced Adult Nursing
時間割コード／Course Code	R10002
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	古賀 雄二
コース ／course	研究者コース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	古賀雄二
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	EBN に基づいたケアを提供できる実践能力を高めるために、成人期の発達課題や健康問題への理解を深め、健康の段階に応じた看護を実践するための理論と方法及び疾病予防・健康増進について探究する。
授業計画	01. 成人看護領域における現代の臨床課題の明確化 02. 成人看護領域における自己の経験に基づいた課題の探究 03. 成人教育・看護研究の変遷と動向 04. 成人看護における医療と福祉の制度と体制 05. 成人看護学領域における看護理論とは 06. 成人看護における自己の実践事例のまとめ 07. 成人看護における自己の実践事例の分析（1）看護理論に基づいて 08. 成人看護における自己の実践事例の分析（2）看護理論に基づいて 09. 自己の実践事例の発表（1） 10. 自己の実践事例の発表（2） 11. 実践事例の発表における討議（1） 12. 実践事例の発表における討議（2） 13. 実践事例の発表における討議（3） 14. まとめ 15. 発表原稿の評価・修正およびレポート作成
その他の授業の工夫	現代の成人看護領域における臨床課題の探究および看護理論の理解を深めつつ、自己の実践事例を振り返ることで、その意味づけを行う事ができるよう、課題や分析方法を提示する。自己の事例分析を通して、看護理論の理解を深められるよう講義を工夫している。
時間外学修	成人看護における自己の実践事例および分析は講義への準備として時間外学修とする。
評価方法と評価割合	講義への参加態度：10% 成人看護における自己の実践事例の分析レポートおよび発表：50% まとめのレポート：40%
テキスト	指定のテキストは無し 講義は、担当教員が準備する資料に基づき行います。
参考書	学生の学習テーマに合わせて指定する。
履修する上で必要な要件	学生の臨床経験に合わせた事例をふまえて授業をすすめるので、臨床経験があること望ましい。
その他	
到達目標	EBN に基づいたケアを提供できる実践能力を高めるための具体的な提案を示すことができる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	古賀雄二：臨床における看護師の経験10年以上
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	担当教員の各専門領域における成人期の看護実践経験を活かし、学生の実践事例を共有しながらともに課題の探求を行う。学生の興味関心が高まるよう学生の看護実践と看護理論とを関連づけて看護の意味づけを行い、EBNに基づいた看護実践の理解を深め、質の高い看護を探究できるよう支援する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力、3.研究に必要な英語原著論文読解力と英語論文を書く基礎力、4.専門分野の研究論文を批判的にレビューする能力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	老年看護学特論／Advanced Gerontological Nursing
時間割コード／Course Code	R10003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	小野 美喜
コース ／course	研究者コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期後半、別途指示
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	小野美喜● 堀 裕子●
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	高齢者を取り巻く課題や健康問題をとらえ、エビデンスにもとづいたケアを提供するために理論と方法について探求する
授業計画	01 高齢者を取り巻く社会と健康課題・看護課題（小野美） 02 高齢者理解のための理論：発達理論・ICFモデル（小野美） 03 高齢者看護における倫理的課題（小野美） 04 高齢者看護の倫理的課題へのアプローチ（小野美） 05 高齢者のケア実践と理論；ストレングスモデル（堀） 06 高齢者のケア実践と理論；ストレングスモデルと実践に関する討論（堀） 07 高齢者のケア実践と理論；コンフォート理論（小野美） 08 高齢者のケア実践と理論；コンフォート理論と実践に関する討論（小野美） 09 認知症ケア（堀） 10 認知症ケア事例と討論（堀） 11 終末期ケア（堀） 12 終末期ケア事例と討論（堀） 13 高齢者のための高度実践看護の展望（小野美） 14 高齢者のための高度看護実践事例と討論（小野美） 15 学習課題のまとめ（レポート）
その他の授業の工夫	授業は受講者の学習計画に対応し、時間割を柔軟に設定します。毎週もしくは集中講義等の別を調整決定し進行します。履修登録時にご相談ください。理論の事前学修をもとにした経験事例を報告と討議により、内容の理解を深めていきます。
時間外学修	経験事例の発表の準備、課題学習については時間外学習となります。文献等を活用して学習活動をしてください。
評価方法と評価割合	プレゼンテーションと意見交換（70%）、レポート（30%）にて評価する。
テキスト	ハンドアウトの資料配布および初回授業に各回の参考文献の紹介をする
参考書	筒井真優美編集 看護理論家の業績と理論評価 第2版（医学書院） 看護理論：看護理論21の理解と実践への応用 （南江堂） キャサリン・コルカバ著／太田喜久子監訳 コルカバ コンフォート理論 理論の開発過程と実践への適用（医学書院） 日本看護倫理学会監修 看護倫理ガイドライン （看護の科学社） 萱間真美著 対話でリカバリーを支えるストレングスモデル実践活用術（医学書院）
履修する上で必要な要件	特にありません

その他	
到達目標	1. 高齢者に取り巻く社会課題と看護の課題が説明できる 2. 高齢者への看護実践に有用な理論が説明できる 3. 高齢者ケアに有用な理論の学びと実践への適用課題について説明することができる
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野美喜：病院の看護師 堀 裕子：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	看護師としての実践経験を通して学習者の皆さんと医療保健福祉の環境下にいる高齢者の看護を共に考えていきます
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	熟練した看護実践能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	生殖看護学特論
時間割コード／Course Code	R10004
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	濱 耕子
コース ／course	研究者コース
必修・選択 ／	選択
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	前期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	濱耕子 樋口幸
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	思春期、成熟期、更年期、老年期の各ライフステージにおける女性の身体的、精神的、社会的特徴と看護問題を考察し、その看護援助の方法およびセルフケアのための教育のあり方について探求する。さらに女性とその家族における望ましい周産期ケアについて考究する。また、現在の日本や海外における母性・助産活動の現状と課題について探求する。
授業計画	01. リプロダクティブヘルスケア1 02. リプロダクティブヘルスケア2 03. 思春期女性の健康問題と看護1 04. 思春期女性の健康問題と看護2 05. 成熟期女性の健康問題と看護1 06. 成熟期女性の健康問題と看護2 07. 更年期女性の健康問題と看護1 08. 更年期女性の健康問題と看護2 09. 女性の健康問題と看護1 10. 女性の健康問題と看護2 11. 望ましい周産期ケア1 12. 望ましい周産期ケア2 13. 日本における母性・助産活動の現状と課題1 14. 日本における母性・助産活動の現状と課題2 15. 世界における母性・助産活動の現状と課題1 16. 世界における母性・助産活動の現状と課題2
その他の授業の工夫	受講者の臨床経験や研究課題にあわせて講義内容を検討する。 講義や学生の発表後に討議し内容の理解を深める。
時間外学修	事前学修：事前課題のレポート作成。 事後課題：配布資料等を用いて復習する。事後課題のレポート作成。（合計45h）
評価方法と評価割合	受講態度（発表含む）：50% 提出レポート等：50%
テキスト	講義の中で適宜資料を配布する。

参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<p>1. リプロダクティブ・ヘルス／ケアの基本概念を説明できる。</p> <p>2. 思春期、成熟期、更年期、老年期の各ライフステージにおける女性の身体的、精神的、社会的特徴と看護問題を説明できる。</p> <p>3. 2.を踏まえた看護援助の方法およびセルフケアのための教育のあり方について述べることができる。</p> <p>4. 現在の日本や海外における母性・助産活動の現状と課題や日本における望ましい周産期ケアについての自身の考えを述べることができる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<p>濱耕子：病院の助産師</p> <p>樋口幸：病院の助産師</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基づいた看護と臨床経験を生かした看護・助産を実践し、その理論と確かな技術を学生に教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力、4.専門分野の研究論文を批判的にレビューする能力、5.教員指導の下で、専門分野の研究課題洞察力、データ分析力、研究計画立案力、研究遂行力・論文作成力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	発達看護学演習
時間割コード／Course Code	R10005
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	4.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	濱 耕子
コース ／course	研究者コース
必修・選択 ／	選択
授業回数	16
開講時期 ／Semester term	別途指示
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	濱耕子 樋口幸 草野淳子 古賀雄二 小野美喜
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	看護実習や看護実践の場で経験した各発達段階、各健康の段階の患者や家族への看護援助を題材に、その看護過程を再評価する。これらの対象と家族の健康問題に対する看護支援のあり方について、文献検討やチュートリアル形式の演習を通して、理論的、実証的に追求し、生命、生活の質の向上を目指した看護実践能力とケアシステムを開発し、確立できる能力を高める。
授業計画	下記の領域の中から専攻領域を選択する。 <生殖看護学領域> 思春期、成熟期、更年期、老年期の各ライフステージにおける女性とその家族の健康の維持・増進や健康逸脱時の援助について探求する。 <小児看護学領域> 乳児期から学童期までを中心に、小児の成長・発達の評価および家族指導について演習する。 <成人看護学領域> 成人期にある対象の生活をとりえ、急性期・回復期・慢性期・終末期における健康問題やケア方法を探求する。 <老年看護学領域> 老年期にある対象の生活をとりえ、加齢に伴う健康問題やケア方法を探求する。
その他の授業の工夫	受講者の臨床経験や研究課題にあわせて講義内容を検討する。 講義や発表後に討議し内容の理解を深める。
時間外学修	事前に記録物、レポート等の課題を課す。事後に配布資料を用いて復習する。（合計45h）。
評価方法と評価割合	出席状況および記録物、レポート等を考慮して評価する。
テキスト	講義の中で適宜資料を配布する。
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 各領域（生殖看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学）に関連した理論またはその実践例について説明する。 2. 各発達段階（妊産婦、乳幼児、成人、高齢者）における健康問題の特徴やニーズに応じた看護実践例や提供方法について説明する。 3. 各領域における最新の知見やエビデンスに基づく看護実践、患者の健康状態を最適化する介入のための計画・実践例について説明する。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	濱耕子：病院の助産師 樋口幸：病院の助産師 草野淳子：保健所の保健師 古賀雄二：病院の看護師 小野美喜：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基づいた看護と臨床経験を生かした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に教授する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力、3.研究に必要な英語原著論文読解力と英語論文を書く基礎力、4.専門分野の研究論文を批判的にレビューする能力、5.教員指導の下で、専門分野の研究課題洞察力、データ分析力、研究計画立案力、研究遂行力・論文作成力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	地域看護学特論／Advanced theory of community health nursing
時間割コード／Course Code	R20001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	川南 公代
コース ／course	研究者コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	川南公代、小野治子
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	地域社会におけるヘルスプロモーションおよびプライマリヘルスケアの概念やそのアプローチ方法、健康の保持・増進を支援するための理論と概念、活動方策を習得する。さらに、個人・家族・集団・地域社会の視点、家庭・職場・学校・国際社会の視点、全てのライフステージの視点という広域的に看護活動の意義、目的、機能、役割を探究する。
授業計画	01. 広域看護学の概念と対象 02. 保健師のコアコンピテンシー 03. 公衆衛生看護の歴史 04. 公衆衛生看護実践と技術の特徴 05. 公衆衛生看護管理の機能 06. 地域全体への公衆衛生看護技術 07. 個人・家族への公衆衛生看護技術① 08. 個人・家族への公衆衛生看護技術② 09. 集団への公衆衛生看護技術① 10. 集団への公衆衛生看護技術② 11. 地域アセスメント① 12. 地域アセスメント② 13. 評価・施策化による公衆衛生看護活動の推進 14. 学校における公衆衛生看護活動 15. 産業における公衆衛生看護活動
その他の授業の工夫	公衆衛生と公衆衛生看護の実践者による講義が含まれる。
時間外学修	講義後は示された資料や関連分野の文献・書籍等を読み、公衆衛生看護に関する用語やシステムの理解を深めること。
評価方法と評価割合	授業参加度：40%、提出物：40%、レポート：20%
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会におけるヘルスプロモーションおよびプライマリヘルスケアの概念について、説明できる。 ・健康の保持・増進を支援するための理論と概念、活動方策について、説明できる。 ・広域的に看護活動の意義、目的、機能、役割について、考察できる。

実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	川南公代：行政の保健師、小野治子：高等学校の養護教諭、
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実践してきた豊富な保健活動の経験をもとに学生を指導する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	国際看護学特論／Advanced International Nursing
時間割コード／Course Code	R20002
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	桑野 紀子
コース ／course	研究者コース、地域看護学コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	15
開講時期 ／Semester term	後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	桑野紀子、篠原彩
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	<p>グローバル社会における健康問題についてGBD、DALYの視点から概観し、国際情勢や気候変動等ブラネタリーヘルスの視点とも関連付けながら、健康問題の背景要因や対策について考察する。</p> <p>また、或る国や地域に着目し、その保健医療福祉制度や背景にある歴史・文化・社会的特徴について調べ、プレゼンテーション・ディスカッションを通して学ぶ（着目する国・地域は学生の興味により選択する）。調べ学習では、国際機関等から英語で最新の情報を得て、データを整理・解釈する力を養う。さらに、諸外国と日本の保健医療制度の比較を通して、日本の保健医療福祉の特徴について理解を深め、看護の視点から今後の課題等についてディスカッションする。また、在留・訪日外国人の健康支援について、ケースをもとに、看護職に必要な異文化への対応力についてディスカッションする。</p>
授業計画	<p>01. 導入：国際保健（Global Health）・国際看護の主要概念等</p> <p>02. 世界の疾病構造の現状と課題、Global Burden of Diseaseから見た健康課題</p> <p>03. 紛争等国際情勢の変化と健康課題</p> <p>04. 気候変動等環境変化と健康問題</p> <p>05-06. 諸外国の保健医療福祉制度</p> <p>07-10. 或る国・地域に関するテーマ設定、国際機関ホームページ等からの情報収集、整理・解釈</p> <p>11-13. 選択テーマに関するプレゼンテーション・ディスカッション</p> <p>14-15. 07-13.をふまえ、日本の保健医療福祉の特徴や課題の考察、ディスカッション</p>
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜小グループでのディスカッションを組み込む ・世界の保健医療情報を国際機関等から収集し、英語での情報収集能力向上を図る ・プレゼンテーションを課することで主体的な学習を促す
時間外学修	<p>事前学習：提示された課題について情報収集・事前学習を行い、プレゼンテーション準備を通じて理解を深める。</p> <p>事後学習：授業でのディスカッションの内容と学びを振り返る。</p>
評価方法と評価割合	<p>平常点（講義で複数回提出を求めるミニレポート等）（20%）</p> <p>プレゼンテーション（40%）：発表内容について、質疑等を通して評価する。</p> <p>ディスカッションへの参加度（40%）</p>
テキスト	<p><教科書></p> <p>指定なし</p> <p><参考書></p> <p>授業内容に応じてその都度紹介する。</p>

参考書	Marilyn Douglas, Dula Pacquiao, Larry Purnell (2018) Global Applications of Culturally Competent Health Care: Guidelines for Practice. Springer Nature.
履修する上で必要な要件	特になし
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会における健康課題に関して、背景要因や対策について考えを述べることができる ・諸外国と日本の保健医療制度を比較し、日本の保健医療福祉の特徴について述べるができる ・在留・訪日外国人の健康支援について、看護職に必要な異文化への対応力について考えを述べるができる
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	桑野紀子：看護師、保健師、助産師 篠原 彩：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	異文化看護実践、国際比較研究や海外の研究者との共同研究の経験をふまえ、グローバル社会における看護について探求し、指導に反映する。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力、3.研究に必要な英語原著論文読解力と英語論文を書く基礎力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力、3.研究に必要な英文原著論文を読める力、情報処理能力、及び研究に関する能力、4.特別研究と通して得た、研究分野の論文をレビューする力、課題を洞察する力、データを分析する力を身に
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、3.地域社会全体の健康レベルをアセスメントできる能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	放射線保健学特論／Advanced Radiological Health
時間割コード／Course Code	R20003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	小嶋 光明
コース ／course	研究者コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	12
開講時期 ／Semester term	後期後半
学年 ／Grade	1年
担当教員 ／	小嶋光明、恵谷玲央
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	医療で用いられる放射線・放射性物質および環境中の放射線源から受ける放射線被ばくの理解と、被ばくに伴う健康影響・リスクについての基礎的な知識を教授する。
授業計画	01. 放射線とは何か 02. 生活の中の放射線と放射性物質 03. 放射線の線量 04. 放射線の健康影響（組織反応） 05. 放射線の健康影響（がんと遺伝性影響） 06. 医療における放射線利用（診断） 07. 医療における放射線利用（治療） 08. 医療における患者の被ばく 09. 妊娠と胎児影響 10. 医療放射線のリスクとネベフィット 11. 放射線従事者の健康診断 12. 原子力災害と看護職の役割
その他の授業の工夫	基礎的事項以外に、ハンドアウトを配布して最新の動向も並行して紹介する。
時間外学修	テキストをあらかじめ予習し講義の臨む。
評価方法と評価割合	筆記試験：60%、口述試験：40%
テキスト	看護と放射線 ー放射線を正しく理解するー（公益社団法人日本アイソトープ協会）
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	放射線の健康影響とそのリスクを説明できる
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務 経験の有無 ／Practical experience of non- teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	広域看護学演習／Simulated training of community health nursing
時間割コード／Course Code	R20004
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	4.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	桑野 紀子
コース ／course	研究者コース、地域看護学コース、看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	30
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	桑野紀子、福田広美、川南公代、持田恵理
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	公衆衛生看護、看護管理、国際看護等における最新のトピックスを扱った論文を取り上げ、各教員が分野ごとにチュートリアル方式で演習を行う。
授業計画	01. 看護サービスに関する研究 02. 看護サービス提供体制に関する研究 03. 人的資源に関する研究 04. 安全対策・リスクマネジメントに関する研究 05. 管理者・管理活動に関する研究 06. 組織・組織行動に関する研究 07. 制度・政策に関する研究 08. 研究成果の活用と普及 09. 政策に影響を与える影響 10. まとめ 11. 住民との協働による地域づくりに関する研究 12. 産業保健に関する研究 13. 学校保健に関する研究 14. 地域における母子保健・子育て支援に関する研究 15. 地域における生活習慣病予防に関する研究 16. 地域における介護予防に関する研究 16. 地域における薬物・アルコール依存に関する研究 17. 地域における要介護高齢者に関する研究 18. 地域における難病療養者に関する研究 19. 公衆衛生看護管理に関する研究 20. まとめ 21. 国際看護学の概要（Introduction） 22. 国際機関、世界保健統計について 23. 世界の健康リスク：感染性疾患に関する研究1 24. 世界の健康リスク：感染性疾患に関する研究2 25. 世界の健康リスク：非感染性疾患に関する研究1 26. 世界の健康リスク：非感染性疾患に関する研究2 27. 多様な文化社会的背景をもつ対象者の看護に関する研究 28. 世界の保健医療における人的資源に関する研究 29. 渡航医療に関する研究 30. まとめ

その他の授業の工夫	事前課題およびグループディスカッション、プレゼンテーションを中心としたアクティブラーニング 英語論文講読（英語の原著論文への理解を深める）
時間外学修	・公衆衛生看護、看護管理、国際看護に関する研究論文の精読とレジメの作成等、グループディスカッションやプレゼンテーションの事前準備を時間外学修とする。
評価方法と評価割合	出席状況、討議内容、レポートを総合的に考慮して行う（100％）。
テキスト	特になし。都度担当教員から資料を提示する
参考書	看護管理学習テキスト第2巻 看護サービスの質管理. 監修：井部俊子, 編集：秋山智弥.（日本看護協会出版会） 公衆衛生看護学 第5班 データ更新版（インターメディカル） Marilyn Douglas, Dula Pacquiao, Larry Purnell (2018) Global Applications of Culturally Competent Health Care: Guidelines for Practice.（Springer Nature）
履修する上で必要な要件	特になし
その他	
到達目標	受講生が取り組む研究テーマについて、公衆衛生看護、看護管理、国際看護を含めた広域的な視点で情報を収集・統合し、概要を述べることができる
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	桑野紀子：看護師、保健師、助産師、福田広美：看護師、川南公代：保健所の保健師、持田恵理：市町村保健センターの保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力、4.専門分野の研究論文を批判的にレビューする能力、5.教員指導の下で、専門分野の研究課題洞察力、データ分析力、研究計画立案力、研究遂行力・論文作成力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力、4.特別研究を通して得た、研究分野の論文をレビューする力、課題を洞察する力、データを分析する力を身に
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	看護管理学演習／Nursing Administration Seminar
時間割コード／Course Code	RR0001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	4.0
学年／Year	2
主担当教員／Main Instructor	福田 広美
コース ／course	看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	選択
授業回数	60
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半、別途指示
学年 ／Grade	2年
担当教員 ／	福田広美 荒木章裕
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	<p>本科目は看護管理実践力を高めることを目的とする。看護管理実践に関する演習のテーマを検討し、演習テーマに関する情報の収集と分析を行い、看護管理の実践で取り組む課題に対し計画を立案する。さらに、立案した計画を実際に実践し評価を行う。最終的に文献等を活用した考察を行うことで、看護管理の実践向上に繋げる。</p>
授業計画	<p>01. ガイダンス・演習テーマの検討 看護管理の実践現場を振り返り、組織における近年の動向や将来ビジョンを踏まえて、本科目で取り組むテーマを検討する。</p> <p>02-09. 演習テーマに関する情報の収集と分析(1) 演習テーマに関する課題をより明確にするために、組織分析の手法を用いた情報の収集と分析を行う。情報収集は、演習テーマに関する客観的なデータを実践現場の協力を得ながら収集する。さらに、情報収集したデータを組織内の協力を得ながら分析を行う。情報収集と分析はプレゼンテーションと討論を通して課題を明確にする。</p> <p>10-19. 演習テーマに関する情報の収集と分析(2) 演習テーマに関する知見を広げ、理解を深めるために新たな看護管理の実践現場でフィールドワークを行う。このフィールドワークを通して得た情報を分析に活用し、計画で取り組む課題を明確にする。</p> <p>20-29. 演習テーマに関する目的・目標と計画の立案 演習テーマに関する情報収集と分析を通して明らかにした課題に対して、目的や目標を組織内の協力を得て検討し計画を立案する。目的や目標、計画に関するプレゼンテーションと討論を行い、より具体的な立案に繋げる。</p> <p>30-49. 演習テーマに関する計画の実践 演習テーマに関する計画について、組織内の協力を得ながら実践を行う。実践は、必要時に計画を修正しながら目的や目標を達成できるよう、実践に関するプレゼンテーションを行い、討論や意見交換を通してより良い実践を目指す。</p> <p>50-55. 演習テーマに関する実践の評価 演習テーマに関する計画の実践を振り返り評価を行う。実践に関する評価は、プレゼンテーションを行い討論や意見交換を通して、新たな目標や計画の策定に繋げる。</p> <p>56-60. 看護管理学演習のまとめ 演習テーマに関する情報収集、分析から計画、実践と評価に至るプロセス全体を振り返り、文献を活用した振り返りとまとめを行う。最終的にプレゼンテーションや意見交換を通して看護管理実践力の向上に繋げる。</p>
その他の授業の工夫	看護管理の実践現場において演習テーマを選び、フィールドワークや看護管理の実践、プレゼンテーションや討論、意見交換を通して実践力を高める。

時間外学修	事前学習：演習の進度に合わせて実践およびプレゼンテーション資料の作成を行う。事後学修：演習指導やアドバイス等をもとに追加修正を行い演習の実践を行う。（合計45時間）
評価方法と評価割合	看護管理学演習レポート：60%、フィールドワークレポート：20%、プレゼンテーション：10%、参加態度：10%
テキスト	
参考書	看護管理学習テキスト 第4版 第1巻 保健医療福祉制度・政策論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第2巻 看護サービスの質管理（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第3巻 人材管理論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第4巻 組織管理論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 第5巻 経営資源管理論（日本看護協会出版会） 看護管理学習テキスト 第4版 別巻 看護管理基本資料集（日本看護協会出版会）
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理実践に関するテーマを検討し、情報収集と分析を通して課題を明らかにできる。 ・優先度の高い課題に対して看護管理実践計画を立案することができる。 ・立案した看護管理実践計画を実践・評価を行うことができる。 ・看護管理実践を振り返り、今後に向けた考察を行うことができる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	福田広美：病院の看護師として勤務 荒木章裕：病院の看護師として勤務
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	有
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実務経験を活かして看護管理演習に関する教育を行う
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力、3.研究に必要な英文原著論文を読める力、情報処理能力、及び研究に関する能力、4.特別研究を通して得た、研究分野の論文をレビューする力、課題を洞察する力、データを分析する力を身に
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	原書講読演習／English reading practice
時間割コード／Course Code	T00001
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	2.0
学年／Year	1
主担当教員／Main Instructor	宮内 信治
コース／course	研究者コース、助産学コース、地域看護学コース、NPコース、看護管理・リカレントコース
必修・選択／	必修
授業回数	15
開講時期／Semester term	前期前半
学年／Grade	1年、2年
担当教員／	宮内信治
講義形態／Class Type	講義
オンライン授業の実施について／online	オンライン
科目の目的と概要	<p>英文法の基礎を再確認する。</p> <p>英語発音の基礎を再確認し、習得する。</p> <p>医療英語にかかわる語彙を習得、増強する。</p> <p>英語による原著論文の構成を知る。</p> <p>英語による原著論文の文法解析を行い、大意を把握する。</p>
授業計画	<p>01. 受講概要説明、教材配布・説明（１）（病名・臓器名）</p> <p>02. 教材配布・説明（２）（英文法・発音記号・医療語彙・論文構成）</p> <p>03. 解説と演習（１）（発音記号・医療語彙）</p> <p>04. 解説と演習（２）（英文法・論文構成）</p> <p>05. 解説と演習（３）（発音記号・医療語彙）</p> <p>06. 解説と演習（４）（英文法・論文構成）</p> <p>07. 解説と演習（５）（発音記号・医療語彙）</p> <p>08. 解説と演習（６）（英文法・論文構成・文法解析と大意解釈）</p> <p>09. 解説と演習（７）（発音記号・医療語彙）</p> <p>10. 解説と演習（８）（英文法・論文構成・文法解析と大意解釈）</p> <p>11. 解説と演習（９）（発音記号・医療語彙）</p> <p>12. 解説と演習（１０）（英文法・論文構成・文法解析と大意解釈）</p> <p>13. 解説と演習（１１）（発音記号・医療語彙）</p> <p>14. 解説と演習（１２）（英文法・論文構成・文法解析と大意解釈）</p> <p>15. 解説と演習（１３）（英文法・論文構成・文法解析と大意解釈）</p>
その他の授業の工夫	<p>研究者養成コース、健康科学専攻：課題演習を必修とする。講義参加は任意。単位取得は必修。</p> <p>広域看護学コース、助産学コース：課題演習を必修とする。講義参加は任意。単位取得は必修。</p> <p>NPコース：講義参加と課題演習を必修とする。単位取得は必修。</p> <p>看護管理・リカレントコース：課題演習を必修とする。講義参加は任意。単位取得は必修。</p>
時間外学修	<p>与えられた教材に基づき、次回受講までに以下の準備をしておく。</p> <p>（１）未知の語句を調べる</p> <p>（２）英語による原著論文の指定箇所を書写し、文法解析する</p>
評価方法と評価割合	課題（100％）4回以上講義を欠席した場合は単位を認定しない。
テキスト	担当教員が別途指定する。
参考書	チャート式 基礎からの新総合英語（数研出版 1,512円）

履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<p>文の要素を特定できる。</p> <p>修飾語句を特定できる。</p> <p>文法解析に従って日本語で原文の大意がとれる。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	3.研究に必要な英語原著論文読解力と英語論文を書く基礎力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	3.研究に必要な英文原著論文を読める力、情報処理能力、及び研究に関する能力
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力

開講科目名／Course	特別研究／Master's Thesis
時間割コード／Course Code	T00002
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	12.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	稲垣 敦
コース ／course	研究者コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	不特定
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	各学生の主・副指導教員（教授、准教授）
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	専攻領域のテーマに関するリサーチクエストを考え、これに答えるための研究計画を立て、計画遂行にかかる諸条件を整え、計画を実行し、データを分析し、修士論文を完成させるまでの一連の過程を、担当教員の指導の下で行う。
授業計画	<p>研究の進捗に応じて中間段階および審査後に報告会を行う。</p> <p>01 論文レビュー報告会 02. 研究計画報告会 03 研究中間報告会 04 研究成果報告会</p> <p>必要に応じて、研究倫理安全委員会に申請し、研究計画の審査を受ける。 論文提出期限までに、指導教員の承認を得た完成論文を提出する。</p>
その他の授業の工夫	研究指導では、Zoom等を活用する。
時間外学修	時間割上は授業時間を定めないので、各自で十分な時間を充てること。指導教員以外の教員に意見を求めても構わない。
評価方法と評価割合	3名の審査委員からなる審査を受ける。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	<p>指導教員が決まっていること。</p> <p>博士課程前期の学生としての基本的な研究能力を有すること。</p> <p>休学中ではないこと。</p> <p>在学年限内であること。</p>
その他	修了後、学術誌に投稿することが望ましい。
到達目標	科学的研究を公正に行え、論文を執筆できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	1.看護学に関する幅広い専門的見識、2.共通科目を通して獲得した、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析力、3.研究に必要な英語原著論文読解力と英語論文を書く基礎力、4.専門分野の研究論文を批判的にレビューする能力、5.教員指導の下で、専門分野の研究課題洞察力、データ分析力、研究計画立案力、研究遂行力・論文作成力
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	課題研究（広域看護）／Master's Thesis
時間割コード／Course Code	T00003
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	稲垣 敦
コース ／course	地域看護学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	不特定
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	各学生の主・副指導教員（教授、准教授）
講義形態 ／Class Type	講義
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	指導教員の下、実習での課題解決などのテーマを設定し、研究の一連のプロセスを学ぶことを目的に、事例研究、調査研究などを行う。 研究計画を立て、計画遂行にかかる諸条件を整え、計画を実行し、論文を完成させるまでの過程を担当の指導教員が指導する。修士論文とは違い、審査委員会による論文審査はない。
授業計画	01) 研究計画報告会 02) 研究中間報告会 03) 論文提出 04) 研究成果報告会
その他の授業の工夫	地域看護学、公衆衛生看護学に関連した文献をもとに抄読会を行う。
時間外学修	国内外の研究や看護実践現場の様子、最近のトピックスについて学びを深めていただきたい。
評価方法と評価割合	研究のプロセス及び論文の成果をもとに主指導教員が単位認定者として評価を行う。 修士論文のような論文審査を受けることもできる。
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	科学的研究を公正に行え、論文を執筆できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	無
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	

実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	1.対象者個人・家族の健康アセスメントを包括的にできる能力、2.対象者個人・家族のセルフケア能力を引き出し、自己変容を支援できる能力（グループの力を活用する）、4.地域社会の健康レベルを改善改革し向上させるマネジメント能力・リーダーシップ能力、5.地域社会の保健医療福祉システムやソーシャルキャピタルを活用および開発する能力、6.地域社会の課題を的確に評価し、健康政策を立案し、遂行できる能力、7.倫理的意思決定能力
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	課題研究（助産）／Master's Thesis
時間割コード／Course Code	T00004
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	稲垣 敦
コース ／course	助産学コース
必修・選択 ／	必修
授業回数	不特定
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	教授及び准教授
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	対面のみ
科目の目的と概要	指導教員の下、女性の妊娠、出産、産褥、新生児、乳児や女性の一生における健康課題、および夫をはじめ家族や地域における健康課題などからテーマを設定し、研究の一連のプロセスを学ぶことを目的に、調査研究、実験研究、文献研究、事例研究などを行う。 研究計画を立て、計画遂行にかかる諸条件を整え、計画を実行し、論文を完成させるまでの過程を担当の指導教員が指導する。修士論文と違い、審査委員会による論文の審査はない。
授業計画	1年次5月から、指導教員の下で、文献検索、テーマの決定、研究計画作成、研究の実施、論文作成を計画的に実施する。 01. 研究計画報告会：1年次8月 02. 研究中間報告会：2年次8月 03. 論文提出期限：2年次12月 04. 研究成果報告会：2年次3月
その他の授業の工夫	1年次10月から実習開始するため研究倫理・安全委員会への書類提出は、12月までに行うことが望ましい。 2年次5月から8月は、実習優先（夜間・待機）のため調査や実験は困難である。
時間外学修	事前学修：50% 事後学修：50% 合計50時間以上 1年次には、時間割に設定されていないため、授業のない時間を効率よく使い、担当の指導教員の指導を受ける。
評価方法と評価割合	受講態度：40% 論文、発表：60%
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	1. 健康課題などからテーマを設定した理由を述べることができる。 2. 研究目的に沿った研究方法を選択し、研究責任者として研究倫理安全委員会に計画書を申請し、研究実施、論文作成を主体的に実施できる。 3. 研究計画報告会、研究中間報告会、研究成果報告会の準備を主体的に行い、参加者からの意見を真摯に受け止め修正できる。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有

実務家教員詳細 ／Practical teacher details	草野 淳子：病院の看護師 杉本 圭以子：病院の看護師 樋口 幸：病院の助産師 姫野 綾：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	エビデンスに基いた助産(看護)を実践し、その理論と経験を活かした指導をする。
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	5.助産・助産学の発展に寄与できる研究開発能力、6.倫理的意思決定能力

開講科目名／Course	課題研究（NP）／Master's Thesis
時間割コード／Course Code	T00005
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	稲垣 敦
コース ／course	NPコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	不特定
開講時期 ／Semester term	前期前半、前期後半、後期前半、後期後半
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	各学生の主・副指導教員（教授、准教授）
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	医療福祉における課題をテーマ設定し、文献検討、研究計画、研究の実施、結果の考察、研究発表などの一連の研究活動を通して、研究の基礎を身につけるとともに、NPとしての今後の活動に活かすことを狙いとする
授業計画	文献講読、テーマ設定、研究計画の作成、実施、論文作成、発表までのプロセスを研究指導教員の指導を受けながら学生が主体的に進める
その他の授業の工夫	研究指導教員は主担当と副担当と2名体制で指導する
時間外学修	テーマに関する知見や考察は各自で文献等を通して深める
評価方法と評価割合	研究プロセスと論文提出、研究成果報告にて総合的に評価する（100%） 研究指導教員（主・副）が課題研究プロセスと論文内容と成果報告内容を評価する
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	関係団体の学会発表につながる成果報告とする
到達目標	科学的研究を公正に行え、論文を執筆できる。 修了後、学会大会で発表する。
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	小野美喜：看護師 他複数の研究指導教員
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無
教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	

DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意志決定能力
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	

開講科目名／Course	課題研究（看護管理・リカレント）／Master's Thesis
時間割コード／Course Code	T00006
開講所属／Course Offered by	大学院博士前期課程看護学研究科看護学専攻／
単位数／Credits	3.0
学年／Year	1,2
主担当教員／Main Instructor	稲垣 敦
コース ／course	看護管理・リカレントコース
必修・選択 ／	必修
授業回数	60
開講時期 ／Semester term	別途指示
学年 ／Grade	1年、2年
担当教員 ／	福田広美 荒木章裕
講義形態 ／Class Type	演習
オンライン授業の実施について ／online	一部オンライン
科目の目的と概要	看護管理学に関する幅広い専門的知識を学び、看護管理に関する問題解決や論理的思考力を高めるため、研究分野の論文をレビューし、課題とするテーマについて研究を行う。
授業計画	<p>担当教員の定期的な指導を通して以下を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.文献レビューと発表 2.研究計画の立案と発表 3.研究計画の実施と経過発表 4.データ分析・論文作成 5.研究結果の発表
その他の授業の工夫	研究の各ステップにおいて、自己学習とゼミを開催し本科目の目的を達成する。
時間外学修	研究の各段階において、文献収集、データ分析、論文執筆等の自己学習（時間外学習12時間）を行う。
評価方法と評価割合	参加：10%、発表：20%、論文：70%
テキスト	
参考書	
履修する上で必要な要件	
その他	
到達目標	<p>科学的研究を公正に行え、論文を執筆できる。</p> <p>修了後、学会大会で発表する。</p>
実務家教員の有無 ／Practical teacher	有
実務家教員詳細 ／Practical teacher details	<p>福田広美（病院の看護師として勤務）</p> <p>荒木章裕（病院の看護師として勤務）</p>
教員以外で指導に関わる者の実務経験の有無 ／Practical experience of non-teachers involved in teaching	無

教員以外で指導に関わる者の実務経験：内容 ／Contents of practical experience of non-teachers involved in teaching	
実務経験を生かした教育内容 ／Educational content utilizing practical experience	実務経験を活かして課題研究を教育する
DPとの対応（研究者） ／Response with DP (researchers)	
DPとの対応（看護管理・リカレント） ／Response to DP (nursing management / recurrent)	1.看護学に関する幅広い専門的知識および能力、2.共通科目を通して得た、問題解決能力、批判的・論理的思考力、分析および看護管理に関する能力、3.研究に必要な英文原著論文を読める力、情報処理能力、及び研究に関する能力、4.特別研究を通して得た、研究分野の論文をレビューする力、課題を洞察する力、データを分析する力を身に
DPとの対応（NP） ／DP(NP)	
DPとの対応（広域看護学） ／Correspondence with DP (Wide Area Nursing)	
DPとの対応（助産学） ／Correspondence with DP (Midwifery)	